

# 岩坪岡田島遺跡 手洗野赤浦遺跡 発掘調査報告 近世北陸道遺跡

— 能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告VI —

第一分冊



2007年

財団法人 富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告』正誤表

第一分冊

| 頁          | 行  | 誤                       | 正      |
|------------|----|-------------------------|--------|
| P7. 第2表    |    | (岩坪岡田島遺跡C5地区 出土遺物欄) 漆布? | 烏帽子    |
| P111       | 12 | 漆を塗布した布片                | 烏帽子の破片 |
|            | 13 | 布片                      | 烏帽子    |
| P152. 第14表 |    | (SE1009 出土遺物欄) 漆製品      | 烏帽子    |

第二分冊

| 頁    | 誤            | 正       |
|------|--------------|---------|
| 図版24 | 漆布出土状況 (2箇所) | 烏帽子出土状況 |



岩坪岡田島遺跡 遠景（南西から）



近世北陸道遺跡 全景（東から）



岩坪岡田島遺跡 C4地区 全景（真上から）



岩坪岡田島遺跡 1号道路（西から）



岩坪岡田島遺跡 10号地割れ（北西から）



岩坪岡田島遺跡 縄文土器



岩坪岡田島遺跡 猿面硯



岩坪岡田島遺跡 加工木(懸魚か)





手洗野赤浦遺跡 土器祭祀（北から）



手洗野赤浦遺跡 41号井戸（北から）



手洗野赤浦遺跡 曲物



手洗野赤浦遺跡 古瀬戸合子



手洗野赤浦遺跡 呪符木簡

岩坪岡田島遺跡  
手洗野赤浦遺跡 発掘調査報告  
近世北陸道遺跡

— 能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告VI —

第一分冊

2007年

財団法人 富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

# 序

能越自動車道は、北陸自動車道の小矢部・砺波JCTから北上して、高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道及び関連アクセス道の建設に伴い、当事務所では平成4年度から、その計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は平成10年度から13年度までの4箇年にわたり調査を実施した、高岡市に所在する近世北陸道遺跡・手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の発掘調査報告書です。

3遺跡の発掘調査の結果、古くは縄文時代前期後半から近世に至るまで、さまざまな時代の生活と開発の跡が明らかになりました。これらの集落跡には、地震や洪水といった自然災害を乗り越えて、村をつくり、田畑を耕して開発を進めてきた先人の足跡が刻まれています。また、時代の移り変わりとともに村の暮らしも少しずつ変わっていったことが読み取れます。特に岩坪岡田島遺跡では、平安時代の終わり頃には河川から水を得、漁をするなど自然に密着した生活が営まれていました。しかし、鎌倉時代になると台地上に道路を敷設し、用水を引き、多数の井戸を掘るなど、住みよい生活基盤を整えるため自然を改変する技術も生まれました。

こうした発掘調査の成果が、文献には表れない人々の生活をひもとく一助となり、今後の研究に活用されれば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関及び関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

所長 岸本雅敏

## 例 言

- 1 本書は富山県高岡市岩坪地内に所在する岩坪岡田島遺跡、同手洗野地内に所在する手洗野赤浦遺跡、同笹川地内に所在する近世北陸道遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は建設省北陸地方整備局（現 国土交通省北陸地方整備局）からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。  
調査期間 岩坪岡田島遺跡 平成11（1999）年10月18日～11月29日  
平成12（2000）年5月22日～12月19日  
平成13（2001）年5月22日～11月30日  
手洗野赤浦遺跡 平成11（1999）年5月21日～10月19日  
近世北陸道遺跡 平成10（1998）年6月10日～6月30日  
整理期間 平成14（2002）年4月1日～平成19（2007）年3月16日
- 4 本書の編集は、越前慎子が担当した。本文執筆は越前のほか、新宅 茜、町田賢一が担当し、執筆分担は文末に記した。
- 5 整理作業中に下記の方々の指導・助言等を受けた。  
珠洲……………吉岡康暢氏（前国立歴史民俗博物館）  
輸入陶磁器……………山本信夫氏（金沢大学埋蔵文化財調査センター）  
瀬戸美濃……………藤澤良祐氏（愛知学院大学）
- 6 遺物の写真撮影は、写房楠華堂、アオヤマスタジオに委託した。
- 7 自然科学的な分析は以下の諸機関に委託し、その成果について報文を得た。  
花粉分析・珪藻分析……………㈱古環境研究所、㈱パレオ・ラボ  
樹種同定……………㈱古環境研究所、(財)元興寺文化財研究所、㈱パレオ・ラボ  
種実同定・骨同定……………㈱パレオ・ラボ  
漆塗膜分析……………漆器文化財科学研究所  
上器成分分析……………バリノ・サーヴェイ株式会社  
放射性炭素年代測定……………㈱古環境研究所、(財)加速器分析研究所
- 8 木製品の年輪年代測定は光谷拓実氏（奈良文化財研究所）、呪符木簡の釈文は水野正好氏（(財)大阪府文化財センター）、石製品の石材鑑定は、砥石を㈱アルカ、その他を赤羽久忠氏（富山県科学文化センター）、噴砂地磁気測定は広岡公夫氏（大谷女子大学）、地震痕跡鑑定は寒川 旭氏（産業技術総合研究所）に依頼した。  
なお、光谷拓実氏、広岡公夫氏、寒川 旭氏より分析結果について玉稿を賜った。
- 9 絵図（礪波郡村々組繪圖）は、(財)高樹会から提供を受けた。
- 10 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々および機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）  
池野正男、上野 章、大岡由紀子、垣内光次郎、川崎 昇、木下 亘、窪寺 茂、栗山雅夫、酒井清治、佐々木孝雄、佐藤 隆、関 清、武部喜允、藤井昭二、藤井雅乘、藤永正明、宮崎泰史、安 英樹、山口辰一、山本典幸、高岡市教育委員会、富山県教育委員会

# 凡 例

- 1 本書は2分冊からなる。第一分冊には本文・挿図・一覧表，第二分冊には自然科学分析と写真図版を掲載する。
- 2 本文・挿図で扱った遺構・遺物は，一覧表に掲載している。
- 3 本書で示す方位は全て真北である。
- 4 挿図の縮尺は下記を基本とし，各図の下に縮尺率を示す。  
遺構 建物：1/100，溝：1/40・1/200，井戸1/20・1/40，土坑1/20・1/40  
遺物 土器・陶磁器：1/3～1/6，木製品：1/2～1/8，石製品：2/3～1/3  
金属製品：1/1～1/3
- 5 遺構の略号は以下のとおりである。  
SA：柵，SB：建物，SD：自然流路・溝・池，SE：井戸，SF：道路，SI：竪穴状遺構，SK：土坑，SP：柱穴，SX：その他
- 6 岩坪岡田島遺跡の遺構については，調査時に地区毎に付した番号に，下記のような数値を加算して遺構番号とした。番号は遺構の種類に関わらず連番号とするが，建物・柵・道路・土器集中地点には新たに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は，次のとおりである。但し複数の地区にわたる遺構は，小さい方の遺構番号で示す。  
A地区：加算せず，B1地区：+10，B2地区：+100，B3地区：+300  
C1～C3地区：+400，C4地区：+500，C6地区：+1100，C7地区：+1200
- 7 遺物は遺跡ごとに遺物番号を付し，本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は一致させてある。岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡については，土器陶磁器・木製品・石製品・金属製品・骨角製品ごとに連番を付し，出土状況中の遺物番号は，木製品は「木」，石製品は「石」，金属製品は「金」を冠して示す。
- 8 遺跡の略号は，岩坪岡田島遺跡「02 I O—地区名」，手洗野赤浦遺跡「02 T A」，近世北陸道遺跡「02 K H」で，遺物の注記には略号を用いた。
- 9 施釉陶器の釉の掛かる範囲は1点鎖線で示した。2種類以上の釉が掛かる場合や絵付けがされている場合はトレースの濃淡で示した。
- 10 遺物の煤付着部分及び漆器の赤色漆の部分等，遺構図中の地山及び炭化物等はスクリーントーンで示す。以下に図示したもの以外については図中に凡例を示した。



スス・コゲ



黒色漆  
(漆器輪・皿以外)



赤彩・赤色漆



墨痕



地山



地山  
(新削)



黒色土器 赤彩 (スクリーントーンと併用)

- 11 土層および遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』を参照した。また、土質については、建設業労働災害防止協会1973「土の種類の見分け方」『土止め支保工組立等の作業指針〔第1巻〕—作業主任者講習テキスト—』を参照した。
- 12 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考にした。  
 掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告Ⅵ』  
 井戸：宇野隆夫 1982「井戸考」『史林』第65巻第5号
- 13 遺物のうち、珠洲・輸入陶磁器・古瀬戸・瀬戸美濃の分類と編年に関する用語は以下の文献を参考にした。  
 珠洲：吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館  
 輸入陶磁器：山本信夫 2000『太宰府の文化財第49集 太宰府条坊跡Ⅳ—陶磁器分類編—』太宰府教育委員会  
 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会  
 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の型式分類について」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会  
 古瀬戸・瀬戸美濃：藤澤良祐他 2005「施釉陶器生産技術の伝播」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相—生産技術の展開と編年』中央大学文学部日本史学研究会
- 14 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。  
 ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。  
 ②規模・法量の（ ）内は現存長を示す。  
 ③胎土色調・釉色調は農林水産省技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』・財団法人日本規格協会『標準色票 光沢版』を使用し、釉色調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色が見られる場合は、最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

# 目 次

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 第Ⅰ章 調査経緯                       | 1   |
| 1 調査に至る経緯                      | 1   |
| (1) 調査の契機                      | 1   |
| (2) 分布調査                       | 1   |
| (3) 確認調査                       | 1   |
| (4) 本調査                        | 3   |
| 2 調査経過                         | 5   |
| (1) 調査方法                       | 5   |
| (2) 調査経過                       | 5   |
| (3) 調査指導                       | 8   |
| (4) 調査体制                       | 8   |
| (5) 普及活動                       | 9   |
| (6) 整理経過                       | 11  |
| (7) 整理体制                       | 12  |
| 第Ⅱ章 立地と歴史的環境                   | 14  |
| 1 立地                           | 14  |
| (1) 立地                         | 14  |
| (2) 地形                         | 14  |
| (3) 地質                         | 14  |
| 2 歴史的環境                        | 16  |
| (1) 地名の由来                      | 16  |
| (2) 既往の調査と知見                   | 19  |
| (3) 東大寺領荘園「須加村壱田地」との関係         | 24  |
| 3 周辺の遺跡                        | 24  |
| 第Ⅲ章 岩坪岡田島遺跡                    | 30  |
| 1 遺跡の概要                        | 30  |
| (1) 概要                         | 30  |
| (2) 土層                         | 32  |
| 2 遺構                           | 35  |
| (1) 縄文時代                       | 35  |
| (2) 古墳時代～古代                    | 40  |
| (3) 中世                         | 54  |
| (4) 中世末期～近世                    | 143 |
| 3 遺物                           | 155 |
| (1) 土器・陶磁器                     | 155 |
| (2) 木製品                        | 215 |
| (3) 石製品                        | 228 |
| (4) 金属製品                       | 232 |
| 4 地震痕跡                         | 255 |
| (1) A地区                        | 255 |
| (2) B地区                        | 255 |
| (3) C地区                        | 256 |
| (4) 手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡における地震痕跡の意義 | 256 |

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 第IV章 手洗野赤浦遺跡 ..... | 269 |
| 1 遺跡の概要 .....      | 269 |
| (1) 概要 .....       | 269 |
| (2) 土層 .....       | 269 |
| 2 遺構 .....         | 271 |
| (1) 掘立柱建物 .....    | 271 |
| (2) 柵 .....        | 274 |
| (3) 柱穴 .....       | 283 |
| (4) 溝・自然流路・池 ..... | 286 |
| (5) 井戸 .....       | 304 |
| (6) 土坑 .....       | 310 |
| (7) 畑 .....        | 321 |
| (8) 土器集中地点 .....   | 321 |
| 3 遺物 .....         | 329 |
| (1) 土器・陶磁器 .....   | 329 |
| (2) 木製品 .....      | 344 |
| (3) 石製品 .....      | 358 |
| (4) 金属製品 .....     | 358 |
| (5) 骨角製品 .....     | 358 |
| 4 地震痕跡 .....       | 366 |
| (1) 噴砂 .....       | 366 |

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 第V章 近世北陸道遺跡 ..... | 369 |
| 1 遺跡の概要 .....     | 369 |
| (1) 概要 .....      | 369 |
| (2) 土層 .....      | 369 |
| 2 遺構と遺物 .....     | 370 |
| (1) 溝 .....       | 370 |
| (2) 遺構外出土遺物 ..... | 370 |

|   |     |
|---|-----|
| 第VI章 考察 .....                           | 375 |
| 1 岩坪岡田島遺跡の縄文時代—富山県における縄文時代前期のあり方— ..... | 375 |
| 2 岩坪岡田島遺跡の古代～中世 .....                   | 391 |
| 3 手洗野赤浦遺跡の変遷—中世中頃～後期の方格地割集落— .....      | 399 |

|            |     |
|------------|-----|
| 参考文献 ..... | 407 |
|------------|-----|

## 報告書抄録

# 卷首図版目次

- 巻首図版1 岩坪岡田鳥遺跡遺景 近世北陸道遺跡全景  
 巻首図版2 岩坪岡田鳥遺跡 C4地区全景 1号道路 10号地割れ  
 巻首図版3 岩坪岡田鳥遺跡縄文土器 猿面硯 加工木(懸魚か)  
 巻首図版4 岩坪岡田鳥遺跡 508号井戸出土遺物  
 巻首図版5 手洗野赤浦遺跡 土器祭壇(41号井戸)  
 巻首図版6 手洗野赤浦遺跡 曲物 古瀬戸合子 呪符木簡

## 挿図目次

- 第1図 調査位置図  
 第2図 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地位図  
 第3図 調査地区区割図  
 第4図 現地説明会・記者発表報道記事  
 第5図 地形図  
 第6図 遺跡の位置1  
 第7図 遺跡の位置2  
 第8図 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田鳥遺跡調査位置  
 第9図 岩坪岡田鳥遺跡 財団調査C1～C7地区と高岡市教育委員会調査地区  
 第10図 岩坪岡田鳥遺跡 高岡市教育委員会調査地区出土遺物  
 第11図 東大寺領須加村墓田地關係図  
 第12図 周辺の遺跡  
 第13図 岩坪岡田鳥遺跡 基本層序  
 第14図 岩坪岡田鳥遺跡 縄文時代遺構全体図  
 第15図 岩坪岡田鳥遺跡 縄文時代遺構実測図 SX1121  
 第16図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SI1 SD696  
 第17図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SB1 SB2 SA1  
 第18図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SB1 SB2 SA1 SK27  
 第19図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SI1 SD506 SD579 SD696 SD697 SD737 SD744  
 SD745 SD838 SD843 SD917 SD1379 SD1390  
 SD1501 SK507 SK743 SK844 SK847 SK851  
 SK1297 SK1298 SK1356 SK1378 SK1432  
 土器集中10  
 SD401 SD606 SD579 SD697 SP513  
 第20図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SD737 SD744 SD745 SD837 SD838 SD843 SD917  
 SD1379 SD1390 SD1501 SK743 SK836 SK844  
 第21図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SK847 SK851  
 SK1432  
 第22図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 土器集中地点10  
 SB3 SB4 SA2～SA4 SD104 SD140 SD141 SD142  
 SK105  
 第23図 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代遺構実測図 SB3 SA2～SA4 SK144  
 SB4  
 第24図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB5～SB7 SA5 SP217 SD150  
 第25図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB5～SB7 SA5  
 第26図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB8～SB11  
 第27図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB8 SK1323  
 第28図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB9 SB10 SB11  
 第29図 岩坪岡田鳥遺跡 中世遺構実測図 SB12～SB15

|      |         |              |  |
|------|---------|--------------|--|
| 第33回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB12 SB13  |
| 第34回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB14 SB15 SK759  |
| 第35回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB16~SB18  |
| 第36回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB16 SB17 SK640 SK695  |
| 第37回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB19 SB20  |
| 第38回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB18 SB20  |
| 第39回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB19   |
| 第40回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB21~SB23  |
| 第41回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB21 SB22  |
| 第42回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB23 SB24  |
| 第43回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB25 SB26  |
| 第44回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB25 SB26  |
| 第45回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SD1  |
| 第46回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SD11 SD103   |
| 第47回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SD11 SD103   |
| 第48回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SD301 SD302 SD327 SD329  |
| 第49回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      | SB12~SB26 SD401~SD403 SD829 SD846<br>SD914~SD916 SD1209 SD1370 SD1413 SD1454<br>SD1485 SD1504 SF1<br>SD401~SD403 SD829 SD846 SD917 SD1209<br>SD1370 SD1413 SD1454 SD1485<br>SD414~SD417 SD437 SD624 SD925<br>SD401 SD1370 SF1<br>SF1<br>SD914~SD916<br>SD453 SD1004 SD1005 SD1007 SD1008 SD1011<br>SD1005 SD1007 SD1008 SD1011 SK1004<br>SD1104<br>SE451<br>SE503 SE504<br>SE508 SE693<br>SE716 SE850<br>SE1001<br>SE1001 井戸欄構造<br>SE1006 SE1009<br>SE1101~SE1103 SE1105<br>SE1106 SE1116 SE1119 SE1120<br>SE1204 SE1205 SE1229<br>SD1501 SE1260 SE1291 SE1299<br>SK189 SK412 SK413 SK428 SK429 SK439<br>SK450 SK466 SK467<br>SK505 SK514 SK536 SK540 SK562 SK578 SK607<br>SK645<br>SK673 SK727 SK845 SK891 SK896 SK903<br>SK1003<br>SK1108 SK1208 SK1213~SK1218 SK1221<br>SK1219 SK1220 SK1223 SK1226 SK1230 SK1231<br>SK1241 SK1266<br>SD1504 SK1277 SK1278 SK1294 SK1296 SK1300<br>SK1301~SK1305 SK1313 SK1326<br>SK1371 SK1373 SK1374 SK1444 SK1445 SK1477<br>SK1478 SK1480<br>SD1~SD3 SD102 |
| 第50回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第51回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第52回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第53回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第54回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第55回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第56回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第57回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第58回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第59回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第60回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第61回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第62回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第63回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第64回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第65回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第66回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第67回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第68回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第69回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第70回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第71回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第72回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第73回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第74回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第75回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第76回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第77回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世遺構実測図      |  |
| 第78回 | 岩坪岡田島遺跡 | 中世末期~近世遺構実測図 |  |

|       |         |       |        |  |
|-------|---------|-------|--------|--|
| 第79回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SX1121   |
| 第80回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SX1121   |
| 第81回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 土器集中地点1 土器集中地点6 土器集中地点8  |
| 第82回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 土器集中地点8  |
| 第83回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SX1121 土器集中地点8 土器集中地点9 包含層   |
| 第84回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 土器集中地点7 土器集中地点9  |
| 第85回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SI1 SD506 SD79 SD696   |
| 第86回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD697 SK507 SK847 SK1297 SK1298 SK1378 SK1432  |
| 第87回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 土器集中地点10   |
| 第88回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SB3 SB5 SB16 SB17 SB23 SB25 SB26 SA4 SP217   |
| 第89回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD4 SD11   |
| 第90回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD102~SD104 SD140 SD301  |
| 第91回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD301  |
| 第92回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD301  |
| 第93回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD301  |
| 第94回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD301  |
| 第95回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD301 SD401 SK404  |
| 第96回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD401  |
| 第97回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD402 SD414 SD415 SD453  |
| 第98回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SD453 SD914 SD1104 SD1209 SD1485 SD1504  |
| 第99回  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SE451 SE503 SE504 SE508  |
| 第100回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SE508 SE1001   |
| 第101回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SE1006 SE1101 SE1103 SE1105 SE1106   |
| 第102回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SE1204 SE1205 SE1229 SE1299  |
| 第103回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SK144 SK189 SK404 SK429 SK450 SK510 SK562 SK607 SK727 SK743 SK845 SK891 SK896 SK903 SK1296 |
| 第104回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | SK1003 SK1241 SK1300 SK1371 SK1402 SK1477 SX10 SX12  |
| 第105回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第106回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第107回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第108回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第109回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第110回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第111回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第112回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第113回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第114回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第115回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第116回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 土器・陶磁器 | 包含層  |
| 第117回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SD4 SD11 SD301 SE1001 SE1009 SE1291 SK1302 包含層   |
| 第118回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001   |
| 第119回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001   |
| 第120回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001   |
| 第121回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001   |
| 第122回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001   |
| 第123回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SE1001 SE1291  |
| 第124回 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 遺物実測図 | 木製品    | SB3 SB8 SD4 SD11 SD301 SE1001 SP234 SP1510 SX12 包含層  |

|       |         |       |      |   |                            |
|-------|---------|-------|------|---|----------------------------|
| 第125回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 木製品  | SD4 SD11 SE508  | 包含層                        |
| 第126回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 木製品  | SE451 SE1229 SK1301 SK1305 SX12   |                            |
| 第127回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 石製品  | SD301 SX1121  | 土器集中地点2 土器集中地点3<br>土器集中地点8 |
| 第128回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 石製品  | SD301 SE508   | 包含層                        |
| 第129回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 石製品  | SD301 SE504 SE1105 SK428  |                            |
| 第130回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 金属製品 | SD301 SK1208 SK1371   | 包含層                        |
| 第131回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 金属製品 | SD301 SD401 SE508 SE683 SE850 SE1001 SE1229<br>SE1299 SK404 SK743 SK1108 SK1278 SK129 | 包含層                        |
| 第132回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺物実測回 | 金属製品 | SB18 SP676 SD401 SD453 SD1485 SE451 SE503<br>SE504 SE508 SE850 SE1204 SK404 SK527     | 包含層                        |
| 第133回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ   |                            |
| 第134回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 噴砂 地割れ  |                            |
| 第135回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ (SX10)  |                            |
| 第136回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ (SX10) 噴砂   |                            |
| 第137回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ (SX10)  |                            |
| 第138回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ (SX12)  |                            |
| 第139回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 地割れ 噴砂 (SX211~SX243)  |                            |
| 第140回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 噴砂  |                            |
| 第141回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 噴砂  |                            |
| 第142回 | 岩坪岡田島遺跡 | 遺構実測回 | 地震痕跡 | 噴砂  |                            |
| 第143回 | 手洗野赤浦遺跡 | 基本層序  |      |   |                            |
| 第144回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB1~SB3 SP285   |                            |
| 第145回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB1~SB3   |                            |
| 第146回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB4~SB6   |                            |
| 第147回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB7~SB10  |                            |
| 第148回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB8~SB10  |                            |
| 第149回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB11 SB12   |                            |
| 第150回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SB11 SB12 SP23  |                            |
| 第151回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SA1 SA2   |                            |
| 第152回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SP51 SP53 SP54 SP65 SP126 SP135 SP152 SP157<br>SP191 SP205                            |                            |
| 第153回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD4 SD109 SD110 SD138 SD151 SK252   |                            |
| 第154回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD4 SD109 SD110 SD151 SK252   |                            |
| 第155回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD5 SD6 SD147 SD170 SD237   |                            |
| 第156回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD5   |                            |
| 第157回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD6 SD147 SD237   |                            |
| 第158回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD6   |                            |
| 第159回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD153 SD154   |                            |
| 第160回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD156 SD168 SD169   |                            |
| 第161回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD33 SD63 SD64 SD69 SD173~175 SD181<br>SD245 SD330                                    |                            |
| 第162回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD33 SD63 SD64 SD69 SD173~SD175 SD181<br>SD245  |                            |
| 第163回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD139~SD142 SD150   |                            |
| 第164回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SD216 SD236   |                            |
| 第165回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SE28  |                            |
| 第166回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SE40  |                            |
| 第167回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SE41  |                            |
| 第168回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SE158   |                            |
| 第169回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SE183   |                            |
| 第170回 | 手洗野赤浦遺跡 | 遺構実測回 |      | SK2 SK7~SK11  |                            |

|       |                    |         |   |
|-------|--------------------|---------|---|
| 第171回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SK12 SK26 SK27                            |
| 第172回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SK47 SK72                                 |
| 第173回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SK50 SK67 SK68 SK113 SK118 SK123          |
| 第174回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SK127~SK130 SK133 SK134                   |
| 第175回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SK155 SK182 SK185 SK193 SK194 SK229 SK230 |
|       |                    |         | SK231 SK235 SK248                         |
| 第176回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | SD80~SD97                                 |
| 第177回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | 中世土師皿集中地点出土状況                             |
| 第178回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第179回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
|       |                    |         | SD110 SD216 SE40 SK12 SK27 SK47 SK113     |
|       |                    |         | SK134 SK248                               |
| 第180回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第181回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第182回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第183回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第184回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第185回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 土器・陶磁器                                    |
| 第186回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第187回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第188回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第189回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第190回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第191回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第192回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第193回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第194回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第195回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 木製品                                       |
| 第196回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 竹製品                                       |
| 第197回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 石製品                                       |
| 第198回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺物実測図   | 金属製品                                      |
| 第199回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | 地震痕跡                                      |
| 第200回 | 手洗野赤浦遺跡            | 遺構実測図   | 地震痕跡                                      |
| 第201回 | 近世北陸道遺跡            | 遺構全体図   |   |
| 第202回 | 近世北陸道遺跡            | 遺構実測図   | SD1~SD3 SD5 SD6 SX4                       |
| 第203回 | 近世北陸道遺跡            | 遺物実測図   | SD1 SD2 包含層                               |
| 第204回 | 縄文時代早期末~前期中葉の土器変遷  |         |   |
| 第205回 | 縄文時代前期後葉~末葉の土器変遷   |         |   |
| 第206回 | 縄文時代前期の遺跡分布図       |         |   |
| 第207回 | 岩坪岡田島遺跡            | 縄文時代遺構  |   |
| 第208回 | 岩坪岡田島遺跡出土縄文土器      |         |   |
| 第209回 | 高岡市上野A遺跡の主な遺構と出土遺物 |         |   |
| 第210回 | 県内製塩土器出土遺跡の位置      |         |   |
| 第211回 | 7世紀の上器             |         |   |
| 第212回 | 岩坪岡田島遺跡出土鏡面硯 類例    |         |   |
| 第213回 | 岩坪岡田島遺跡の変遷(古代)     |         |   |
| 第214回 | 岩坪岡田島遺跡の変遷(中世)     |         |   |
| 第215回 | 手洗野赤浦遺跡の道路         |         |   |
| 第216回 | 手洗野赤浦遺跡            | 主要遺構実測図 |   |

# 表目次

|      |                         |                  |
|------|-------------------------|------------------|
| 第1表  | 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地・遺跡調査一覧 | 4                |
| 第2表  | 調査一覧                    | 7                |
| 第3表  | 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡概往の調査    | 19               |
| 第4表  | 周辺の遺跡                   | 27               |
| 第5表  | 岩坪岡田島遺跡 基本層序            | 33               |
| 第6表  | 岩坪岡田島遺跡 縄文時代            | 遺構一覧 36          |
| 第7表  | 岩坪岡田島遺跡 古代              | 建物一覧 52          |
| 第8表  | 岩坪岡田島遺跡 古墳時代～古代         | 柱穴一覧 52          |
| 第9表  | 岩坪岡田島遺跡 古墳時代～古代         | 溝一覧 53           |
| 第10表 | 岩坪岡田島遺跡 古墳時代～古代         | 土坑一覧 53          |
| 第11表 | 岩坪岡田島遺跡 中世              | 建物一覧 145         |
| 第12表 | 岩坪岡田島遺跡 中世              | 柱穴一覧 146         |
| 第13表 | 岩坪岡田島遺跡 中世              | 溝一覧 151          |
| 第14表 | 岩坪岡田島遺跡 中世              | 井戸一覧 152         |
| 第15表 | 岩坪岡田島遺跡 中世              | 土坑一覧 154         |
| 第16表 | 岩坪岡田島遺跡 中世末期～近世         | 溝一覧 154          |
| 第17表 | 岩坪岡田島遺跡                 | 土器・陶磁器・土製品一覧 237 |
| 第18表 | 岩坪岡田島遺跡                 | 木製品一覧 252        |
| 第19表 | 岩坪岡田島遺跡                 | 石製品一覧 253        |
| 第20表 | 岩坪岡田島遺跡                 | 金属製品一覧 254       |
| 第21表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 建物一覧 325         |
| 第22表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 柱穴一覧 325         |
| 第23表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 溝一覧 327          |
| 第24表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 井戸一覧 328         |
| 第25表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 土坑一覧 328         |
| 第26表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 土器・陶磁器・土製品一覧 360 |
| 第27表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 木製品一覧 364        |
| 第28表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 石製品一覧 365        |
| 第29表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 金属製品一覧 365       |
| 第30表 | 手洗野赤浦遺跡                 | 骨角製品一覧 365       |
| 第31表 | 近世北陸道遺跡                 | 溝一覧 371          |
| 第32表 | 近世北陸道遺跡                 | 土器・陶磁器製品一覧 371   |
| 第33表 | 近世北陸道遺跡                 | 木製品一覧 371        |
| 第34表 | 近世北陸道遺跡                 | 金属製品一覧 371       |
| 第35表 | 富山県の縄文時代前期遺跡一覧          | 380              |
| 第36表 | 遺跡の立地1                  | 381              |
| 第37表 | 遺跡の立地2                  | 381              |
| 第38表 | 県内製塩土器出土遺跡一覧            | 392              |
| 第39表 | 道路・獨立柱建物等主軸方向           | 400              |

# 第I章 調査経緯

## 1 調査に至る経緯

### (1) 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県砺波市と石川県輪島市を結ぶ延長約100kmの自動車専用道路で、昭和62年（1987年）に高規格幹線道路網計画の一部として策定された。富山県内では、約45kmが計画され、これまでに北陸自動車道・東海北陸自動車道と連結する小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡北IC（インターチェンジ）までの約18km（高岡砺波道路）が開通し、さらに北上して氷見IC（氷見高岡道路）と麓浦IC（七尾氷見道路）が設置される予定となっている。

能越自動車道の建設計画は平成2年（1990年）4月に建設省（現国土交通省）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省北陸建設局（現国土交通省北陸地方整備局）・県教委・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成2年（1991年）から小矢部市・旧福岡町・高岡市・氷見市域の分布調査を県教委（富山県埋蔵文化財センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施した。

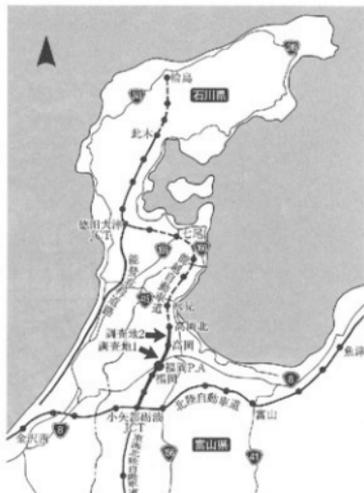
### (2) 分布調査

平成9年（1997年）の分布調査は、高岡市国吉・五十里地内（高岡IC～高岡北IC間）を対象として3月22日に実施し、両地内で新たに3箇所（箇所）の埋蔵文化財包蔵地を確認した。その結果、高岡市国吉地内の包蔵地をNEJ-10・11、五十里地内の包蔵地をNEJ-12とした。

平成12年（2000年）の分布調査は、高岡市五十里・西海老坂、氷見市蒲田・飯久保・惣領・矢田部・上久津呂・栗原・中谷内・中尾・大野・鞍川地内（高岡北IC～氷見IC間）を対象として3月22～29日に実施し、それぞれの地内で周知の遺跡9箇所（板屋谷内B古墳群、板屋谷内C古墳群、中尾横穴墓群、中尾新保谷内遺跡、中尾坊田遺跡、飯久保城跡、正保寺遺跡、中谷内遺跡、栗原A遺跡）の他に、新たに9箇所の埋蔵文化財包蔵地と1箇所の埋蔵文化財包蔵推定地（中尾地内）を確認した。その結果、包蔵地の仮名称は高岡市五十里地内をNEJ-13、西海老坂地内をNEJ-14、氷見市惣領地内をNEJ-15・16、矢田部地内をNEJ-17、上久津呂地内をNEJ-18・19、中尾・大野・鞍川地内をNEJ-20・21とした。

### (3) 確認調査

分布調査の結果報告から、埋蔵文化財包蔵地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結



第1図 調査位置図

調査地1 近世北陸道遺跡  
調査地2 石坪岡田高遺跡・手洗赤浦遺跡



第2図 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地位置図 (1:50,000)

果、遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため、確認調査を実施することとなった。

確認調査は建設省から委託を受け、平成2年度は小矢部市教育委員会、平成8年度は高岡市教育委員会、それ以外は財団法人富山県文化振興財団（以下、財団）が実施した。

平成2・4・6・8年度の確認調査では、遺構・遺物を確認した埋蔵文化財包蔵地から五社遺跡・石名田木舟遺跡・地崎遺跡（小矢部市）・開群大滝遺跡・莫島遺跡・江尻遺跡・下老子笹川遺跡（高岡市）と命名した。また、周知のHS-01遺跡は、近代以降の遺構のみで本調査の必要なしとした。

平成10年度の確認調査は、6月1日に近世北陸道推定地、11月9日～12月12日までNEJ-10・11で実施した。その結果、いずれの埋蔵文化財包蔵地でも遺構・遺物を確認し、近世北陸道推定地を近世北陸道遺跡、NEJ-10を手洗野赤浦遺跡、NEJ-11を岩坪岡田島遺跡と命名した。また、本調査の必要な面積は、合計約17,700㎡と確定した。

平成11年度の確認調査は、10月18日から12月1日までNEJ-12で実施したが近世以降の遺構・遺物しか確認できず、本調査の必要なしとした。

平成13年度の確認調査は、5月16・17日にNEJ-13、7月30・31日にNEJ-14、10月9～22日にNEJ-21、10月22～25日に中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡、10月25～29日にNEJ-20で実施した。その結果、いずれの埋蔵文化財包蔵地でも遺構・遺物を確認し、NEJ-13を五十里沼田遺跡、NEJ-14を堂前遺跡、NEJ-20を中尾茅戸遺跡、NEJ-21を神明北遺跡・大野江瀧遺跡と命名し、中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡を統合して中尾新保谷内遺跡とした。また、本調査の必要な面積は、合計約43,400㎡と確定した。

#### (4) 本調査

本調査については、平成3年4月に、建設省・県教委（県埋蔵文化財センター）・財団の協議で、遺跡の範囲が確定している五社遺跡、石名田遺跡、地崎遺跡の本調査の要望が出された。その結果、県教委及び財団は、東海北陸自動車道関連の調査が終了する平成4年度から、同財団埋蔵文化財調査事務所が能越自動車道関連の本調査を受託することで合意し、調査体制の整備及び調査方法の検討を進めた。以後、平成4年度は五社遺跡、平成5年度は開群大滝遺跡・石名山木舟遺跡・五社遺跡・地崎遺跡、平成6年度は石名田木舟遺跡・五社遺跡、平成7年度は、石名山木舟遺跡・莫島遺跡・江尻遺跡・下老子笹川遺跡、平成8・9年度は下老子笹川遺跡の本調査を実施した。

平成10年度は、福岡PA～高岡IC間（高岡砺波道路）にある下老子笹川遺跡を中心に近世北陸道遺跡もあわせて5月26日～11月30日まで本調査を実施した。

平成11年度は、高岡IC～高岡北IC間（高岡砺波道路）にある手洗野赤浦遺跡を中心に岩坪岡田島遺跡（C1～3地区）もあわせて5月21日から11月29日まで本調査を実施した。

平成12年度は、高岡IC～高岡北IC間にある岩坪岡田島遺跡（A・B1・C4・C5地区）で5月22日～12月19日まで本調査を実施した。

平成13年度は、高岡IC～高岡北IC間にある岩坪岡田島遺跡（B2・B3・C6・C7地区）を中心に高岡北IC～氷見IC間（氷見高岡道路）にある堂前遺跡もあわせて5月22日から12月11日まで本調査を実施した。



## 2 調査経過

### (1) 調査方法

発掘調査の基準となるグリッドの設定に際しては、国家座標を基にした。遺跡毎の座標は、近世北陸道遺跡では+79,880-18,820をX0Y0、手洗野赤浦遺跡では+84,000-17,600をX0Y0、岩坪岡田島遺跡では+84,300-17,300をX0Y0とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは、2m方眼とし、各グリッド名は北東角のX軸とY軸の座標とした。発掘範囲は、近世北陸道遺跡でX12~X25・Y4~Y24、手洗野赤浦遺跡でX12~X59・Y5~Y48、岩坪岡田島遺跡でX22~X151・Y22~Y170である。なお、岩坪岡田島遺跡では、複数年に渡る調査となることから道路や水路や現況水田の畦畔などによってA・B1・B2・B3・C1・C2・C3・C4・C5・C6・C7の合計11調査区に分けた。

調査は、表土・耕作土・無遺物層の除去、遺物包含層の発掘、遺構確認面の精査・遺構の検出、遺構の発掘、遺構の記録、写真撮影、空中写真測量、測量補正作業、断削等の残務の順で行った。なお、調査に係わる作業員の管理・機械掘削・人力掘削・写真撮影用足場の組み立てや解体及び安全対策等は、工事請負として株式会社佐藤工業が請け負った。空中写真測量及び平面図の作成は、株式会社イビソク（平成11年度）・株式会社アジア航測（平成12・13年度）に委託した。

表土・耕作土・無遺物層の除去は、人力掘削による調査の事前準備として、財団調査員立ち会いのもと、試掘調査の結果をみまえ、基本層序を確認しながら、工事請負業者が重機により行った。また、場所によっては無遺物層の除去も行った。

遺物包含層の発掘はスコップ等を用い、人力で掘削した。排土搬出にはベルトコンベヤーを使用し、路線敷内の調査区隣接地に集積し、ダンプによる調査区外への搬出は工事請負業者が行った。

遺構確認面の精査・遺構の検出は、遺構確認面に達するとジョレンやねじり鎌で精査し、検出した遺構は石灰によるマーキングを行い、平板を用いて遺構概略図を作成した。検出した遺構には、遺構番号を付すが、各地区毎に遺構の種類に関わらず通し番号とした。

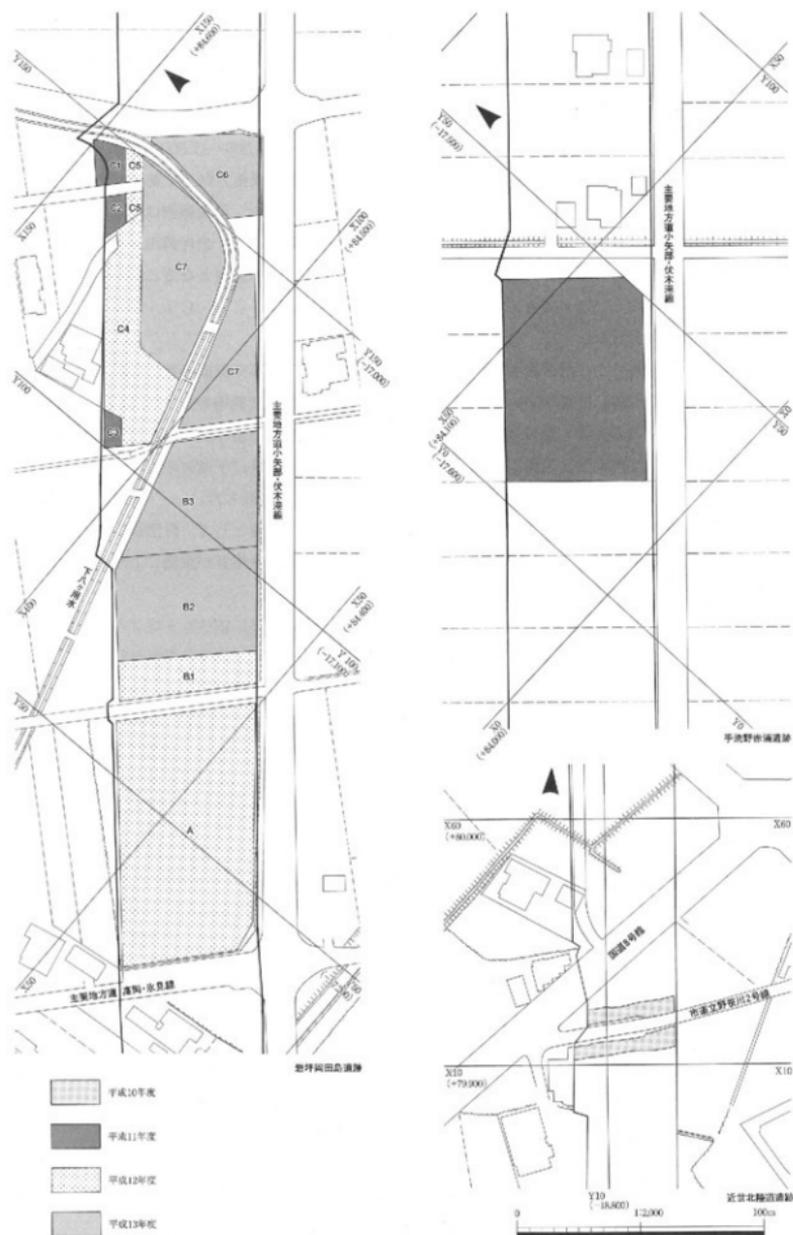
遺構の発掘は、柱穴・井戸・小さい土坑は長軸に沿って半截、大きい土坑は十字またはそれ以上に、溝は適宜に間隔をあけてセクションベルトを残し、移植ごて等で発掘した。

遺構の記録は、断面図を20分の1で実測し、遺構によっては10分の1の遺物出土状況図や平面図を作成した。各遺構の断面は、35mmカメラで、遺物出土状況や個別遺構の完掘写真・ブロック写真はブローニー判（6×7）カメラもあわせて撮影した。調査区的全景写真は、35mmカメラ・ブローニー判カメラ・4×5インチ判カメラで2方向以上から撮影している。使用したフィルムは、35mmはカラーと白黒、ブローニー判・4×5インチ判はカラーズライドと白黒を使用した。遺構の平面図作成には、空中写真測量を利用し、撮影にはヘリコプター（実機）またはラジコンヘリコプターを使用した。

最後に残務として、井戸や柱根の残る柱穴など完掘の困難な遺構は、空中写真測量終了後に断ち割りを行い、遺構の底面を確認し、図面等を作成した。また、調査区によっては人力または重機で遺構面よりも下層の状況確認を行った。

### (2) 調査の経過

平成10年度の調査は、下老子笹川遺跡、近世北陸道遺跡を対象に行った。近世北陸道遺跡は、市道立野笹川線を挟む南北河側を調査区とし、近世北陸道の側溝とみられる溝を確認した。調査期間は、6月10~30日である。



| 遺跡名   | 地区             | 区                | 調査期間             | 延べ日数   | 調査面積                                 | 調査担当者                                | 検出遺構  | 出土遺物   |
|-------|----------------|------------------|------------------|--------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--|
| 近世北陸道 |                | 近世               | H.10.6.10~6.30   | 12日間   | 489㎡                                 | 深堀 晋<br>町田賢一<br>上田尚美                 | 溝   | 瀬戸,越中瀬戸,唐津,伊万里,曲物,灰皿,燵管,火箸   |
| 手洗野赤浦 |                | 上層<br>中世         | H.11.5.21~10.19  | 83日間   | 2,900㎡                               | 越前慎子<br>深堀 晋<br>町田賢一                 | 獨立柱建物,<br>柱穴,井戸,土<br>坑,須,遺跡   | 土師器,須恵器,中世土師器,珠洲,越前,伊奈,中国製白磁,中<br>国製青磁,中国製灰土,古瀬戸,瀬戸美濃,瓦質土器,越中瀬戸,<br>唐津,伊万里,土埴,下駄,杖,曲物,円形板,漆器,石鉢,燵管,<br>鉄 |
|       |                | 下層<br>中世         |                  | 4,616㎡ | 獨立柱建物,<br>柱穴,溝,自然<br>流路,井戸,土<br>坑,須砂 |                                      | 十郎器,須恵器,中世土師器,珠洲,越前,伊奈,土師質土器,中<br>国製白磁,中国製古磁,古瀬戸,瓦質土器,唐津,土埴,曲物,杖,<br>円形板,白敷,祝待木製,鉄,柱,漆器,五輪石,碇石,鏡  |  |
| 岩坪河田馬 | A              | 上層<br>近世         | H.12.5.22~8.30   | 65日間   | 3,966㎡                               | 越前慎子<br>町田賢一                         | 溝,須砂  | 越中瀬戸,唐津,伊万里,燵管   |
|       |                | 中層<br>中世         | H.12.7.14~9.29   | 49日間   | 5,547㎡                               |                                      | 自然流路,地<br>道,土坑  | 須恵器,中世土師器,珠洲,八尾,中国製白磁,中国製青磁,中国<br>製白磁,山茶碗,古瀬戸,瀬戸美濃,瓦質土器,土埴,柄杓,木地皿,<br>漆器,蕨伏木製品,碇石,鉄                      |
|       |                | 下層<br>古代         | H.12.9.25~11.28  | 32日間   | 5,547㎡                               |                                      | 獨立柱建物,<br>柱穴  | 土師器,須恵器,黒色土器,土埴  |
|       | R1             | 中世               | H.12.9.19~12.15  | 36日間   | 745㎡                                 | 越前慎子                                 | 自然流路  | 土師器,須恵器,中世土師器,珠洲,古瀬戸,瀬戸美濃,越中瀬戸,<br>唐津,伊万里,土埴,漆器,円形板,鉄  |
|       | R2             | 中世               | H.13.3.22~8.9    | 49日間   | 2,451㎡                               |                                      | 獨立柱建物,<br>柱穴,溝,自然<br>流路,土坑,地<br>道,土坑  | 土師器,須恵器,黒色土器,中世土師器,珠洲,越前,中国製白磁,<br>中国製青磁,中国製白磁,古瀬戸,瀬戸美濃,越中瀬戸,唐津,<br>伊万里,十人形,七輪,下駄,杖,碇石,漆器                |
|       | R3             | 中世               | H.13.5.22~10.12  | 35日間   | 2,017㎡                               |                                      | 柱穴,溝,自然<br>流路,土坑  | 土師器,須恵器,灰地陶器,中世土師器,珠洲,瀬戸美濃,越中瀬戸,<br>唐津,伊万里,中国製白磁,中国製青磁,土埴,鉄  |
|       | C1             |                  |                  |        |                                      | 204㎡                                 | 溝,土坑  | 須恵器,中世土師器,珠洲,越中瀬戸,鉄片   |
|       | C2             | 中世               | H.11.10.18~11.29 | 24日間   | 125㎡                                 | 町田賢一<br>上田尚美                         | 柱穴,溝,井戸,<br>土坑  | 縄文土器,弥生土器,土師器,須恵器,中世土師器,珠洲,中国製<br>青磁,漆器  |
|       | C3             |                  |                  |        |                                      | 101㎡                                 | 柱穴,溝,土坑   | 須恵器,中世土師器,珠洲,中国製白磁,中国製古磁,越中瀬戸,<br>碇石,鉄埴,羽口   |
|       | C4             | 古代<br>中世         | H.12.10.19~12.19 | 33日間   | 1,533㎡                               | 町田賢一                                 | 獨立柱建物,<br>壁伏建物,<br>柱穴,溝,自然<br>流路,遺跡,井戸,土<br>坑,遺跡  | 縄文土器,土師器,須恵器,黒色土器,製鐵土器,中世土師器,珠<br>洲,越前,中国製白磁,中国製古磁,越中瀬戸,土製暖房具?,杖<br>子形土製品,土埴,漆器,碇石,刀子,引針状製品,羽口,鉄片,鉄片     |
|       | C5             | 中世               | H.12.10.26~11.29 | 17日間   | 177㎡                                 |                                      | 溝,井戸,土坑   | 縄文土器,土師器,須恵器,中世土師器,珠洲,中国製白磁,中国<br>製青磁,瀬戸美濃,越中瀬戸,唐津,伊万里,土製暖房具?,土埴,<br>下駄,漆器,井戸,曲物,漆器?,燈籠,鉄埴               |
|       | C6             | 上層<br>中世         | H.13.5.22~7.4    | 24日間   | 873㎡                                 | 町田賢一<br>上田尚美                         | 柱穴,溝,井戸,<br>土坑  | 土師器,須恵器,中世土師器,珠洲,中国製古磁,土埴,磨石,碇石,<br>刀子   |
|       |                | 下層<br>縄文         | H.13.7.5~8.10    | 25日間   | 580㎡                                 |                                      | 土坑,自然流<br>路,土器集申<br>地点  | 縄文土器,碇石,磨石,燵石  |
| C7    | 上層<br>古代<br>中世 | H.13.5.22~10.15  | 87日間             | 3,334㎡ | 町田賢一<br>上田尚美                         | 獨立柱建物,<br>柱穴,溝,自然<br>流路,遺跡,井戸,<br>土坑 | 弥生土器,土師器,須恵器,黒色土器,製鐵土器,中世土師器,珠<br>洲,越前,伊奈,中国製白磁,中国製青磁,古瀬戸,瀬戸美濃,越<br>中瀬戸,唐津,伊万里,土埴,土人形,下駄,曲物,井戸,漆器,鉄<br>燵管?,円形板,杖,提,碇石,碇石,石埴,磨石,引子,引子,引子<br>金具,燵石,碇石,鉄埴,鉄埴 |  |
|       | 下層<br>縄文       | H.13.10.16~11.30 | 30日間             | 1,016㎡ |                                      | 自然流路,土<br>器集申地点                      | 縄文土器,石碇   |  |

第2表 調査一覽

平成11年度の調査は、手洗野赤浦遺跡、岩坪岡田島遺跡を対象に行った。手洗野赤浦遺跡では、中世中頃～後半の集落や地震による大型の噴砂を確認した。調査期間は、5月21日～10月19日である。岩坪岡田島遺跡では、遺跡の北東端のC1～C3地区で中世前半の集落を確認した。調査期間は10月18日～11月29日である。

平成12年度の調査は、岩坪岡田島遺跡を対象に行った。A地区では古代の集落や中世の流路や近世の溝や地震による地割れや噴砂、B1地区では中世の流路、C4・C5地区では古代の集落と中世前半の集落を確認した。調査期間は、5月22日～12月19日である。

平成13年度の調査は、岩坪岡田島遺跡・堂前遺跡を対象に行った。岩坪岡田島遺跡では、B2・B3地区で中世前半の集落や地震による噴砂や地割れ、C6・C7地区では縄文時代前期の土器集中地点や古代の集落や中世前半の集落を確認した。調査期間は、5月22日～11月30日である。

### (3) 調査指導

発掘調査にあたり、以下の専門家による現地指導を受けた。

- ・平成11年7月8日 寒川 旭（通産省地域地質研究所）  
……手洗野赤浦遺跡の噴砂について
- ・平成12年7月12日、9月6・28日、11月28日 寒川 旭（産業技術総合研究所）  
……岩坪岡田島遺跡の地割れ・噴砂について
- ・平成13年7月31日 広岡公夫（富山大学、現大阪大谷大学）  
……岩坪岡田島遺跡の噴砂の年代について
- ・平成13年8月9日 寒川 旭（産業技術総合研究所）  
……岩坪岡田島遺跡の地割れ・噴砂について

### (4) 調査体制

平成10（1998）年度

|      |      |                   |
|------|------|-------------------|
| 総括   | 桃野真晃 | 埋蔵文化財調査事務所所長      |
|      | 谷井保男 | 埋蔵文化財調査事務所副所長     |
| 庶務   | 宮成真幸 | 埋蔵文化財調査事務所主任      |
|      | 蒲田和志 | 埋蔵文化財調査事務所主事      |
|      | 江本裕一 | 埋蔵文化財調査事務所主事      |
|      | 棚田信之 | 埋蔵文化財調査事務所嘱託      |
| 調査総括 | 狩野 睦 | 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長  |
| 調査員  | 深堀 茜 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 上田尚美 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 町田賢一 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |

平成11（1999）年度

|    |      |               |
|----|------|---------------|
| 総括 | 桃野真晃 | 埋蔵文化財調査事務所所長  |
|    | 谷井保男 | 埋蔵文化財調査事務所副所長 |
|    | 上野 章 | 埋蔵文化財調査事務所副所長 |
| 総務 | 宮成真幸 | 埋蔵文化財調査事務所主任  |
|    | 江本裕一 | 埋蔵文化財調査事務所主事  |
|    | 棚田信之 | 埋蔵文化財調査事務所嘱託  |

|      |       |                   |
|------|-------|-------------------|
| 整理総括 | 狩野 睦  | 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長  |
| 担 当  | 越前 慎子 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 深堀 茜  | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 上田 尚美 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 町田 賢一 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |

平成12(2000)年度

|     |       |                   |
|-----|-------|-------------------|
| 総 括 | 桃野 真晃 | 埋蔵文化財調査事務所所長      |
|     | 肥田 啓章 | 埋蔵文化財調査事務所副所長     |
|     | 上野 章  | 埋蔵文化財調査事務所副所長     |
| 総 務 | 竹中 慎一 | 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐 |
|     | 江本 裕一 | 埋蔵文化財調査事務所主事      |
|     | 棚田 信之 | 埋蔵文化財調査事務所嘱託      |

|      |       |                   |
|------|-------|-------------------|
| 整理総括 | 狩野 睦  | 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長  |
| 担 当  | 越前 慎子 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 町田 賢一 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |

平成13(2001)年度

|     |       |                   |
|-----|-------|-------------------|
| 総 括 | 桃野 真晃 | 埋蔵文化財調査事務所所長      |
|     | 肥田 啓章 | 埋蔵文化財調査事務所副所長     |
|     | 上野 章  | 埋蔵文化財調査事務所副所長     |
| 総 務 | 竹中 慎一 | 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐 |
|     | 江本 裕一 | 埋蔵文化財調査事務所主事      |
|     | 棚田 信之 | 埋蔵文化財調査事務所嘱託      |

|      |       |                   |
|------|-------|-------------------|
| 整理総括 | 酒井 重洋 | 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長  |
| 担 当  | 越前 慎子 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 町田 賢一 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |
|      | 田中 昌樹 | 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事 |

## (5) 普及活動

### A 現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するために、調査工程を検討しながら対象地区を選定して平成11～13年の間に年に1回ずつの計3回現地説明会を実施した。

平成11年10月9日に手洗野赤浦遺跡において実施した。下層で検出した中世後半の集落を会場に、約150名の見学者が訪れた。まず現場事務所前で概略図を用いて全体説明を行い、続いて現地で石組み井戸や独立柱建物などの主な遺構で調査員が説明及び見学者の質問等に対応した。また、遺物展示会場では、出土遺物及び遺構の写真パネル等の展示を行った。

平成12年12月17日に岩岸岡田島遺跡において実施した。噴砂や地割れを検出したA地区と中世前半の集落を検出したC4地区を会場に、約170名の見学者が訪れた。現場事務所前で概略図を用いて全体説明を行い、現地では各地区の主な遺構で調査員が説明及び見学者の質問等に対応した。なかでも、記者発表を行った天正地震や飛越地震に関わる地割れ・噴砂の状況は注目を集めていた。また、遺物展示会場では、出土遺物・遺構の写真パネル等の展示を行った。



平成13年10月6日に岩坪岡田鳥遺跡において実施した。古代と中世前半の集落を検出したC7地区を会場に、約100名の見学者が訪れた。まず現場事務所前でこれまでの調査の概要説明、続いて今年度の調査について概略図を用いて説明を行った。続いて現地で掘立柱建物や井戸や道路などの主な遺構で調査員が説明及び見学者の質問等に対応した。また、遺物展示会場では、出土遺物及び遺構の写真パネル等の展示を行った。それから、現地では公開できなかった下層で出土した縄文前期の土器を展示し、更に縄文土器の文様を再現できるように粘土板に原体を転がす体験コーナーを設けた。

#### B 遺物の展示

現地説明会の他に、他の遺跡とあわせて遺物の展示を行った。

平成17年2月18日～3月6日に、富山県高岡文化ホールと共催で当事務所の調査した遺跡出土の遺物の展示「古代のかたりペー大規模発掘調査の速報展一」を行い、手洗野赤浦遺跡から中世土師器・陶磁器、岩坪岡田鳥遺跡から縄文土器・陶磁器の展示を行った。

#### C 記者発表

平成12年9月29日に、岩坪岡田鳥遺跡A地区で噴砂に切られた地割れの検出状況を新聞6社やテレビ局1社に対し記者発表を行った。地割れは天正地震、噴砂は飛越地震によるものと考えられ、県内では数少ない大地震の痕跡として大きな関心が寄せられた。

#### (6) 整理経過

出土遺物は各年度内に可能な限り洗浄・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品はメモ写真で撮影し、それぞれ整理台帳を作成した。木製品は収納・管理の便宜を図るためオートシーラーと専用フィルムを用いてバックし、仮保管している。調査概要については、『埋蔵文化財年報』(10)～(13)、『埋蔵文化財調査概要』(平成10年度～平成13年度)として発刊している。なお、『紀要 富山考古学研究』において、調査担当者による以下の報告が行なわれている。

『紀要 富山考古学研究 第2号』 1999年3月

・新宅輝久「近世北陸道遺跡の調査から」

『紀要 富山考古学研究 第5号』 2002年3月

・田中昌樹「岩坪岡田鳥遺跡出土の縄文土器」

この他に以下の雑誌に考察や発表がなされている。

・新宅輝久 2000「富山県道路遺構集成 近世北陸道遺跡」『大境 第20・21号』富山考古学会

・町田賢一 2000「富山・手洗野赤浦遺跡」『木簡研究 第22号』木簡学会

・町田賢一 2002「富山県の地震痕跡確認遺跡」『古代学研究 157』古代学研究会

・越前慎子・町田賢一 2002「手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田鳥遺跡における地震痕跡」『古代学研究 158』古代学研究会

・寒川旭・越前慎子・町田賢一 2002「富山平野の北西縁で検出された地震の痕跡」『活断層・古地震研究報告 第2号』産業技術総合研究所地質総合センター

報告書刊行に向けての室内整理作業は、平成14年4月に開始した。14年度は木製品・石製品・金属製品の写真撮影および実測、15年度は木製品保存処理、16年度は土器・陶磁器の接合・復元、図面編纂、平成17年度は土器・陶磁器の実測・写真、挿図及び図版作成、トレース、原稿執筆、18年度は原稿執筆、編集、印刷、校正を行った。

遺物の洗浄・バンダー処理、土壌の洗浄は、現場において現場整理作業員が行った。土器・陶磁器の注記・接合・復元・色塗り、石製品の注記は、室内整理作業員が行った。

遺物の実測は、土器・陶磁器を調査員及び室内整理作業員が行った。木・金属製品は、株式会社シン技術コンサル・株式会社エイテックに、石製品は、株式会社アルカに委託した。遺物実測図は、種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺構実測図・写真・航空測量図は、各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピュータを使用してデータ入力した。挿図にある遺構・遺物のデータは、観察表として掲載した。データ入力は人材派遣会社に委託し、整理作業員が補足した。図面編纂は、株式会社北陸航測に委託した。

遺物の写真撮影は、写房楠華堂・アオヤマスタジオに委託し、4×5インチ判を基本に、白黒とカラーライドフィルムを使用した。写真図版には、密着焼付または引き伸ばしたものを使用した。遺構写真・遺物写真のうち重要なものはプロフォトCD化して保存した。

自然科学的分析は、平成12年度から平成17年度にかけて専門機関に委託し、結果報告を掲載した。

木製品のうち重要なものは、平成15～16年度にかけて財団法人元興寺文化財研究所に委託し、保存処理および一部復元を行った。

## (7) 整理体制

平成14(2002)年度

|      |       |                     |
|------|-------|---------------------|
| 総括   | 桃野真晃  | 埋蔵文化財調査事務所 所長       |
|      | 肥田啓章  | 埋蔵文化財調査事務所 副所長      |
|      | 上野章   | 埋蔵文化財調査事務所 副所長      |
| 総務   | 竹中慎一  | 埋蔵文化財調査事務所 総務課 課長補佐 |
|      | 廣田英貴  | 埋蔵文化財調査事務所 主事       |
| 整理総括 | 酒井重洋  | 埋蔵文化財調査事務所 調査第二課 課長 |
| 担当   | 中川道子  | 埋蔵文化財調査事務所 主任       |
|      | 中野由紀子 | 埋蔵文化財調査事務所 文化財保護 主事 |
|      | 町田尚美  | 埋蔵文化財調査事務所 文化財保護 主事 |

平成15(2003)年度

|      |       |                       |
|------|-------|-----------------------|
| 総括   | 桃野真晃  | 埋蔵文化財調査事務所 所長         |
|      | 関清    | 埋蔵文化財調査事務所 主査・副所長     |
|      | 盛田世津子 | 埋蔵文化財調査事務所 副所長・総務課 課長 |
| 総務   | 竹中慎一  | 埋蔵文化財調査事務所 総務課 課長補佐   |
|      | 廣田英貴  | 埋蔵文化財調査事務所 主任         |
| 整理総括 | 宮田進一  | 埋蔵文化財調査事務所 調査第二課 課長   |
| 担当   | 伊藤潔   | 埋蔵文化財調査事務所 主任         |
|      | 町田賢一  | 埋蔵文化財調査事務所 文化財保護 主事   |

平成16(2004)年度

|    |       |                       |
|----|-------|-----------------------|
| 総括 | 桃野真晃  | 埋蔵文化財調査事務所 所長         |
|    | 関清    | 埋蔵文化財調査事務所 主査・副所長     |
|    | 盛田世津子 | 埋蔵文化財調査事務所 副所長・総務課 課長 |
| 総務 | 竹中慎一  | 埋蔵文化財調査事務所 総務課 課長補佐   |
|    | 廣田英貴  | 埋蔵文化財調査事務所 主任         |
|    | 岩田扶紀  | 埋蔵文化財調査事務所 主任         |

整理総括 宮田 進 一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長  
 担 当 伊藤 潔 埋蔵文化財調査事務所主任  
 青山 裕 子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事  
 新宅 茜 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事  
 町田賢一 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成17(2005)年度

総 括 桃野真晃 埋蔵文化財調査事務所所長  
 関 清 埋蔵文化財調査事務所主査・副所長  
 盛田世津子 埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長

総 務 竹中慎一 埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐  
 岩田扶紀 埋蔵文化財調査事務所主任

整理総括 宮田 進 一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

担 当 越前慎子 埋蔵文化財調査事務所主任  
 高柳由紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事  
 町田尚美 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成18(2006)年度

総 括 岸本雅敏 埋蔵文化財調査事務所所長  
 山本正敏 埋蔵文化財調査事務所主査・副所長  
 加藤豊治郎 埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長

総 務 浅地正代 埋蔵文化財調査事務所チーフ  
 岩田扶紀 埋蔵文化財調査事務所主任

整理総括 宮田 進 一 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

担 当 越前慎子 埋蔵文化財調査事務所主任  
 金三津道子 埋蔵文化財調査事務所主任  
 朝田亜紀子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(町田賢一)

## 第Ⅱ章 立地と歴史的環境

### 1 立地

#### (1) 立地

近世北陸道遺跡・手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡は、富山県西部の高岡市に所在する。高岡市は、人口約182,000人（平成18年11月現在）、面積209.38km<sup>2</sup>の富山県第2の都市である。高岡市の地勢は、北に富山湾、西に室達山から続く西山丘陵、その中を庄川と小矢部川の2つの大河川が南北に流れ、これによる扇状地・低地が市の大半を占める。扇状地扇端部の高岡台地には、江戸時代に高岡城が開かれ、これを中心に市街地が形成された。この他の地域は、北陸道沿いの宿から発展した町や寺院を中心とする町などがあり、その周囲はかつて加賀白万石を支えた水田が広がる。

#### (2) 地形

##### A 近世北陸道遺跡

近世北陸道遺跡は、高岡市の中央（高岡市笹川）にあり、現在は市道立野笹川線（旧北陸道）とその両脇となっている。この付近は、庄川扇状地扇端部と小矢部川とに挟まれた小矢部川低地と呼ばれ標高約12mを測る。調査前の現況は、市道の他は大半が水田である。

地形分類図によれば、低地で氾濫平野に分類される。

##### B 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡

手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡は、高岡市南西部（高岡市手洗野・岩坪）にあり、西を西山丘陵、東を小矢部川に挟まれた低地となっている。なお、手洗野赤浦遺跡は低地部のみであるが、岩坪岡田島遺跡の多くは西山丘陵から続く台地状の高まりに位置する。現在の標高は、ほ場整備がなされているが、手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の低地部で約7m、岩坪岡田島遺跡の台地部で約9mを測る。調査前の現況は、宅地及び水田である。

地形分類図によれば、手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡の低地部（A・B・C6・C7地区の一部）は低地で氾濫平野、岩坪岡田島遺跡の台地部（C1～C5・C7地区）は微高地と分類される。

#### (3) 地質

##### A 近世北陸道遺跡

地質図によれば近世北陸道遺跡は、第4紀-完新世-平野の表層堆積物-河成堆積物-蛇行帯（砂及び礫・泥を伴う）に相当する。更に土壌図では、粗粒グライ土壌となっている。このことは、北に流れる小矢部川による堆積物でグライ化したものであろう。ちなみに南にある下老子笹川遺跡は、扇状地扇端部にあり、ここから一段下りたところが近世北陸道遺跡となっている。

##### B 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡

地質図によれば、手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡の低地部（A・B・C6・C7地区の一部）は、近世北陸道遺跡同様に第4紀-完新世-平野の表層堆積物-河成堆積物-蛇行帯（砂及び礫・泥を伴う）に相当する。更に土壌図では、強粘質の細粒グライ土壌となっている。これらは、東側を流れる小矢部川が現在でも大きく蛇行しているように流路を変えながら流れていてその堆積物によって作られたものである。岩坪岡田島遺跡の台地部（C1～5・7地区）は、第4紀-完新世-平野の表層堆積物-河成堆積物-自然堤防（砂・礫を伴う）、グライ土壌で低地部とは若干地質が異なる。



これも小矢部川による堆積が大きいのであろうが、西側の西山丘陵との変換点に位置し、小字に岡田島とあることから島状に飛び出したような感じであったのであろう。

## 2 歴史的環境

### (1) 地名の由来

#### A 近世北陸道遺跡

近世北陸道遺跡は、能越自動車道関連の分布調査の結果、平成5年(1993年)につけられた遺跡名である。北陸道は、古代の官道七道の一つで重要な交通幹線であったがその道筋は古代・中世・近世と時代及び政治状況が変化する毎に変遷していった。近世北陸道でも当初は富山と石動(小矢部市)間が現在の県道富山戸出小矢部線とほぼ同じ道筋であったが、高岡城開城(1609年)後は旧国道8号線とほぼ同じ道筋へと変化している。今回調査した近世北陸道遺跡は、後者の道筋で、立野町(現高岡市立野)と福岡町(現高岡市福岡町福岡)の町並みの間である笹川村(高岡市笹川)に位置する。

近世北陸道遺跡の所在する高岡市笹川は、文献では中世以前のことは記されていないが、礪波郡五位荘笹川村に属しており、天正14(1586)年には、前田利勝により「篠河村」に九江市を開墾する事を許されたとある。生業は、水田耕作であり、一部で菅作りも行われた。明治時代になると町村制実施に伴い、立野村に属し、昭和30(1955)年に合併して高岡市となり現在を迎える。

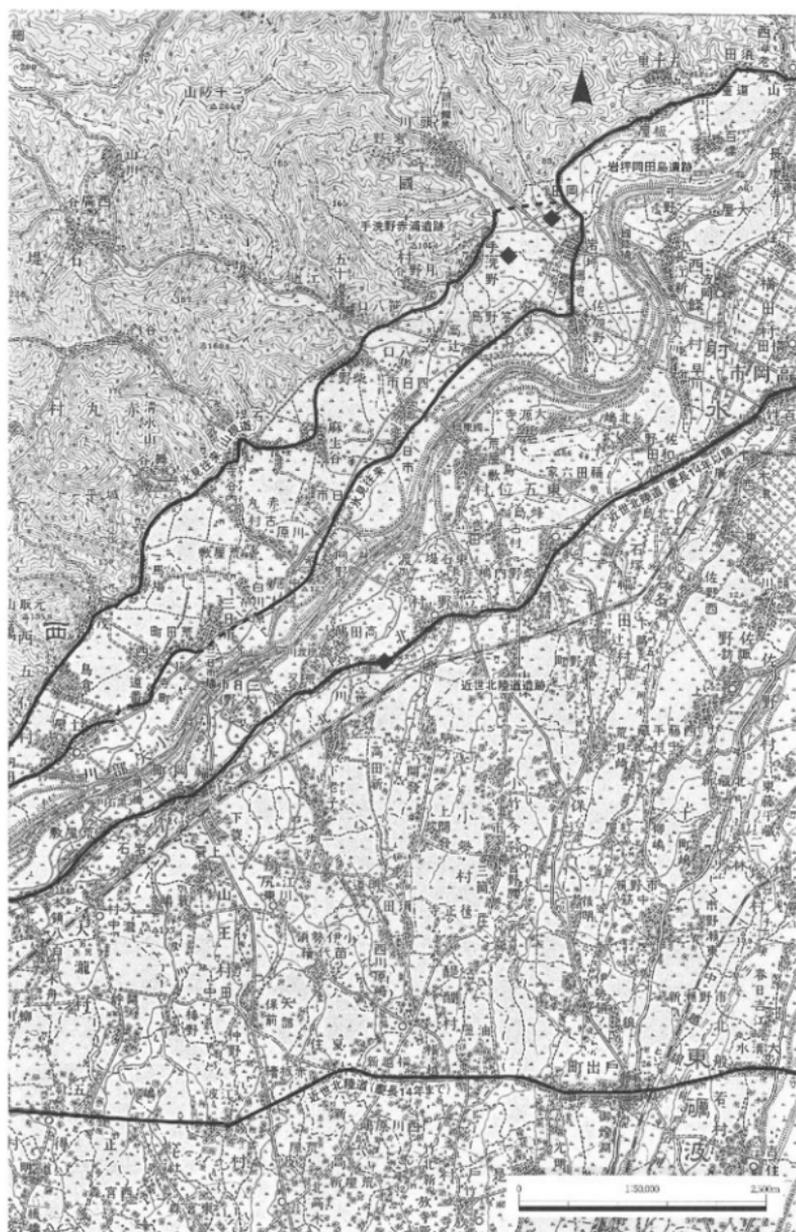
#### B 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡

手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡は、能越自動車道関連の分布調査及び東大寺領荘園「須加村壱田地」の比定地としてNEJ-10・11埋蔵文化財包蔵地とされたが、平成10年(1998年)確認調査の結果出土遺物から中世の遺跡としてこの遺跡名が命名されたものである。手洗野赤浦遺跡は、高岡市手洗野に小字の赤浦を付けたもので、岩坪岡田島遺跡は、高岡市岩坪に小字の岡田島を付けたものである。いずれもかつては国吉村に属しており、現在でも国吉地区と呼ばれる。

国吉は、「土地美し」から生まれた地名とされ、文献では『吾妻鏡』延応元年(1239年)に「国吉名」の所有を巡って五十嵐惟重と小見近家とが争い北条泰時が沙汰する記事があり、少なくとも鎌倉時代に遡る地名である。

手洗野は、縄文時代に滝ヶ谷内遺跡(晩期中葉)、弥生時代に間尺遺跡(中期～後期)と西山丘陵裾に遺跡がつくれ、古墳時代になると谷谷古墳群(出現期)や四十九古墳群など丘陵上に古墳が作られた。古代以降は、古代北陸道が通っていたり、二上山養老寺があり、これを中心に開けたようである。元享3年(1323)には、珍山源照により越中国初の曹洞宗寺院信光寺が開かれ、現在でも四十九という地名が残るが、この付近に多くの堂宇が作られたらしい。信光寺は、戦国時代に一旦衰退したが、江戸時代になって瑞龍寺広山総陽によって再興された。江戸時代の手洗野は、礪波郡国吉郷手洗野村に属し、信光寺とその周辺が門前町のような他は水田が大半で、採柴商いや菅笠、養蚕、ゴボウの生産が行われるなどの農村であった。その後は、明治22年(1889年)に礪波郡国吉村手洗野、昭和26年(1951年)に高岡市手洗野となり今日に至る。

岩坪は、岩坪岡田島遺跡以外に遺跡は見つかっていないが、古代北陸道の通る交通の要所であったようである。史料では、康正元年(1455年)に室町幕府から小串成行に「岩坪保」が安堵されたことあり(『足利義政御教書』)、室町時代には公的な土地制度の一端を担っていたことがわかる。また、嘉禄元年(1235)に創建されたとする超願寺があり、慶長14年(1609年)の高岡築城に伴う移転まで栄



第6図 遺跡の位置 1

5万分の1地形図石動 明治42年測圖大正3年製版(国土交通省国土地理院蔵)に加筆



第7図 遺跡の位置 2

磯波郡村々組繪圖 天保9年(1838) (跡高樹會藏に加筆)

えていたようである。江戸時代には礪波郡国吉郷岩坪村で、水見一守山一岩坪一佐加野一石動と巡検上使の通る公的な道路「水見往来」が走っていた。また、岩坪岡田鳥遺跡の低地部と台地部とを分ける下八ヶ用水は、延宝元年(1673年)に八ヶ新村開拓の灌漑のために三日市で小矢部川から取水し、二上まで開かれたものである。その後は、明治22年(1889年)に礪波郡国吉村岩坪、昭和26年(1951年)に高岡市岩坪となり今日に至る。

## (2) 既往の調査と知見

岩坪岡田鳥遺跡の本格的な調査は、能越自動車道開通の調査以降であるが、それと併行してまたそれ以降にも高岡市教育委員会による調査が何度か行われている。能越自動車道建設に伴う住宅移転のための調査(岡元・岡崎1・岡崎2・釜土・山口地区)では、中世前半の区画溝・井戸・土坑を検出し、土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・青磁・羽口・鉄滓などが出土している。この調査は、試掘確認調査で遺構検出までしか行っていないため、詳しい内容はわからないが、財団の調査したC1~C3地区に隣接する調査区であり、区画溝はそれに繋がるものが多いことから岩坪岡田鳥遺跡の集落全体を把握するには良好な資料である。

工場や資材置き場等の建設に伴う調査(グラスキューブ・三芝硝材地区)では、古代の土坑・溝を検出し、弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・中世土師器・珠洲などが出土している。これらの調査区は、遺跡北側の開析谷に位置し、財団の調査区とは異なる集落の様相が見られ、岩坪岡田鳥遺跡には遺跡内でも時代を違えていくつかの集落があることがわかる。

この他の調査は、小規模の確認調査でほとんど遺物は出土していない。

なお、近世北陸道遺跡と手洗野赤浦遺跡は、能越自動車道開通以外での調査は行われていない。

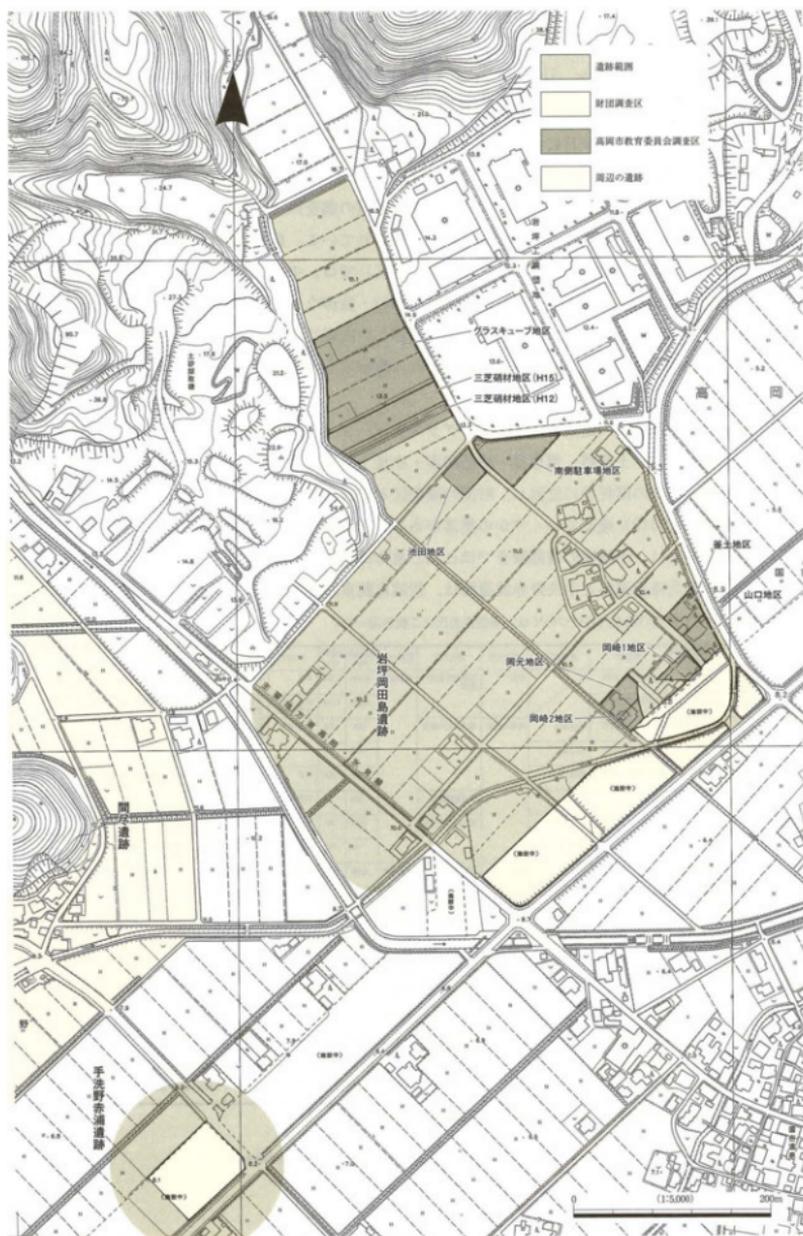
※ 高岡市教育委員会の調査内容については、栗山雅夫氏にご教示頂いた。

| 調査年度 | 調査文化財調査区<br>名称            | 調査地     | 調査地区名       | 調査手法      | 調査発掘<br>調査内容  | 調査面積<br>(㎡) | 調査期間<br>(日) | 年代         | 主な遺構                       | 主な遺物                                | 備考          | 文献 |
|------|---------------------------|---------|-------------|-----------|---------------|-------------|-------------|------------|----------------------------|-------------------------------------|-------------|----|
| 1    | 1994/1/28<br>~1994/2/10   | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 財団        | 能越自動車道の建設     | 44,000      | 5,247       | 中世         | 区画溝・中世土師器・珠洲・緑釉陶器          | 土師器・須恵器・中世土師器                       | 手洗野赤浦遺跡に付する | 1  |
| 2    | 1994/1/18<br>~1994/12/12  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 財団        | 能越自動車道の建設     | 66,800      | 4,181       | 中世・古代・弥生   | 中世土師器・古代土師器・弥生土師器・区画溝      | 古土・土師器・須恵器・中世土師器・土師器・須恵器・古土・土師器・須恵器 | 3行跡調査区に付する  | 2  |
| 3    | 1999/2/26<br>~1999/7/31   | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 築土地区      | 個人住宅の建設       | 1,027       | 200         | 古代・中世      | 古土・土師器・須恵器・土師器・須恵器・土師器・須恵器 | 土師器・須恵器・土師器・須恵器                     |             | 3  |
| 4    | 1998/3/11<br>~1998/7/9    | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 山口地区      | 個人住宅の建設       | 917         | 210         | 中世・土師器・須恵器 | 中世土師器・土師器・須恵器              | 土師器・須恵器                             |             | 4  |
| 5    | 1998/5/21<br>~1998/7/26   | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 岡崎1地区     | 個人住宅の建設       | 736         | 400         | 中世         | 中世土師器・土師器・須恵器              | 土師器・須恵器                             |             | 5  |
| 6    | 1998/5/27<br>~1998/7/7    | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 岡崎2地区     | 個人住宅の建設       | 225         | 5           | 不明         | なし                         | なし                                  |             | 6  |
| 7    | 1998/2/28<br>~1998/7/19   | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 釜土地区      | 個人住宅の建設       | 1,002       | 200         | 中世         | 中世土師器                      | 土師器・須恵器                             |             | 7  |
| 8    | 1999/5/28<br>~1999/7/19   | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 山口地区      | 個人住宅の建設       | 394         | 200         | 古代・中世      | 古土・土師器・須恵器                 | 土師器・須恵器                             |             | 8  |
| 9    | 1999/5/21<br>~1999/10/19  | 手洗野赤浦遺跡 | 高岡市国吉郷12051 | 財団        | 能越自動車道の建設     | 4,646       | 4,646       | 中世         | 区画溝                        | 土師器・須恵器                             |             | 9  |
| 10   | 1999/5/24<br>~1999/11/29  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 珠洲地区      | 高岡市教育委員会による調査 | 880         | 10          | 不明         | なし                         | なし                                  |             | 10 |
| 11   | 1999/10/18<br>~1999/11/29 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | C1~C3地区   | 個人住宅の建設       | 411         | 411         | 中世         | 区画溝                        | 土師器・須恵器                             |             | 11 |
| 12   | 2000/2/22<br>~2000/11/19  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | A・B1~C4地区 | 個人住宅の建設       | 8,002       | 8,002       | 中世         | 区画溝                        | 土師器・須恵器                             |             | 12 |
| 13   | 2000/3/19                 | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 三芝硝材地区    | 個人住宅の建設       | 1,924       | 40          | 中世         | 区画溝                        | 土師器・須恵器                             |             | 13 |
| 14   | 2001/3/24<br>~2001/11/30  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | B2~C1地区   | 個人住宅の建設       | 5,660       | 5,660       | 中世         | 区画溝                        | 土師器・須恵器                             |             | 14 |
| 15   | 2001/11/21                | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 赤田地区      | 個人住宅の建設       | 403         | 16          | 不明         | なし                         | なし                                  |             | 15 |
| 16   | 2003/10/1<br>~2003/10/28  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 三芝硝材地区    | 個人住宅の建設       | 3,225       | 57          | 古代・中世      | 古土・土師器・須恵器                 | 土師器・須恵器                             |             | 16 |
| 17   | 2004/10/1<br>~2004/10/12  | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 下八ヶ用水地区   | 個人住宅の建設       | 14,225      | 1,033       | 古代・中世      | 古土・土師器・須恵器                 | 土師器・須恵器                             |             | 17 |
| 18   | 2004/11/24                | 岩坪岡田鳥遺跡 | 礪波郡国吉郷12025 | 岩坪岡田鳥遺跡   | 個人住宅の建設       | 2,260       | 90          | 古代・中世      | 古土・土師器・須恵器                 | 土師器・須恵器                             |             | 18 |

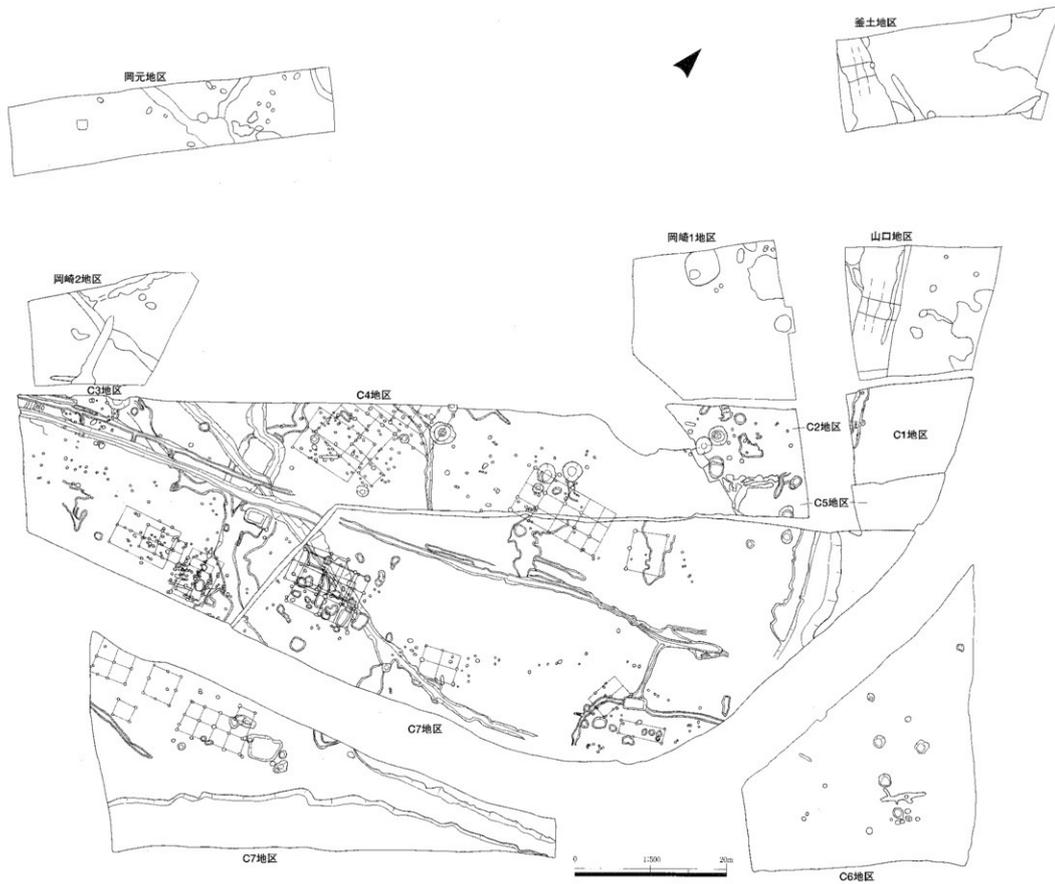
第3表 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田鳥遺跡既往の調査

手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田鳥遺跡既往の調査 文獻

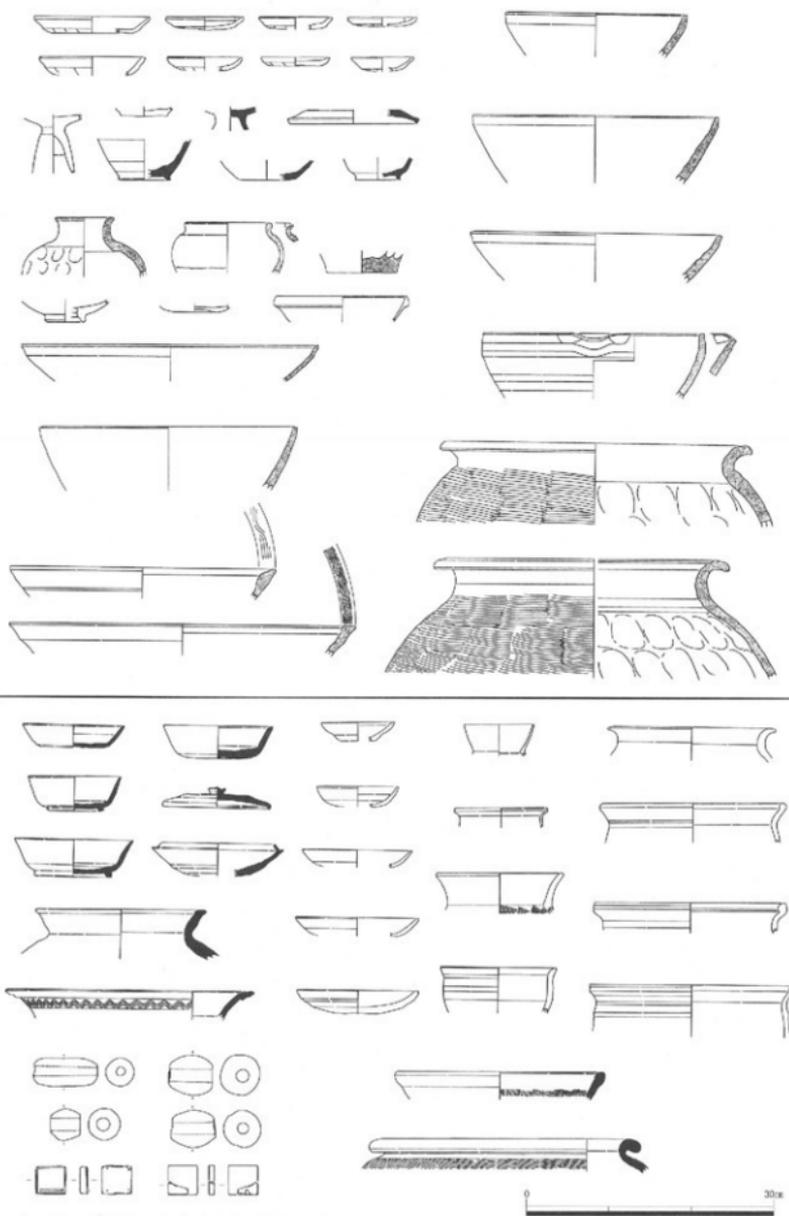
- 1 岩坪岡田鳥遺跡 1995「能越自動車道開通に伴う文化財調査報告書」NEX-10-NEX-11 財団法人国土文化政策研究所文化財調査センター
- 2 栗山 雅 2000「岩坪岡田鳥遺跡調査報告書」高岡市教育委員会
- 3 山口 伸一 2003「岩坪岡田鳥遺跡」『岩坪岡田鳥遺跡文化財センター年報』平成11年度 岩坪岡田鳥遺跡文化財センター
- 4 大田 正一 2003「岩坪岡田鳥遺跡」『高岡市教育委員会』平成11年度 岩坪岡田鳥遺跡文化財センター
- 5 大田 正一 2003「岩坪岡田鳥遺跡」『高岡市教育委員会』平成11年度 岩坪岡田鳥遺跡文化財センター
- 6 栗山 雅 2004「岩坪岡田鳥遺跡」『高岡市教育委員会』平成11年度 岩坪岡田鳥遺跡文化財センター
- 7 栗山 雅 2005「岩坪岡田鳥遺跡」『高岡市教育委員会』平成11年度 岩坪岡田鳥遺跡文化財センター



第8図 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡調査位置 (1:5,000)  
高岡市都市計画基本図 (昭和52年測量 平成15年修正) に加筆



第9図 岩坪岡田島遺跡 財団調査C1～C7地区と高岡市教育委員会調査地区 (1:500)



第10図 岩坪岡田島遺跡 高岡市教育委員会調査地区出土遺物 (1:6) 文献8より転載

上段：釜上・山口・岡崎1・2・岡元地区  
 下段：グラスキューブ地区

### (3) 東大寺領荘園「須加村墾田地」との関係

手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡のある国吉地区は、先学の研究から東大寺領荘園「須加村墾田地」の比定地とされる。ここでは、手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の発掘の契機ともなった比定地についての諸説を整理して提示しておきたい。

東大寺領荘園は、天平勝寶元年（749年）に東大寺が開墾して私有田にすることを許された4,000町の田地を確保するために越中や越前につくられた墾田地のことで、越中には10箇所ある。その墾田地の地図（開田図）が17枚現存しており、そのうちの2枚が「須加村墾田地」のものである。これらの墾田地は、以前から比定地を巡る研究が行われてきた。その中でも「須加村墾田地」の比定地は、その地図に山麓線や水路などが描かれており、最も比定しやすいものとして扱われてきた。

「須加村墾田地」の比定地には、図示した4説が代表的なものである（第11図）。Aは、和田一郎氏によるもので現在の高岡市岩坪・手洗野・細池付近である。Bは、弥永楨三氏らによるものでAのすぐ隣で現在の高岡市岩坪・五十里付近である。Cは、木倉豊信氏によるものでA・Bよりも北東に離れ現在の高岡市須田・五十里・五十里東町付近である。Dは、金田章裕氏によるものでCとほぼ同じところである。これらの説を大きく分けると、A・Bは開田図に描かれた山麓線を元に比定したものの、C・Dは開田図に描かれた水路や条里を元に比定したものである。なお「須加村墾田地」の開田図には、天平寶字三年（759年）と神護景雲元年（767年）の二枚があるが、様相が異なっており、比定論では前者を用いることが多いようである。

「須加村墾田地」の比定地内には、手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡・NEJ-12埋蔵文化財包蔵地・須田藤の木遺跡・五十里西遺跡などがある。このうち、当該期（8～9世紀）の遺構・遺物をもつものは、今のところ岩坪岡田島遺跡と須田藤の木遺跡である。岩坪岡田島遺跡では、財田のA地区で9世紀末頃の掘立柱建物と土師器が出土、高岡市教育委員会のグラスキューブ地区で8～9世紀の土坑・溝と土師器・須恵器・緑釉陶器が出土、隣接する三芝硝材地区でも同様な状況であった。この他の地区では、中世前半の遺構・遺物を主体としている。須田藤の木遺跡では、8～10世紀の掘立柱建物と土師器・須恵器・大刀足金物・暗文土器・灰釉陶器・木簡などが出土している。このように遺構・遺物を見る限りでは、須田藤の木遺跡のあるC・D説の方が比定しやすいかもしれない<sup>1)</sup>。ただし、開田図通りの水路や条里が遺構としては明らかではなく、合致するわけではない。そういう意味では、岩坪岡田島遺跡の北部の高岡市教育委員会調査区も可能性は否定できないであろう（A説）。

## 3 周辺の遺跡

近世北陸道遺跡・手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の周辺の遺跡について見ていきたい。対象とするのは、遺跡の所在する小矢部川低地を中心とし、その周辺の庄川扇状地・西山丘陵・氷見平野の一部を含めた範囲で更に実際に発掘調査が行われた遺跡を取り上げて時代順に見てみたい。

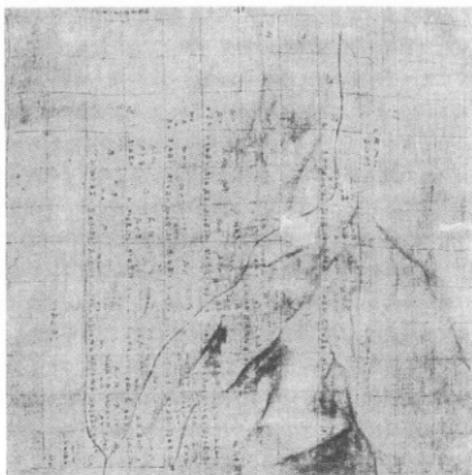
**旧石器時代** 庄川扇状地では、東側の芹谷野段丘上にナイフ型石器を出土した高沢岡I・II遺跡（4）がある。この他は、伏木台地の表採資料ぐらいで遺跡数は非常に数少ない。

**縄文時代** ほぼ全域に遺跡が分布する。草創期は未発見であるが、早期は、氷見平野の山裾にある上久津白中屋遺跡（5）で早期後葉～後期前葉の大量の上器を含む谷と早期末～前期初頭の貝層を検出している。前期は、西山丘陵の裾部に上野A遺跡（6）があり、前期後葉の竪穴建物と土器がまともに出て上っている。土器の時期は、岩坪岡田島遺跡とほぼ同時期で同様な地形にあることから両者の関係が窺える。中期は、庄川扇状地東側の芹谷野段丘付近に前葉の竪穴建物を検出した飯照等遺跡

注1 須田藤の木遺跡と比定地については、今迄の地図に岩坪岡田島遺跡の位置が誤り、須田氏は、それまで文献や空中写真に負うところが大きかった比定地論について、最新の調査成果も含めて再考を行っている。

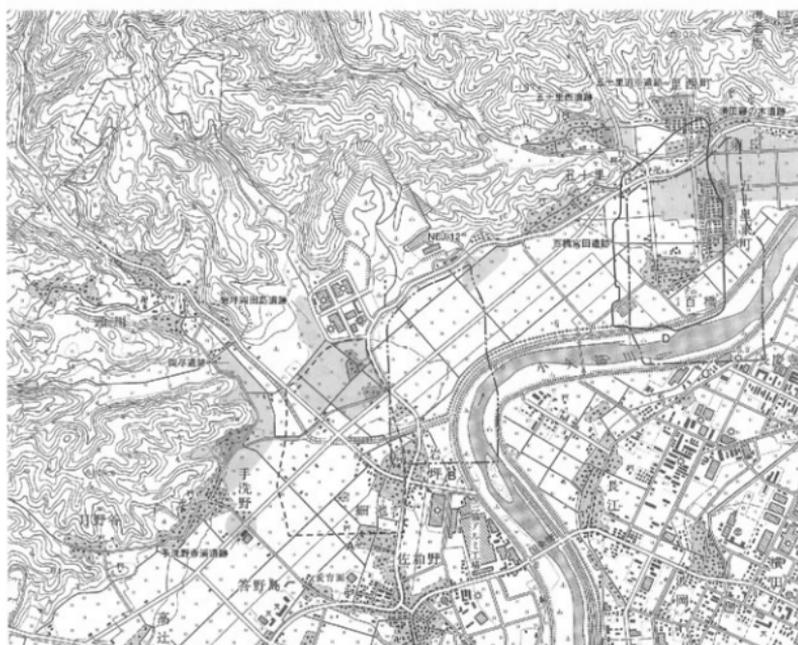


1. 『越中國射水郡須加開田地圖』  
天平寶字三年（759年）



2. 『越中國射水郡須加村墾田地圖』神護景雲元年（767年）

1.2（『日本莊園繪図彙影』より）



須加村墾田地比定圖と周辺の遺跡（1：25,000）

A：和田一郎説 B：弥水貞三説 C：木倉豊信説 D：金田章祐説

第11図 東大寺領須加村墾田地関係図

(7)、後葉～末葉の串田新式の標識遺跡である国指定史跡串田新遺跡(8)がある。西山丘陵には、谷部に中期中葉～後期前葉の土器が出土した堂前遺跡(9)がある。このように中期になるとそれまでに比べ遺跡数が増え台地上に立地する。後期・晩期になると庄川扇状地や水見平野などの低地(標高5～10m)にも遺跡が進出増加する。庄川扇状地では、扇端部の高岡台地に後期前葉を中心とする小竹藪遺跡(10)、佐野台地に晩期後葉～末葉の建物を伴う集落を検出した下老子笹川遺跡(11)、晩期後葉の裏高遺跡(12)、高岡台地にある前葉の中川遺跡(13)などがある。扇尖部には、打製石斧が大量に出土した後期前葉の久泉遺跡(14)がある。水見平野では、後期～晩期中葉の土器や魚骨・獣骨の出土した四十塚遺跡(15)、後期前葉の土器が出土した惣領浦之前遺跡(16)などがある。ただし、この時期の遺構は非常に少なく、下老子笹川遺跡以外は遺物包含層などから出土したものが多く、

弥生時代 中期中葉から遺跡が見られる。庄川扇状地では、佐野台地上に富山県を代表する中期の集落石塚遺跡(17)、後期～終末期の大規模な集落を検出した下老子笹川遺跡、終末期の土器が出土した鷺北新遺跡(18)などがある。西山丘陵裾部では、石堤長光寺遺跡(19)で後期の土器溜まりを検出している。水見平野では、惣領浦之前遺跡で半円に巡る溝から終末期の土器と共に榎などの木製品が大量に出土し、上久津呂中屋遺跡では、建物を伴う後期の集落を検出している。このように中期の遺跡の立地は、縄文晩期と同様に低地が主体であるが、後期になると遺跡の数は増大し、各地で集落がつくられるようになる。

古墳時代 遺跡は、主に平野部に集落、丘陵部に古墳が見つまっている。庄川扇状地では、扇端部に後期の円墳を検出した石名田木舟遺跡(20)・中期の竪穴建物を検出した五社遺跡(21)などがある。西山丘陵では、先端部に出現期の倉谷古墳群(22)、前期～中期の板屋谷内B・C古墳群(23)、終末期の頭川城ヶ平横穴墓群(24)、後期の竪穴建物を検出した麻生谷新生園遺跡(25)、北側先端部に国史跡桜谷古墳群(26)などがある。水見平野では、前期の大型前方後方墳柳山布尾山古墳(27)、中期～後期の竪穴建物を検出した中谷内遺跡(28)などがある。その他にも丘陵部には、未調査だが数多くの古墳が見つまっている。

古代 遺跡は小矢部川低地や庄川扇状地扇尖部にも見られ、広範囲な分布となる。庄川扇状地では、扇尖部に8～9Cの竪穴・掘立柱建物を検出した戸出古戸遺跡(29)、先端部に7～9Cの竪穴・掘立柱建物を検出した石名田木舟遺跡、佐野台地に7Cの土坑や溝を検出した榎穂町遺跡(30)・8～9Cの船着き場と倉庫群を検出した中保B遺跡(31)・8～9Cの掘立柱建物群と墨書土器・木簡が出土した東木津遺跡(32)がある。小矢部川低地では、8～9Cの掘立柱建物群を検出した麻生谷遺跡(33)・8～9Cの古代北陸道とされる道路跡を検出した麻生谷新生園遺跡・須田藤の木遺跡(34)がある。庄川の低地部には、8～9Cの掘立柱建物群を検出した出来田南遺跡(35)がある。これらの遺跡は、集落遺跡で官衙や荘園比定地となっているものが多い。丘陵部では、西山丘陵に9C末の須臾器窯木窯跡(36)などがある。また、小矢部川河口の伏木台地には、越中国府岡連遺跡群(37)があり、国府や国分寺など古代の中心施設が発見されている。

中世 遺跡は、古代同様にはほぼ全域で見られるが、平野部と丘陵部とでは遺跡の性格が異なる。平野部では、庄川扇状地扇尖部に13～14Cの掘立柱建物や焼土坑を検出した高道岡高遺跡(38)・15Cの集落秋元窪田高遺跡(39)、扇端部に14～15Cの集落石塚江之戸遺跡(40)、15～16Cの平城で天正地震によって埋没した木舟城跡(41)とその城下町開跡大瀧遺跡(42)など、小矢部川左岸の沖積地では、庄川の低地部では、13C頃の方形区画溝・井戸を検出した赤祖父屋間遺跡(43)がある。西山丘陵では、13～14Cの山岳寺院神代テラヤシキ遺跡(44)・16C後半の山城飯久保城跡(45)などが

あり、この他に丘陵部では調査は行われていないが、数多くの山城・砦が見つかった。氷見平野では、13~14Cの掘立柱建物を検出した惣領野原遺跡(46)などがある。

近世 庄川扇状地では、扇尖部に17Cの近世墓移田野塚遺跡(47)、扇端部に17~19Cの集落下老子笹川遺跡がある。小矢部川低地では、16~18Cの集落江尻遺跡(48)・地崎遺跡(49)、高岡台地とその周辺に17Cの前田氏の居城高岡城跡(50)、その関連遺跡の瑞龍寺遺跡(51)・八丁道遺跡(52)、中世~近世の塚入定城遺跡(53)などがある。この他には、調査された遺跡は数少なく、近世の集落は現在の集落には重複しているものと考えられる。(町田賢一)

| 番号 | 遺跡名       | 所在地     | 標高(m)   | 主な時代    | 主な遺構                   | 文献 |
|----|-----------|---------|---------|---------|------------------------|----|
| 1  | 近世北原遺跡    | 高岡市北原   | 12      | 江77     | 道路橋                    | 本書 |
| 2  | 宇佐野赤土遺跡   | 高岡市宇佐野  | 7       | 室町      | 掘立柱建物・自然土築・遺跡橋・井戸・土坑・礎 |    |
| 3  | 沼川河原遺跡    | 高岡市沼川   | 7~9     | 慶長~徳川   | 堀・土築・礎・自然土築・遺跡橋・井戸・土坑  |    |
| 4  | 高岡1号・2号遺跡 | 高岡市高岡1  | 53~54   | 鎌倉~室町   | 自然土築                   | 26 |
| 5  | 上久保古墳遺跡   | 水堀区上久保  | 11~21   | 月夜・古    | 月夜・古                   | 27 |
| 6  | 上野入遺跡     | 高岡市上野入  | 12      | 赤土・室町   | 掘立柱建物・井戸・土坑            | 29 |
| 7  | 高岡中遺跡     | 高岡市中遺跡  | 80      | 縄文中期    | 土坑・礎                   | 30 |
| 8  | 中野遺跡      | 高岡市中野   | 25~44   | 縄文中期    | 土坑・礎                   | 31 |
| 9  | 平塚遺跡      | 高岡市平塚   | 66~27   | 縄文中期~後期 | 土坑                     | 31 |
| 10 | 小笠原遺跡     | 高岡市小笠原  | 15      | 縄文中期~後期 | 土坑・礎                   | 21 |
| 11 | 下妻ノ尾遺跡    | 高岡市下妻ノ尾 | 14~16   | 縄文前期    | 土坑・礎                   | 28 |
| 12 | 高岡遺跡      | 高岡市高岡   | 18~19   | 縄文前期    | 土坑・礎                   | 36 |
| 13 | 中川遺跡      | 高岡市中川   | 33      | 縄文前期    | 土坑・礎                   | 40 |
| 14 | 八尾遺跡      | 高岡市八尾   | 54~55   | 縄文前期    | 土坑・礎                   | 33 |
| 15 | 日ノ尾遺跡     | 高岡市日ノ尾  | 40      | 縄文前期~後期 | 土坑・礎                   | 13 |
| 16 | 惣領野原遺跡    | 氷見市惣領   | 7~8     | 縄文前期    | 土坑・礎                   | 20 |
| 17 | 心塚遺跡      | 高岡市心塚   | 11~12   | 縄文中期    | 土坑・礎                   | 7  |
| 18 | 新北原遺跡     | 高岡市新北原  | 3       | 縄文中期    | 土坑・礎                   | 4  |
| 19 | 石塚長寺遺跡    | 高岡市石塚   | 16~19   | 縄文後期    | 土坑・礎                   | 41 |
| 20 | 石川原木方遺跡   | 小矢部市石川原 | 21~22   | 縄文      | 土坑                     | 22 |
| 21 | 三ツ池遺跡     | 小矢部市三ツ池 | 23~24   | 縄文      | 土坑・礎                   | 46 |
| 22 | 高岡古墳遺跡    | 高岡市古墳   | 47~48   | 古墳      | 土坑・礎                   | 25 |
| 23 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 49~64   | 古墳      | 土坑・礎                   | 17 |
| 24 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 39~60   | 古墳      | 土坑・礎                   | 15 |
| 25 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 13      | 古墳      | 土坑・礎                   | 42 |
| 26 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 18~20   | 古墳      | 土坑・礎                   | 43 |
| 27 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 25      | 古墳      | 土坑・礎                   | 3  |
| 28 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 3~32    | 古墳      | 土坑・礎                   | 12 |
| 29 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 28~30   | 古墳      | 土坑・礎                   | 1  |
| 30 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 3~9     | 古墳      | 土坑・礎                   | 16 |
| 31 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 30      | 古墳      | 土坑・礎                   | 6  |
| 32 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 10~12   | 古墳      | 土坑・礎                   | 30 |
| 33 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 13      | 古墳      | 土坑・礎                   | 7  |
| 34 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 3~8     | 古墳      | 土坑・礎                   | 28 |
| 35 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 9       | 古墳      | 土坑・礎                   | 42 |
| 36 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 11      | 古墳      | 土坑・礎                   | 5  |
| 37 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 14~22   | 古墳      | 土坑・礎                   | 44 |
| 38 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 35      | 古墳      | 土坑・礎                   | 37 |
| 39 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 45      | 古墳      | 土坑・礎                   | 30 |
| 40 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 9~11    | 古墳      | 土坑・礎                   | 29 |
| 41 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 22~23   | 古墳      | 土坑・礎                   | 24 |
| 42 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 21~22   | 古墳      | 土坑・礎                   | 19 |
| 43 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 9       | 古墳      | 土坑・礎                   | 10 |
| 44 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 125~140 | 古墳      | 土坑・礎                   | 14 |
| 45 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 50~75   | 古墳      | 土坑・礎                   | 5  |
| 46 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 9       | 古墳      | 土坑・礎                   | 15 |
| 47 | 高岡中層古墳遺跡  | 高岡市中層   | 25~26   | 江77     | 遺跡橋                    | 23 |
| 48 | 江尻遺跡      | 高岡市江尻   | 18~19   | 江77     | 掘立柱建物・土台               | 36 |
| 49 | 地崎遺跡      | 小矢部市地崎  | 22      | 江77     | 掘立柱建物・土台               | 9  |
| 50 | 高岡城跡      | 高岡市高岡   | 15      | 室町      | 土坑・礎                   | 18 |
| 51 | 瑞龍寺遺跡     | 高岡市瑞龍寺  | 15      | 江77     | 礎                      | 3  |
| 52 | 八丁道遺跡     | 高岡市八丁道  | 15      | 江77     | 礎                      | 38 |
| 53 | 塚入定城遺跡    | 高岡市塚入   | 9~10    | 室町      | 礎                      | 5  |

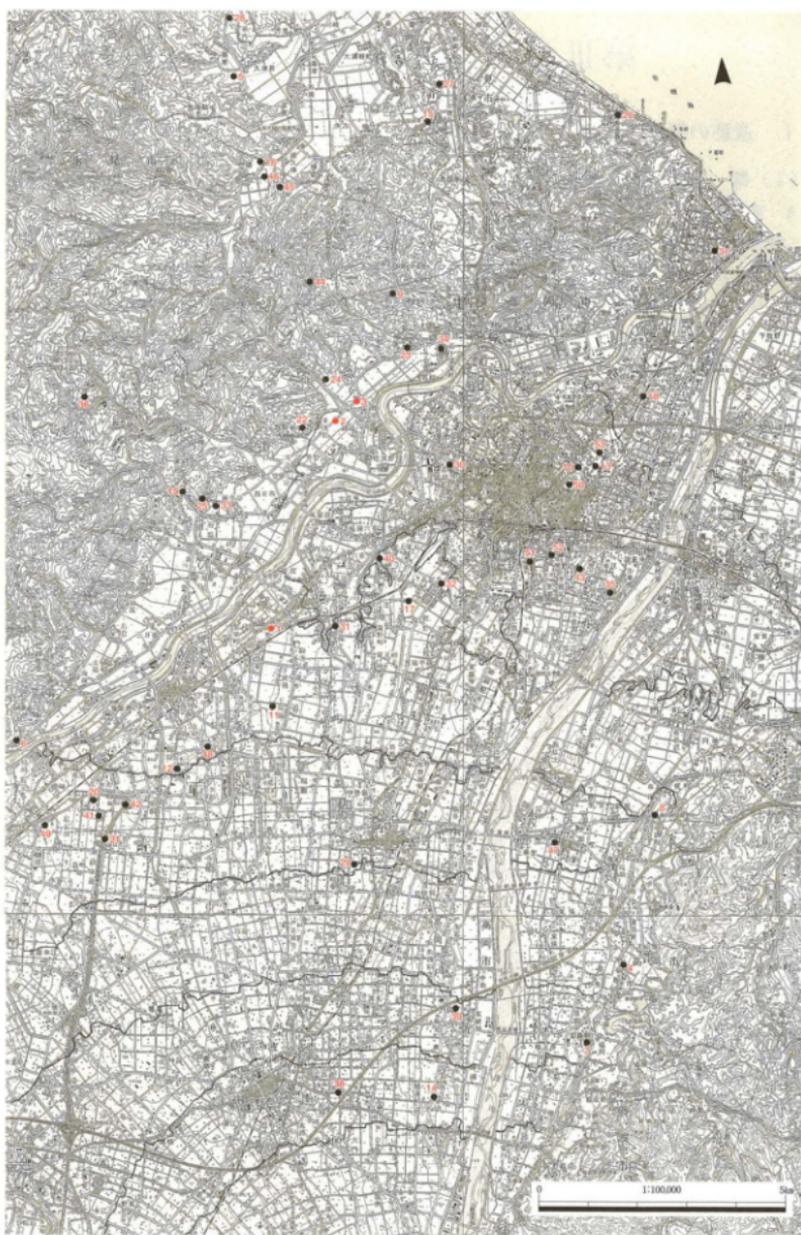
第4表 周辺の遺跡

## 参考文献

- 奥田淳爾 1976 『東大寺の聖田地』『富山県史 通史編1 原始・古代』富山県  
 京谷徳一 1966 『国吉小史』国吉小史刊行委員会  
 金田草裕 1999 『古地図からみた古代日本』中公新書  
 杉 仁・長岡 篤 1976 『越中国射水郡須加野地開田地図』『越中国射水郡須加野地開田地図』  
 『日本荘園図録集成 上』西岡虎之助 東京堂出版  
 東京大学史料編纂所 1995 『越中国射水郡須加野地開田地図』『越中国射水郡須加野地開田地図』  
 『日本荘園図録集成 上』東日本一 東京大学出版会  
 富山県教育委員会 1980 『富山県歴史の道調査報告書—北陸街道—』  
 長岡 篤 1991 『越中国聖田地図』『絵引荘園地図』荘園地図研究会 東京堂出版  
 根津明義 2000 『崇山庵の木造跡調査報告』高岡市教育委員会  
 2004 『越中国射水郡における東大寺領荘荘について』『富山史壇』第147号 越史壇  
 2005 『東大寺領須加野の所在にかかる考古学的考察』『富山史壇』第148号 越史壇  
 古川敏子 1996 『越中 b 越中射水郡東大寺領荘園図』『日本古代荘園図』東京大学出版会  
 和山一郎 1959 『須加野・須加庄』『高岡市史 上巻』高岡市市史編纂委員会

## 周辺の遺跡 文献

1. 舟山 吳 2005 『中谷内遺跡』『埋蔵文化財調査概要—平成16年度—』財団法人富山県文化振興財団
2. 荒井 隆 1996 『松谷古墳群調査概報』高岡市教育委員会
3. 荒井 隆 1997 『龍藏寺遺跡、齊山地区』『市内遺跡調査概報Ⅰ』高岡市教育委員会
4. 荒井 隆 1998 『赤祖父羽所間遺跡』『繁北新遺跡』『市内遺跡調査概報Ⅱ』高岡市教育委員会
5. 荒井 隆 2000 『出来田南遺跡』『入定塚遺跡』『市内遺跡調査概報Ⅲ』高岡市教育委員会
6. 荒井 隆 2003 『瑞穂町遺跡 大和ハウス地区』『市内遺跡調査概報Ⅳ』高岡市教育委員会
7. 荒井 隆・岡田 広・山口辰一 2001 『石塚遺跡・東本津遺跡調査報告』高岡市教育委員会
8. 荒井 隆 2005 『岩坪岡田島遺跡』『市内遺跡調査概報Ⅴ』高岡市教育委員会
9. 池野正男・中川道子・越前慎子・三島道子 2009 『開勝大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団
10. 内田亜紀子・田中昌樹 2004 『惣領浦之前遺跡』『埋蔵文化財調査概要—平成15年度—』財団法人富山県文化振興財団
11. 越前慎子 2002 『堂前遺跡』『埋蔵文化財調査概要—平成13年度—』財団法人富山県文化振興財団
12. 大野 究 2001 『柳田尾山古墳 第3次調査の成果』永見市教育委員会
13. 大野 究 2002 『四十塚遺跡』『永見市史7 資料編Ⅴ 考古』永見市史編さん委員会
14. 大野 究 2002 『神代テラヤキ遺跡』『永見市史7 資料編Ⅴ 考古』永見市史編さん委員会
15. 大野 究 2003 『飯久保城跡』永見市教育委員会
16. 大田治河 2000 『戸川戸川出遺跡調査概報』高岡市教育委員会
17. 金三津道子 2004 『板谷谷内B・C古墳群』『埋蔵文化財調査概要—平成15年度—』財団法人富山県文化振興財団
18. 桐谷 優 1997 『高岡城遺跡調査概報』高岡市教育委員会
19. 東山雅夫 2002 『木舟城跡発掘調査報告—龍岡碑認調査報告—』福岡町教育委員会
20. 東山雅夫 2003 『上野A遺跡発掘調査報告Ⅰ』福岡町教育委員会
21. 小島俊彰 1964 『高岡公園小竹敷縄文遺跡』高岡市教育委員会
22. 酒井重洋・島山美佐子・中川道子 2002 『石名田木舟遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団
23. 島田美佐子 2004 『惣領野郎遺跡』『埋蔵文化財調査概要—平成15年度—』財団法人富山県文化振興財団
24. 新七輝久 2001 『石塚江之戸遺跡』高岡市教育委員会
25. 神保孝造・岡上進一・松本幸治 1977 『富山県砺波市巖照寺遺跡緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
26. 神保孝造・久々忠義 1978 『高沢島1遺跡』『高沢島2遺跡』『富山県砺波市梅樹野遺跡群予備調査概報』富山県教育委員会
27. 杉山大吾 2006 『上久津邑中遺跡』『平成17年度 埋蔵文化財年報』財団法人富山県文化振興財団
28. 高柳由紀子・新宅 茜・町田賢一他 2006 『b-1老子笹川遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団
29. 田中道子 1990 『秋元遺跡発掘調査報告書』砺波市教育委員会
30. 羽波区裕 1999 『高道向島遺跡』砺波市教育委員会
31. 根津明義 2000 『崇山庵の木造跡調査報告』高岡市教育委員会
32. 根津明義 2002 『中保B遺跡調査報告』高岡市教育委員会
33. 野原人輔 2005 『久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ』砺波市教育委員会
34. 橋本正春 1994 『富山県大門町甲田新遺跡Ⅱ』大門町教育委員会
35. 岡宮正光・日沖剛史 2002 『松谷古墳群調査報告』高岡市教育委員会
36. 森 隆・島田美佐子 2003 『江尻遺跡・筑島遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団
37. 山口辰一 1988 『勝興寺南側地区』『越中国射水郡須加野地開田地図2』高岡市教育委員会
38. 山口辰一 1988 『八丁遺跡調査概報1』高岡市教育委員会
39. 山口辰一 1993 『移田野塚遺跡調査概報』高岡市教育委員会
40. 山口辰一 1996 『中川遺跡』『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅱ』高岡市教育委員会
41. 山口辰一 1996 『石塚長光寺遺跡』『中野遺跡』『市内調査概報Ⅳ』高岡市教育委員会
42. 山口辰一・武部善光・高柳正春 1997 『麻生谷遺跡・麻生谷新牛園遺跡調査報告』高岡市教育委員会
43. 山口辰一 1998 『麻生谷新牛園遺跡、村田地区』『市内調査概報Ⅴ』高岡市教育委員会
44. 山口辰一 1999 『木堂跡』『国吉・石塚地区の遺跡調査概報』高岡市教育委員会
45. 山口辰一・荒井 隆・日沖剛史 2001 『須川城ヶ平横穴墓群調査報告3』高岡市教育委員会
46. 山本正敏・岡本淳一・中川道子・三島道子 1998 『五辻遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団



第12図 周辺の遺跡

# 第三章 岩坪岡田島遺跡

## 1 遺跡の概要

### (1) 概要

#### A 縄文時代

縄文時代の遺構・遺物は、遺跡の北端C6・C7地区で検出した。縄文時代の遺構検出面(Ⅱ層)は、古代以降の遺構検出面(Ⅲ層)から約1~1.5m下の標高約5.7~7.4mである。地形は、西山丘陵から続く台地状の高まり(西側)から小矢部川(東側)へ下っていく様相で、東端は谷状に落ち込む。縄文時代と古代以降の遺構検出面との間には、小矢部川による河川や湿地の堆積によるとみられる無遺物間層があり、縄文時代の層(遺物包含層や遺構検出面)はこれらにバックされた形で見つかった。分布調査や試掘調査では、縄文時代の遺物は見られず、平成11・12年度の調査でも古代以降の遺構しかみられず遺跡の時期は、古代から中世の集落とされていた。ところが、平成13年度のC6地区で中世の井戸を断ち割りしたところその下層から縄文土器(鯉ヶ森式)がまとめて出土した。また、この周囲にも縄文土器のまとまりが見られたことから、急速下層としてC6地区と隣のC7地区の調査を行った。なお、遺物整理段階では、C4・C5地区の井戸埋土からも縄文土器小片が出土していることがわかり遺跡の北端には、縄文時代の生活面が広がっていたことが予想される。

検出した遺構は、落ち込み・土器集中地点・自然流路である。落ち込みは、C6地区のほぼ中央にあり、縄文土器や石器がいくつかのまとまりをもって出土したが、掘り込みは浅く不整形なもので、炉や柱穴がないことから竪穴建物にはならなかった。土器集中地点は、縄文土器がまとまっていたところで、自然流路の肩部や落ち込みの周りに8箇所見つかった。自然流路は、C7地区の中央を南北に流れるものとその支流と見られるものがC6地区に東西に流れる。遺構の時期は、出土した土器から前期後葉(鯉ヶ森Ⅱ式)と前期末葉(朝日下層式)の2時期があり、土器集中地点のあり方から見ると北側が前期後葉(鯉ヶ森Ⅱ式)、南側が前期末葉(朝日下層式)となる。なお、この間の時期の遺物は見られず、一度断絶があることがわかる。

縄文時代の環境は、花粉分析から湿地林の分布が推定され、周辺には針葉樹・落葉広葉樹・照葉樹からなる森林が分布していたものとされる<sup>32</sup>。また、自然流路の肩部付近の埋没樹根や倒木の樹種同定では、ヤマグワやトネリコなど沢沼いなどに生育する落葉高木があったことがわかった<sup>33</sup>。

これらのことから、縄文時代の岩坪岡田島遺跡は、建物を持つ集落ではなく背後の西山丘陵で狩猟採集などを行い、ここで得た木の実を自然流路で水さらしたり、その肩部で獣肉や木の実などの煮沸を行う場所、いわばキャンプサイトであったのであろう。

(町田賢一)



土器出土状況

注2 第二分層 自然科学分析 株式会社古環境研究所「B、北層分析 2、岩坪岡田島遺跡C7地区S D1123・包含層における北層分析」  
注3 第二分層 自然科学分析 株式会社古環境研究所「IV、南層同定 2、岩坪岡田島遺跡C7地区S D1123・包含層における南層分析」

## B 古墳時代～古代

古墳時代～古代の遺構はA地区の北側の一部と、C4・C7地区で検出した。

A地区の古代遺構検出面(Ⅳ層)は中世の遺構面(Ⅲ層)から約30cm下の標高約6.5mである。調査区の北側の一部で9世紀末頃の掘立柱建物2棟を検出したのみで、同時期の集落の本体は遺跡の北側にあるものと考えられる。

C4・C7地区では中世の遺構面と同一面で7世紀の遺構を確認した。7世紀初頭あるいはそれ以前に遡る可能性のある自然流路もあり、それらが何度も流路を変えつつ蛇行して流れていた後、人為的に溝が開削された。住居は確認されなかったが、遺物には小型棒状尖底の製塩土器等があり、付近には物資の交流が盛んな集落が形成されていたと推測される。包含層や中世の遺構から8～11世紀のものも出土しており、特殊な遺物には須恵器猿面硯がある。

## C 中世

中世の遺構は全調査区で検出した。中世の遺構検出面(Ⅲ層)は、下八ヶ用水によってC7地区の中央でく字状に分断され、用水の北側は台地の縁辺部、南側が低地部となっている。用水を境に標高差があり、C7地区北側の最低レベルと南側の最高レベルの差は約80cmである。C地区の台地部は北西側中央が最も高く、標高は約8.1～9.5mである。低地部のA・B地区とC7地区低地部のⅢ層面は約6.5～7.3mで、南東の河川跡に向かって低くなっていく。C6地区はやや高く7.4m前後であるが、Ⅲ層の一部が後世に削り取られており、遺構面としては本来C7地区北側の高さに近かった可能性がある。

低地部には、B2地区の自然河川の近くに12世紀中頃～後半の掘立柱建物が散在する。建物を囲む溝や自然河川からは土鍾が出土し、網漁業が行われていたと考えられる。総柱建物が主体で、小規模な建物には側柱建物もある。井戸はなく、河川の水が利用されたのであろう。C7地区南側にも自然河川があり、近くに総柱建物と小規模な側柱建物がみられる。河川は大規模なものともみられるが、本体は調査区外にあり、出土した種実・花粉・珪藻等の自然科学分析から、12～13世紀には周辺の低地部には湿地林が形成され、時折洪水などによって河川の水が溢れる湿地的環境であったとされる<sup>24</sup>。この河川はその後南東方向へ後退したと推測されるが、建物群は水の流れがまだ近くににあった時期に存在しており、堅穴状の土坑から土鍾が出土していることから、河川と生活は密接に繋がっていたものと考えられる。

C地区の台地上には、12世紀後半頃道路が整備され、道路に沿って掘立柱建物群が並ぶ。道路の一部にはバラスが敷かれ、欄干は小規模な用水としての機能も併せ持っていたと推測される。12世紀後半から14世紀を中心に集落が展開し、建物は何度か建て替えられ、総柱建物から変則的な中抜け柱の建物や、棟持柱と側柱の間隔が揃わない建物がみられるようになる。建物の付近に井戸が掘られるが、現在は湧水がみられる井戸は12世紀末に構築された縦板組の井戸1基のみである。他の曲物井戸や素掘り井戸は、現在は湧水がなく、水源を天水に頼っていたか、あるいは当時付近を流れていた自然河川や用水の伏流水が得られたのかもしれない。

## D 中世末期～近世

中世末期～近世の遺構はA地区とB2地区のⅡ層上面で検出した溝4条のみである。Ib層・Ⅱ層の遺物の年代から16世紀以降の遺構と考えられる。包含層の遺物としては17世紀の越中瀬戸が多く出土しており、遺構は確認されなかったものの、当遺跡の主要な時期である中世前期からやや時代を経て、近世初頭に農村の開発が進められた時期があったものと考えられる。

注4 第二分層 自然科学分析 株式会社パレオ・ラボ 遺物検出「2」 花粉分析 1. 宇佐野幸徳監修・岩坪岡田島遺跡の発掘と分析

第二分層 自然科学分析 株式会社パレオ・ラボ 遺構検出「3」 建築分析 2. 岩坪岡田島遺跡の環境と土壌

第三分層 自然科学分析 株式会社パレオ・ラボ 遺物検出「V」 宇佐野幸徳監修・岩坪岡田島遺跡から出土した大規模建物

## (2) 土層 (第5表, 第13図)

基本層序は、土層中に包含する遺物の年代から、全調査区を通して、I a層：表土、I b層：中世末～近世包含層、II層：中世末～近世遺構検出面・中世包含層、III層：古代・中世遺構検出面・古代包含層、IV層：古代遺構検出面、V～VI層：無遺物層、VII層：縄文時代包含層、IX・X層：縄文谷埋土、XI層：縄文時代遺構検出面、XII層：無遺物層とした。

各地区により、基本層序に対応する土層は土色・土質が若干異なるが、大凡ではI層からIII層までがシルト・粘土質ロームで、中間の無遺物層であるIV層～VI層は砂・粘土が堆積する。VI層以下はC4～C7地区でしか下層を確認していないが、VII層とした植物遺体（ビート）が混じる黒褐色の層の下に粘土・シルトからなるVIII層～X層があり、C6・C7地区ではその層中から縄文土器が出土した。最終遺構面であるXI層はシルト層で、その下のXII層は砂質ロームである。

遺構面は3面あるが、全地区にわたって検出されたのは中世面のみである。中世末～近世面はA・B地区で第1面として検出された。A地区の北側の一部では、古代（9世紀）の遺構が第3面としてIV層上面で確認され、C4・C7地区では古墳時代～古代（7世紀～9世紀）の遺構が中世面と同一遺構面であるIII層上面で検出された。縄文時代の遺構はC6地区全面とC7地区北東部で第2面としてXI層上面で検出された。

A地区は、北東部が河川改修による深い攪乱を受けているが、その他はほぼ一定の水平堆積で、I b層：灰色粘土質ローム、II層：灰色粘土質ローム・暗オリーブ褐色粘土質ローム、III層：暗灰黄色シルト、IV層：灰黄色シルト・灰オリーブ色砂質ローム、V層：オリーブ灰色砂・同シルト質ロームがみられる。遺構はまばらであるが、II層上面で中世末～近世の遺構、III層上面で中世の遺構、IV層上面で古代の遺構を検出した。

B1地区は、I b層：灰色シルトの下は、調査区のほとんどが中世の深い河川（SD11）の範囲内で、その埋土が堆積する。わずかに南東端にIII層上面からの落ち際が確認され、III層：黄灰色粘土質ローム、IV層：灰黄色粘土質ローム、V層：緑灰色砂となっている。下層の遺構は確認していない。

B2・3地区は、I b層：灰色シルト質ローム、II層：黒褐色粘土質ローム、III層：暗灰黄色粘土質ローム、IV層：灰オリーブ色シルトがほぼ全面に一定に水平堆積する。遺構はII層上面で中世末～近世の溝を検出し、III層上面で中世の遺構を検出した。B2地区のIII層中から古代の遺物が出土したため一部をIV層上面まで掘り下げて下層確認を行ったが、古代の遺構は検出されなかった。

C1・2地区は、削平後、盛土整地されており、II層は残っていない。III層：灰オリーブ色粘土質ローム・にぶい黄色粘土質ローム上面で中世の遺構を検出した。下層の遺構は確認していないが、C2地区の井戸SE451の断割りで確認された黒褐色シルト層がVIII層に相当するものかもしれない。

C3地区は、所々攪乱を受けているが、II層：灰色シルト質ロームが残る部分もある。III層：にぶい黄色粘土質ローム上面で中世の遺構を検出した。

C4地区は、削平を受けており、大部分は表土直下がIII層：灰黄色シルトとなる。II層：灰色シルト質ロームはほとんど残っていない。III層上面では、古墳時代～古代・中世の遺構を検出した。下層の遺構は確認していないが、井戸の断割り時にVII層：ビート混じりの褐灰色粘土質ローム、XI層：明緑灰色シルトを確認した。

C5地区は、II層：暗灰黄色シルト質ローム、III層：灰オリーブ色砂質ロームがほぼ全面に堆積し、III層上面で中世の遺構を確認した。下層の遺構は確認していないが、井戸の断割り時にVII層：ビート混じりの黒色シルト、XI層：明緑灰色シルト、XII層：明緑灰色砂質ロームを確認した。

C6地区は、削平後、盛土整地されており、II層は残っていない。III層：にぶい黄褐色粘土も削り取られ、I a層の直下がIV層：にぶい黄橙色砂になる部分も多い。III層及びIV層の上面で中世の遺構を検出したが、まばらで、深い遺構の底部分のみが残ったものと考えられる。中世面の下は、V層：にぶい褐色粘土、VI層：灰色砂、VII層：ビート混じりの黒褐色粘土といった無遺物層が堆積し、VIII層：暗灰黄色粘土質ロームから縄文土器が出土する。IX層：黄灰色粘土、X層：暗オリーブ灰色シルトは南側に向かって落ちていく谷状地形の埋土であり、これらも縄文時代包含層である。XI層：オリーブ灰色シルト上面で縄文時代の遺構を確認した。

C7地区は下八ヶ用水を境に北側と南側で標高差が大きく、南側は北側に合わせて高く盛土がなされている。北側は削平や乱流を受けている部分が多く、II層はほとんどみられない。III層：にぶい黄褐色粘土の上面で古墳時代～古代・中世の遺構を検出した。IV層：にぶい黄橙色砂、V層：にぶい褐色粘土、VI層：灰色砂は井戸の断割り時に確認した。VII層：ビート混じりの黒褐色粘土、VIII層：黄灰色粘土、XI層：オリーブ灰色シルトがほぼ全面にあるが、調査区西側の大部分は急激な落ち込みとなり、C6地区から続く北東側の一部の範囲でのみXI層上面で縄文時代の遺構を検出した。また井戸SE1204の断割りで、IX層：オリーブ灰色砂質ロームを確認している。南側では盛土の下にII層：黒褐色粘土質ローム、III層：にぶい黄褐色粘土があり、中世の遺構がIII層上面で検出された。南側の調査区の縄文時代の層はC6・C7地区北側から続く深い落ち込みにあたるものと考えられ、下層確認は行っていない。

また、地震痕跡として、噴砂と地割れを検出した。噴砂はA・B地区のI b層上面で検出し、その他にC6地区の壁面でIX・X層を切り、VIII層には達していない噴砂を確認した。I b層上面の噴砂は1858年(安政5)の飛越地震と推定されるが、C6地区下層の噴砂は7世紀以前の地震による可能性もあり、噴砂の地磁気測定からもA.D.620±30年の測定値が得られている。地割れはIII層上面で検出し、1586年(天正13)の天正地震によるものと推定される。

(越前慎子)

| 層      | 地区             | A   | B1                      | B2-B3                       | C1                        | C2 | C3                     | C4                       | C5                       | C6 | C7                        |
|--------|----------------|---|-------------------------|-----------------------------|---------------------------|----|------------------------|--------------------------|--------------------------|----|---------------------------|
| I a 層  | 表土             | 表土(耕作七層七)                                       |                         |                             |                           |    |                        |                          |                          |    |                           |
| I b 層  | 中世末～<br>近世初層   | 274/1灰色<br>粘土質ローム                               | 789/4/1<br>灰色シルト        | 723/1/1灰色<br>シルト質ローム        |                           |    |                        |                          |                          |    |                           |
| II 層   | 中世後半層          | 595/1灰色粘<br>土質ローム<br>2513/1暗オリ<br>ブ褐色粘土<br>質ローム | 無                       | 2273/2<br>黒褐色粘土質<br>ローム     | 無                         |    | 3074/1灰色シルト質ローム        |                          | 2574/2<br>暗灰色シル<br>ト質ローム |    | 2573/1黒褐色<br>粘土質ローム       |
| III 層  | 古代包含層          | 2273/2<br>黄灰色シルト                                | 2273/1<br>黄灰色粘土質<br>ローム | 2274/2<br>黄灰色粘土質<br>ローム     | 576/2<br>暗オリーブ色<br>粘土質ローム |    | 2274/3<br>にぶい黄褐色粘土質ローム | 2273/2<br>灰褐色シルト         | 575/2<br>暗オリーブ色<br>砂質ローム |    | 3073/2/3にぶい黄褐色粘土          |
| IV 層   | 無遺物層           | 2273/2<br>黄灰色シルト                                | 2273/2<br>黄褐色粘土質<br>ローム | 7273/2/2/1<br>暗オリーブ<br>色シルト |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 1073/2/3にぶい黄褐色砂           |
| V 層    | 無遺物層           | 2273/2<br>暗オリーブ灰色<br>シルト                        | 7273/2/1<br>黄褐色砂        |                             |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 7273/2/3にぶい褐色粘土           |
| VI 層   | 無遺物層           |   |                         |                             |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 7274/1灰色砂                 |
| VII 層  | 無遺物層<br>(ビート混) |   |                         |                             |                           |    |                        | 3074/1黒褐色<br>粘土質ローム      | 572/2黒色<br>シルト           |    | 7273/2/1黒褐色粘土             |
| VIII 層 | 縄文包含層          |   |                         |                             |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 2274/2黄褐色<br>粘土質ローム       |
| IX 層   | 縄文包含層          |   |                         |                             |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 2274/1黄褐色<br>粘土           |
| X 層    | 縄文包含層          |   |                         |                             |                           |    |                        | 無                        | 無                        |    | 2274/1<br>黄褐色粘土           |
| XI 層   | 無遺物層           |   |                         |                             |                           |    |                        | 7273/7/1<br>576/2灰色シルト   | 2473/1<br>暗褐色シルト         |    | 2273/2/1暗オリーブ灰色シルト        |
| XII 層  | 無遺物層           |   |                         |                             |                           |    |                        | 3073/2/1<br>暗褐色砂質<br>ローム |                          |    | 5073/1<br>暗オリーブ色<br>砂質ローム |

第5表 岩坪岡田島遺跡 基本層序

遺構検出図



## 2 遺構

### (1) 縄文時代

#### A 自然流路

##### 1123号自然流路 (S D1123, 第14図, 図版6)

C7地区を北東から南西方向に流れ、調査区外で南端の落ち込みに流れ込むものと考えられる。C6地区では、この支流が東西に流れる。埋土は、ビートやシルト質で自然木(ヤマガワ・トネリコ属等)が混んでいた。埋土を花粉分析したところ、湿地性のハンノキ属やカヤツリグサ科が多く見られた<sup>15)</sup>。肩部には、土器捨て場と見られる8・9号土器集中地点がある。遺物は、この2地点を中心に縄文土器片や石製品が出土している。また、南西端では棒状の木製品(71)が流路に平行したかたちで見つかった。流路肩部付近にあった自然木で放射性炭素年代測定( $\beta$ 線計数法)を行ったところ、<sup>14</sup>C年代を4630±70BPと測定した<sup>16)</sup>。時期は、出土土器から前期後葉~末葉である。

#### B 落ち込み

##### 1121号落ち込み (S X1121, 第15図, 図版3~5)

C6地区のほぼ中央に位置する。形状は、不整形で10~20cmと浅い。埋土は、ほぼ2層。西端には、深さ約30cmとやや深めの穴があり、炭化物が多く含まれていた。このことから炉のようなものが想定できるが、壁面の立ち上がりがはっきりせず、堅穴というのは難しい。このことからここでは、落ち込みとした。また、出土した炭化物でAMSによる年代測定を行ったところ、<sup>14</sup>C年代が4,850±40BP~4,940±40BPと測定された<sup>17)</sup>。遺物は、縄文土器(1~9・16)・削片(3・4)・磨石(5)がありこれらが8つのまとまりをもって出土した。この他にオニグルミが出土し、微細破片であることから食用後の残滓の可能性がある。埋土の花粉分析では、十分な花粉化石が産出せず、乾燥または乾泥を繰り返す堆積環境が窺える<sup>18)</sup>。時期は、出土土器から前期後葉である。

#### C 土器集中地点

##### 1号土器集中地点(第14図)

C6地区北側でS X1121の北に位置する。縄文土器1個体(10)が内面を上に向けて潰れた状態で出土した。この他に縄文土器片が楕円形状に広がっていた。時期は、出土土器から前期後葉である。

##### 2号土器集中地点(第14図, 図版3)

C6地区北側でS X1121の北西に位置する。遺物は、縄文土器片と凹石(7)が出土し、これらが楕円形状に広がっていた。

##### 3号土器集中地点(第14図, 図版3)

C6地区北側でS X1121の北西に位置する。遺物は、縄文土器片と敲石(6)が出土し、これらが楕円形状に広がっていた。

##### 4号土器集中地点(第14図, 図版3)

C6地区北側でS X1121の北東に位置する。縄文土器片が3つのまとまりをもって出土し、これらが楕円形状に広がっていた。

##### 5号土器集中地点(第14図)

C6地区中央でS X1121の東に位置する。縄文土器片が2つのまとまりをもって出土し、これらが楕円形状に広がっていた。

注5 第二分館 自然科学分析 株式会社環境科学研究「B」花粉分析 2. 岩坪岡田遺跡C7地区S D1123、位置帯における花粉分析

注6 第一分館 自然科学分析 株式会社環境科学研究「B」放射性炭素年代測定 2. 岩坪岡田遺跡C7地区S D1123、落ち込みにおける放射性炭素年代測定

注7 第二分館 自然科学分析 株式会社環境科学研究「B」放射性炭素年代測定 1. 子高橋中遺跡出土土器の放射性炭素年代測定

注8 第二分館 自然科学分析 株式会社環境科学研究「B」埋土分析 2. 岩坪岡田遺跡の埋土の炭素年代測定

## 6号土器集中地点(第14図)

C6地区中央でSX1121の西に位置する。遺物は、縄文土器ほぼ一俵(11)と土器片の2つのまとまりをもって出土している。遺物の広がり、西側にも続くと考えられるが、下八ヶ用水によって削平されていた。時期は、出土土器から前期後葉である。

## 7号土器集中地点(第14図、図版4)

C7地区西側で埋没樹根に隣接して縄文土器(27)はほぼ1個体が潰れて出土した。時期は前期末葉である。

## 8号土器集中地点(第14図、図版6)

C7地区北端でSD1123の肩部に位置する。縄文土器(12~15・17~21)・石鏃(1)・剥片2点がいくつかのまとまりをもって広がっていた。遺物の広がり、調査区外の北東側にも続くものと思われる。時期は出土土器から前期後葉である。

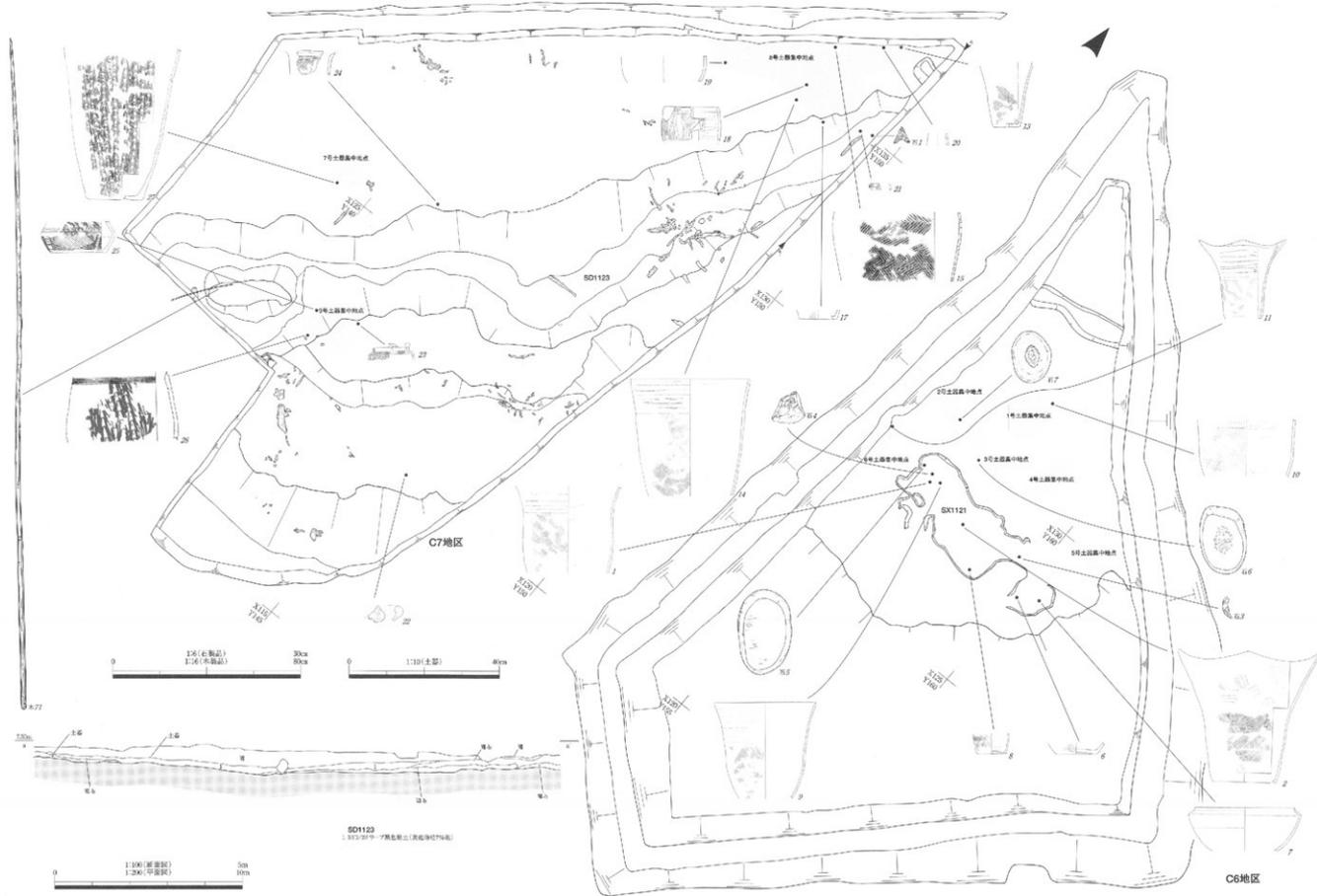
## 9号土器集中地点(第14図、図版4)

C7地区の南西側でSD1123の肩部に位置する。縄文土器(23・25・26)が4つのまとまりをもって東側からSD1123に捨てられたように見つかった。時期は、出土土器から前期末葉である。

(町田賢一)

第6表 岩坪岡田島遺跡 縄文時代 遺構一覧

| 遺構      | 旧遺構番号                                       | 種類   | 平面形 | 規模(cm) |      |  | 出土遺物           | 開闢    | 写真図版 |
|---------|---|------|-----|--------|------|--|----------------|-------|------|
|         |   |      |     | 長さ     | 幅    | 深さ   |                |       |      |
| SD 1123 | C7-SD312<br>C6-SD23                         | 自然流跡 |     |        | 1.30 | 0.15                                       | 縄文土器、加工棒(7)、石鏃 | 14    | 6    |
| SX 1121 | C6-土器集中9<br>C6-土器集中8<br>C6-土器集中7<br>C6-SX21 | 落ち込み | 不整形 | 7.44   | 0.33 | 縄文土器(1~9・16)、土師、剥片(3・4)、<br>磨石(5)、石鏃、散石、種実 | 15             | 3・4・5 |      |



第14图 岩坪岡田島遺跡 縄文時代遺構全体图



第15図 岩坪岡田島遺跡 縄文時代遺構実測図  
SX1121

1. 1972年調査による土坑(北西隅)の平面図(北を向)
2. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(北を向)
3. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(南を向)
4. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(東を向)
5. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(西を向)

6. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(北を向)
7. 1972年調査による土坑(北西隅)の断面図(南を向)

## (2) 古墳時代～古代

## A 竪穴状遺構

## 1号竪穴状遺構 (S I 1, 第16・19図, 図版10)

C4地区北西辺に位置し、調査区外に延びる。平面形は方形を呈すると考えられるが、北側が攪乱され、調査区外にも延びているため全容は不明である。深さ19cmと浅いが、上部は削平されたものと考えられる。内部で円形の柱穴を2基検出したが、中世の柱穴である可能性もあり、竪穴住居とするには根拠に乏しい。床面は北側が一段低くなっており、そこから土器片が集中して出土した。特に北端でまとまって出土しており、この位置から出土したものについては、SD696に伴うものであった可能性がある。埋土は黒褐色シルトと灰黄色シルトの混合率により何層かに分層されるが、SD696との切り合い関係は明瞭ではなく時期差はあまりないものとする。

出土遺物は縄文土器(28)・土師器(30・31)・須恵器(33～35)・製塩土器(29)・黒色土器(32)・焼けた自然礫で、土師器甕と須恵器杯の破片が多い。遺物から遺構の時期は7世紀初頭と推定される。

## B 掘立柱建物

## 1号掘立柱建物 (S B 1, 第17・18図, 図版11)

A地区北部に位置し、S B 2と隣接する。東西棟掘立柱建物で、桁行4.7m、梁行4.75m、面積は21.75㎡である。南側の桁行柱列は3間であるが、北側の桁行は対応する柱穴すべては検出されなかった。またS P 34は南側の柱列に対応しないので柱穴とするには検討を要する。南側柱列では両端の柱が深く間の柱が浅い傾向があるので、中世のSD4によって浅い柱が削平された可能性もある。主軸方向はN-75°-Eで、S B 2とはほぼ同じである。南側には平行してS A 1とした柱列があり、S B 1の張り出し部になる可能性がある。

柱穴の平面形は円形で、規模は直径15～30cm、深さ4～50cmである。埋土は灰色粘土質ロームを基調とし、灰黄色シルトが混じる。噴砂に切られるものもある。出土遺物はないが、9世紀末の遺物が出土した包含層(Ⅲ層)の下で検出したことから、該期の遺構と推定する。

## 2号掘立柱建物 (S B 2, 第17・18図, 図版11)

A地区北側に位置し、S B 1と隣接する。東西棟掘立柱建物で、桁行4.8m、梁行1.45m、面積は6.96㎡である。主軸方向はN-76°-Eで、S B 1とはほぼ同じである。南側ではS P 26とS K 27、S P 29とS K 28がそれぞれ近接するが、建物に関連するものかは不明である。梁行は1間分を確認したが、北側は調査区の端で、北東側は中世のSD4によって浅い柱が削平された可能性もあり、調査区外に延びる可能性もある。

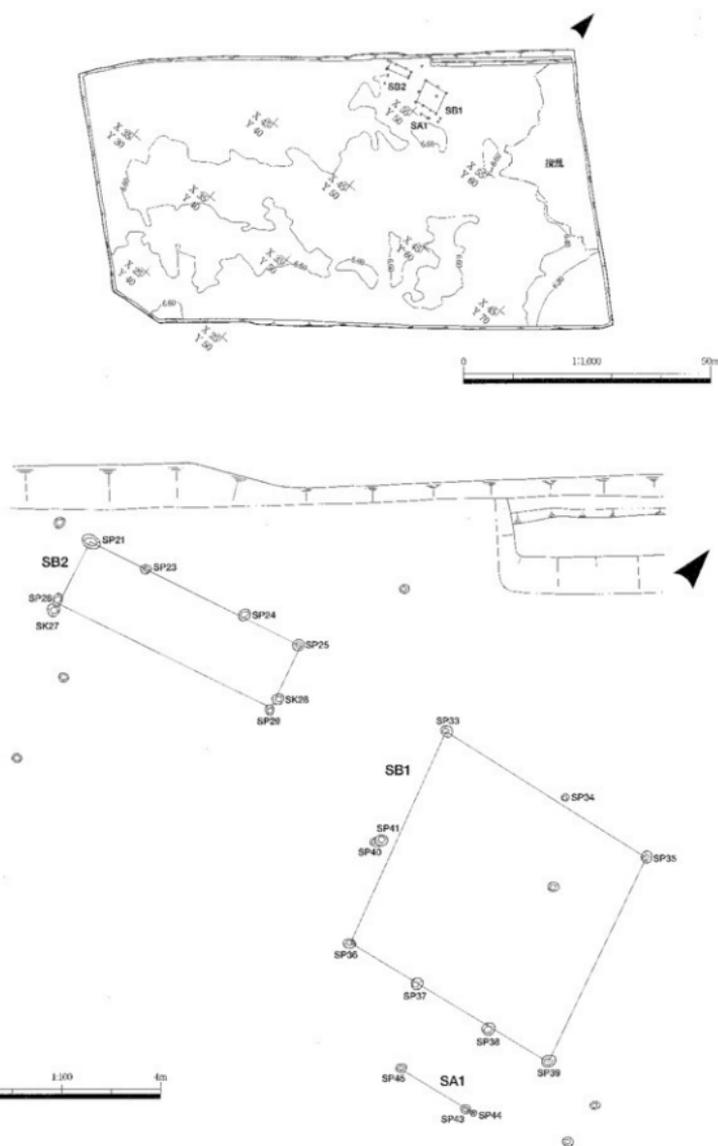
柱穴は円形で、規模は直径20～40cm、深さ12～26cmである。埋土は灰色粘土質ロームを基調とし、灰黄色シルトが混じる。S P 26は柱痕が残る。出土遺物はない。S B 1と主軸がほぼ同じであることから同時期の建物と考え、9世紀末頃の遺構と推定する。

## C 構

## 1号構 (S A 1, 第17・18図)

S B 1の南側に並ぶ柱列で、S B 1の主軸方向と同じであることからS B 1の張り出し部の可能性もある。柱穴の平面形は円形で、規模は直径12～20cm、深さ6～12cmである。出土遺物はない。S B 1と主軸がほぼ同じであることから同時期の遺構と考え、9世紀末頃の遺構と推定する。





第17図 岩坪岡田島遺跡 古墳時代～古代遺構実測図  
SB1・SB2・SA1



## D 溝・自然流路

## 506号溝 (S D506, 第19・20図, 図版10)

C4地区東側に位置し、西側を中世のS E504、東側を擾乱に切られる。蛇行した自然流路の一部と考えられる。最大幅64cmで、深さ15cmである。埋土は灰黄褐色シルト質ロームである。切り合い関係ではS K507、中世のS B19を構成するS P513に切られるが、S K507の出土遺物とは大きな年代差はない。

出土遺物は縄文土器深鉢1点、黒色土器椀1点(36)、土師器椀(37)、須恵器杯蓋1点(38)で、土師器の小片が多い。遺物の年代から7世紀初頭の遺構と推定する。

## 579号溝 (S D579, 第19・20図, 図版10)

C4地区中央に位置する。北西から南東へと緩く屈曲する溝で、調査区外へ延びる。最大幅96cmで、深さ20cmである。埋土は灰黄色シルト質ロームが混じる暗灰黄色シルト質ロームの単層である。切り合い関係では、中世のS E508に切られている。

出土遺物は土師器高杯(39・40・42)・甕(41)、須恵器小片で、土師器の甕が多い。破片であるが主に南東側でまとまって出土している。遺構の年代は遺物から6世紀～7世紀初頭と推定する。

## 696号溝 (S D696, 第16・19図, 図版10)

C4地区北辺に位置し、S I1と接する。S I1との埋土の切り合い関係は不明瞭であったが、S I1の北端の遺物出土状況からS D696がS I1内に延びている可能性が考えられる。最大幅32cmで、深さ6cmである。埋土は灰黄色シルト混じりの褐灰色シルトである。

出土遺物は土師器(45・46)・製塩土器(43・44)で土師器甕等の破片が多いが、加えてS I1の北東隅から出土した土師器(31)・須恵器(33)については、S D696に伴う遺物であった可能性がある。遺構の年代は遺物から7世紀初頭と推定する。

## 697号溝 (S D697, 第19・20図, 図版10)

C4地区西端からC7地区中央にかけて検出された東西方向の溝で、東側では緩やかに屈曲する。最大幅2.78mで、深さ78cmである。断面はほぼ逆台形を呈し、人工の溝と考えられる。埋土は暗灰黄色・灰黄褐色・におい黄褐色等を呈するシルト・シルト質ロームを基調とし何層かに分層され、水流による堆積層が下層の一部に看取される。また、土層断面には埋没後に掘りなおしたとみられる箇所があり、溝さらえを行ったものと推測される。これらのことからS D697は自然流路ではなく、共同で管理されていた溝で、水路として使用されたと推測される。切り合いでは古代のS D744を切り、中世のS D401・402・S E850に切られる。

出土遺物は土師器(50)・須恵器(51・52)・黒色土器(47~49)、珠洲(53・54)・土人形(55)であるが、古代の遺物がほとんどで、珠洲は中世のS D401と交差する地点からの出土で誤認の可能性があり、土人形についても混入の可能性が高い。また古代の遺物の中でも10世紀のものは埋土上面から、7世紀のものは下層から出土しているため、遺構の年代は7世紀と推定する。

## 737号自然流路 (S D737, 第19・21図, 図版12)

C4地区西側を南北に蛇行する。S D917からS D744へ合流するものと考えられる。最大幅73cmで、深さ13cmである。埋土は灰黄褐色シルト質ロームの単層である。出土遺物はないが、切り合い関係ではS D697・S D744より古いので、遺構の年代は7世紀以前と推定される。S D744と同様にS D917・S D744に合流する溝でありながらS D744と切り合いがあることから、蛇行して短い期間に流れを変えた自然流路であったと推測する。



## 744号自然流路 (S D744, 第19・21図, 図版12)

C 4 地区西側を南北に蛇行する。東から流れてくる S D917 と合流するものと考えられる。最大幅 2.60m で、深さ 52cm である。埋土は灰黄色砂質ロームで、下層は黄褐色砂質ロームが帯状に混入し水成堆積を示すものとする。

出土遺物は土師器の小片 2 点である。切り合い関係では S D737 より新しく、7 世紀の S D697、中世の S D401・S D402・S K896 より古いので、遺構の時期は 7 世紀以前と推定される。S D737 と同様に S D917 に合流する溝でありながら S D737 と切り合いがあることから、蛇行して短い期間に流れを変えた自然流路であったと推測する。

## 745号溝 (S D745, 第19・21図, 図版12)

C 4 地区西側に位置し、S D744 の肩に沿った短い溝である。最大幅 47cm で、深さ 4cm である。埋土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物はない。切り合いでは S D737・S D745 より新しいが、短く浅い形状から S D744 の一部であった可能性もある。

## 838号溝 (S D838, 第19・21図, 図版12)

C 4 地区西側に位置し、S D744 の肩が緩やかに拡張した部分で、S D744 の一部とも考えられる。最大幅 32cm で、深さは 12cm である。埋土は灰黄色シルト混じりの暗灰黄色シルト質ロームである。出土遺物はない。切り合いでは S D837 より古い。

## 917号自然流路 (S D917, 第19・21・50図, 図版12)

C 4 地区西側に位置し、S D744 へ合流する。蛇行する 2 時期の自然流路 S D744・S D737 が流れ込み、S D917 自体も蛇行する自然流路であったと考えられる。最大幅 2.55m で、深さ 30cm である。埋土は黄灰色砂質ローム、暗灰黄色シルトを基調とする。切り合い関係では S K847・S K851 より古い。遺物はないが、S D737・S D744 との関係から遺構の時期は 7 世紀以前と推定される。

## 1379号溝 (S D1379, 第19・21図, 図版12)

C 7 地区北東部に位置する。最大幅 1.72m で、深さ 30cm である。埋土は暗灰黄色シルト、暗褐色砂質ローム、暗褐色シルトを基調とし、何層かに分層される。出土遺物は須恵器小片 1 点である。幅は一定でなく不整形で、自然流路の一部または落ち込み状の小地形と考えられる。S K1390 に形状と埋土が似ていることから、遺構の時期は同時期の 7 世紀の可能性はある。

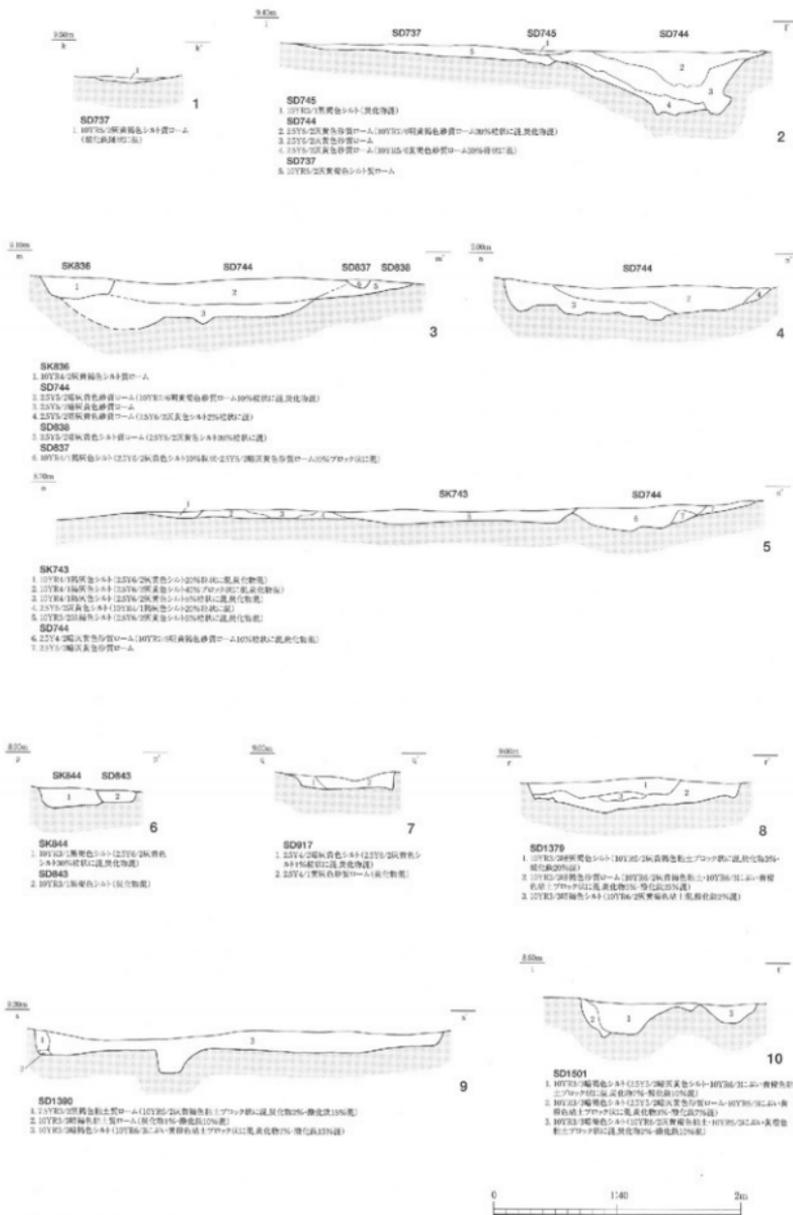
## 1390号溝 (S D1390, 第19・21図)

C 7 地区北東部に位置する。最大幅 3.30m で、深さ 35cm である。埋土は暗褐色シルトを基調とする。S D1379 と同様に幅は一定でなく不整形で、自然流路の一部または落ち込み状の小地形と考えられる。土師器の破片が多く出土し、周辺に 7 世紀を主体とする 10 号土器集中地点があることから同時期の遺構の可能性はある。

## 1501号溝 (S D1501, 第19・21・68図)

C 7 地区中央に位置する。S D697 から分岐した溝で最大幅 3.05m、深さ 30cm である。床面は平坦ではない。埋土はにぶい黄橙色粘土等がブロック状に混じる暗褐色シルトで、水成堆積ではなく、埋め戻された土と考えられる。切り合いでは中世の S E1291 より古い。出土遺物はないが、S D697 と同時期の 7 世紀と推定する。





第21図 岩坪岡田島遺跡 古墳時代～古代遺構実測図

1. SD737 2. SD737・SD744・SD745 3. SD744・SD837・SD838・SK836 4. SD744 5. SD744・SK743 6. SD843・SK844 7. SD917 8. SD1379 9. SD1390 10. SD1501

## E 土坑

## 507号土坑 (SK507, 第19・20図, 図版10)

C4地区東側に位置する。平面形は円形を呈し、直径38cm、深さ10cmである。出土遺物は土師器・須恵器(56)である。土師器製の破片が多く、須恵器は杯・甕片が1点ずつある。遺物から7世紀前半の遺構と推定され、切り合い関係ではSD506を切っているが、大きな時期差はないものと考えられる。

## 847号土坑 (SK847, 第19・22図, 図版13)

C4地区西端に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、規模は1.09m×78cm、深さ18cmである。埋土は灰黄色シルト混じりの黒褐色シルトで、床面は平坦でなく中央が深く窪む。切り合いではSD917より新しい。出土遺物は須恵器甕(57)で、完形ではないが、同一個体の甕の口縁部から体部の破片が遺構の中央から出土した。遺物から遺構の年代は7世紀と推定する。

## 851号土坑 (SK851, 第19・22図)

C4地区西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は88m×50cm、深さ12cmである。埋土は黒褐色シルトの単層である。SD917の一部が突出した部分にあり、切り合いではSD917より新しいが、SD917の埋土の一部である可能性もある。

## 1297号土坑 (SK1297, 第19・22図, 図版13)

C7地区北側中央部に位置する。平面形は楕円形に近い不整形を呈し、規模は90cm×49cm、深さ23cmである。埋土は暗褐色シルトを基調とし、床面には凹凸がある。出土遺物は土師器(58)・敲石・加工棒である。土師器甕等の小破片が多い。遺構の年代は遺物から7世紀と推定する。

## 1298号土坑 (SK1298, 第19・22図)

C7地区北側中央部に位置し、SD1390に隣接する。平面形は円形を呈し、直径38cm、深さ6cmである。埋土はぶい黄橙色粘土混じりの暗褐色シルトである。出土遺物は土師器・須恵器(59)・黒色土器(60)で、土師器甕が多く、須恵器は杯2点、黒色土器は碗1点である。遺物は小片のため詳細時期は不明であるが、周囲の遺構の年代から同時期の7世紀と推定する。

## 1356号土坑 (SK1356, 第19・22図, 図版13)

C7地区北側中央部に位置し、SK1297に隣接する。わずかに窪んだ場所から遺物が集中して出土したもので、遺構の平面形の確認はできなかったが、土坑か。出土遺物は土師器甕等の小片で、出土状況からSK1297と関連する可能性もあると考え、遺構の年代は7世紀と推定する。

## 1378号土坑 (SK1378, 第19・22図)

C7地区東側に位置する。平面形は不整形を呈し、規模は2.64m×78cm、深さ40cmである。埋土はぶい黄橙色粘土混じりの暗褐色粘土質ロームである。出土遺物は土師器小片、須恵器高杯1点(61)・甕1点、珠洲甕1点で、須恵器高杯・甕は遺構の底面から出土した。遺構の年代は遺物から7世紀後半と推定する。

## 1432号土坑 (SK1432, 第19・22図)

C7地区東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は42cm×34cm、深さ55cmである。埋土は灰黄褐色粘土混じりの黒褐色シルトである。出土遺物は土師器小片が数点、須恵器杯蓋(62)1点である。遺構の形状は柱穴状で、中世の遺構に古代の遺物が混入した可能性もあるが、遺物から古代の遺構としておく。

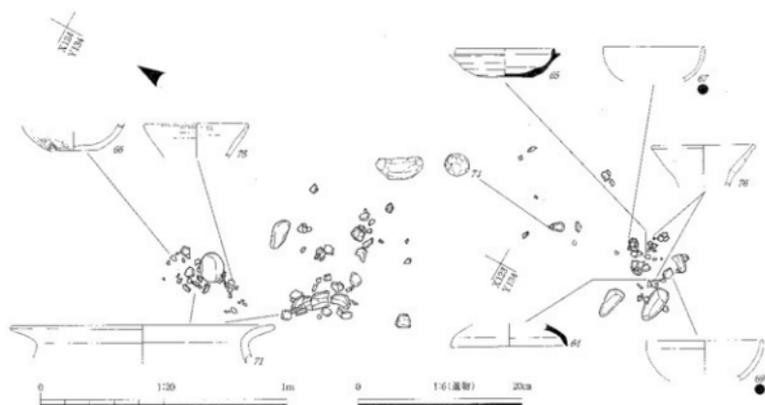


## F 土器集中地点

10号土器集中地点 (D S 10, 第19・23図, 図版13)

C 7地区北側にあり, 周囲には S D 1390・S K 1297・S K 1356がある。地山直上から土器の破片がまとまって出土したもので, 遺構は検出されなかった。

出土物は弥生土器壺1点(63), 土師器椀(67)・甕(66・68・71~74), 須恵器杯(65)・杯蓋(64), 製塩土器数点(75・76), 黒色土器数点(69・70), 粘土塊である。土師器の小片が多い。遺物は7世紀のものが主体であり, 周辺の同時期の遺構に関連するものと考えられる。



第23図 岩坪岡田島遺跡 古墳時代~古代遺構実測図  
10号土器集中地点

| 建物  | 形寸(m) | 奥行(m) | 面積(m <sup>2</sup> ) | 構方位     | 柱穴縦長・径(m) | 柱穴縦長・径2(m) | 柱間距離・桁(m) | 柱間距離・梁(m) | 柱穴上層ノ遺物             | 発見    | 写真図版 |
|-----|-------|-------|---------------------|---------|-----------|------------|-----------|-----------|---------------------|-------|------|
| SR1 | 4.70  | 4.75  | 22.73               | N-73°-E | 0.15~0.30 | 0.01~0.30  | 2.30~4.75 | 1.35~2.70 | SP33~41             | 18-17 | 11   |
| SR2 | 4.80  | 1.45  | 6.96                | N-76°-E | 0.20~0.40 | 0.12~0.26  | 1.30~1.80 | 0.25~1.13 | SP21, SP23~26, SP29 | 18-17 | 11   |

第7表 岩坪岡田島遺跡 古代 建物一覧

| 建物   | 遺構   | 田遺構番号  | 平面形    | 縦横(m) |        |      | 出土遺物  | 特記     | 押部    | 写真図版  |
|------|------|--------|--------|-------|--------|------|-------|--------|-------|-------|
|      |      |        |        | 長さ    | 幅      | 梁2   |       |        |       |       |
| SR1  | SP33 | A-SP33 | 円      | 0.25  | 0.23   | 0.22 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP34 | A-SP34 | 円      | 0.15  | 0.15   | 0.01 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP35 | A-SP35 | 円      | 0.25  | 0.22   | 0.22 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP36 | A-SP36 | 円      | 0.22  | 0.20   | 0.35 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP37 | A-SP37 | 円      | 0.25  | 0.23   | 0.29 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP38 | A-SP38 | 円      | 0.26  | 0.25   | 0.30 |       |        | 17-18 | 11    |
|      | SP39 | A-SP39 | 円      | 0.30  | 0.26   | 0.30 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP40 | A-SP40 | 円      | 0.19  | (0.11) | 0.15 | <SP41 |        | 17-18 |       |
|      | SP41 | A-SP41 | 円      | 0.28  | 0.24   | 0.10 | >SP40 |        | 17-18 |       |
|      | SR2  | SP21   | A-SP21 | 円     | 0.40   | 0.27 | 0.14  |        |       | 17-18 |
| SP23 |      | A-SP23 | 円      | 0.22  | 0.19   | 0.26 |       |        | 17-18 |       |
| SP24 |      | A-SP24 | 円      | 0.25  | 0.22   | 0.26 |       |        | 17-18 |       |
| SP25 |      | A-SP25 | 円      | 0.24  | 0.23   | 0.26 |       |        | 17-18 |       |
| SP26 |      | A-SP26 | 円      | 0.25  | 0.19   | 0.26 |       | >SK.27 | 17-18 |       |
| SP29 |      | A-SP29 | 円      | 0.20  | 0.18   | 0.12 |       |        | 17-18 |       |
| SA1  |      | SP43   | A-SP43 | 円     | 0.20   | 0.18 | 0.11  |        |       | 17-18 |
|      | SP44 | A-SP44 | 円      | 0.12  | 0.11   | 0.06 |       |        | 17-18 |       |
|      | SP45 | A-SP45 | 円      | 0.20  | 0.18   | 0.12 |       |        | 17-18 |       |

第8表 岩坪岡田島遺跡 古墳時代~古代 柱穴一覧

| 遺構     | 旧遺構番号    | 遺構種類 | 平面形 | 規模 (m) |      |    | 出土遺物  | 特記                                     | 埋没       | 写真図版     |
|--------|----------|------|-----|--------|------|----|---|--|----------|----------|
|        |          |      |     | 長さ     | 幅    | 高さ |   |  |          |          |
| SD506  | C1-SD06  | 溝    |     | 0.64   | 0.15 |    | 縄文土器、土師器 (57)、須恵器 (58)、黒色土器 (56)                      | <SE304>SK507-SK513                     | 19-20    | 10       |
| SD579  | C4-SD79  | 溝    |     | 0.95   | 0.20 |    | 土師器 (20-22)、須恵器                                       | <SE508                                 | 19-20    | 10       |
| SD696  | C4-SD196 | 溝    |     | 0.32   | 0.06 |    | 土師器 (45-46)、須恵土器 (43-44)                              |  | 16-19    | 10       |
| SD697  | C4-SD197 | 溝    |     | 2.78   | 0.78 |    | 土師器 (50)、須恵器 (51-52)、黒色土器 (47-49)、珠洲 (53-54)、土人形 (55) | SD744<SD697<SD401-402>SK830            | 19-20    | 10-K2-12 |
| SD737  | C4-SD237 | 穴跡   |     | 0.73   | 0.43 |    |   | <SD744-697>SE101                       | 19-21    | 12       |
| SD744  | C4-SD244 | 穴跡   |     | 2.60   | 0.52 |    |   | SD737<SD744<SD697-401-402>SK836-SP1293 | 19-21    | 12       |
| SD745  | C4-SD245 | 溝    |     | 0.47   | 0.04 |    |   | >SD737-SD744                           | 19-21    | 12       |
| SD838  | C4-SD338 | 溝    |     | 0.32   | 0.12 |    |   | <SD837-744                             | 19-21    | 12       |
| SD917  | C4-SD417 | 穴跡   |     | 2.55   | 0.30 |    |   | <SK851-847                             | 19-21-50 | 12       |
| SD1379 | C7-SD179 | 溝    |     | 1.72   | 0.30 |    | 須恵器   |  | 19-21    | 12       |
| SD1380 | C7-SD180 | 溝    |     | 3.30   | 0.35 |    | 土師器   |  | 19-21    |          |
| SD1501 | C7-SD301 | 溝    |     | 3.05   | 0.20 |    |   | <SD1381                                | 19-21-68 |          |

第9表 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代 溝一覧

| 遺構     | 旧遺構番号    | 平面形 | 規模 (m) |      |      | 出土遺物                   | 特記     | 埋没    | 写真図版 |
|--------|----------|-----|--------|------|------|------------------------|--------|-------|------|
|        |          |     | 長さ     | 幅    | 高さ   |                        |        |       |      |
| SK27   | A-SP27   | 円   | 0.24   | 0.23 | 0.26 |                        | <SP26  | 17    |      |
| SK28   | A-SP28   | 円   | 0.23   | 0.23 | 0.12 |                        |        | 17    |      |
| SK307  | C1-SK07  | 円   | 0.38   | 0.33 | 0.10 | 土師器、須恵器 (56)           | >SD606 | 19    | 10   |
| SK847  | C4-SK347 | 隅丸  | 1.09   | 0.78 | 0.18 | 須恵器 (57)               | >SD917 | 19-22 | 13   |
| SK851  | C4-SK351 | 楕円  | 0.88   | 0.50 | 0.12 |                        | >SD917 | 19-22 |      |
| SK1297 | C7-SP97  | 不整形 | 0.90   | 0.49 | 0.23 | 土師器 (58)、加工磚、黒石        |        | 19-22 | 13   |
| SK1298 | C7-SP98  | 円   | 0.38   | 0.37 | 0.06 | 土師器、須恵器 (59)、黒色土器 (60) |        | 19-22 | 17   |
| SK1336 | C7-SK156 |     |        |      |      | 土師器                    |        | 19-22 | 13   |
| SK1378 | C7-SK178 | 不整形 | 2.64   | 0.78 | 0.40 | 土師器、須恵器 (61)、珠洲        |        | 19-22 |      |
| SK1432 | C7-SP232 | 隅丸  | 0.42   | 0.34 | 0.35 | 土師器、須恵器 (62)           |        | 19-22 |      |

第10表 岩坪岡田鳥遺跡 古墳時代～古代 土坑一覧

## (3) 中世

## A 掘立柱建物

## 3号掘立柱建物 (SB3, 第24・25図, 図版14)

B2地区東側に位置する。4間×4間の東西棟総柱建物で、東側に庇が付く。桁行9.25m, 梁行8.35m, 面積は76.87㎡である。主軸はN-72°-Eである。東側にSA3・SA4, 西側にSA2とした柱列があり, SB3の塀と考えられる。SB3の東側に沿うSD104とこれに直交するSD142, 南側に沿うSD140・SD141は, SB3の区画溝または道路側溝の可能性もある。隣接するSB4はSB3には近すぎ, これらの溝を跨ぐのでSB3とは異なる時期の建物と推測する。

柱穴の平面形は円形または楕円形である。柱穴の規模は, 直径または長径22~60cm, 深さ8~70cmである。埋土は黒褐色シルトを基調とし, 暗灰黄色シルトが粒状に混じるものがほとんどで, 褐灰色シルトを基調とする柱穴も数基ある。SP130・SP146・SP177は上下2層に分かれるが, 他はすべて単層で, 柱痕の残るものはない。SP109・SP110・SP116・SP130・SP178・SP180は単層で柱痕はないが, 底面の一部のみ掘り下げて段が付く掘形をもち, 柱の根本を掘えたものか考えられる。SP227の埋土を切るSK144は, ほぼ完形の中世土師器皿(40I)が出土した遺構で, 建物に関する地鎮の可能性もある。柱の通りからみればSK144が軸線上の上のっているが, 深さからSP227を柱穴と考えた。他に切り合いがあるものはSP180とSP235であるが, 同一遺構の埋土の違いとも考えられる。

出土遺物はSP143の中世土師器皿1点, SP180の中世土師器小片1点, SP149の中世土師器皿1点(77), SP234の柱(54)である。柱は直径10.2cmのクリ材で, 32cm×29cm, 深さ50cmの楕円形の柱穴の中に立った状態で出土し, 柱に対しての掘形は広い。遺構の年代は, SB3の柱穴及びSD140の遺物から, 12世紀中頃~後半と推定する。

## 4号掘立柱建物 (SB4, 第24・26図, 図版14)

B2地区東側に位置する。3間×2間の南北棟総柱建物である。桁行4.85m, 梁行3.75m, 面積は17.67㎡である。主軸はN-12°-Wである。北側にSB3が隣接するが, SB3に伴うと推測される溝群を跨ぐことから, 異なる時期の建物と考えられる。

柱穴の平面形は円形がほとんどで, 楕円形もある。柱穴の規模は, 直径または長径が21~103cm, 深さが11~44cmである。埋土は単層のものがほとんどで, 褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし, 灰黄褐色シルト・暗灰黄色シルトが粒状に混入する。SP118は一段掘り下げた後に一部を深く掘り下げ段が付く掘形である。

出土遺物はSP113の中世土師器皿数点, 土錘1点, SP119・SP171の中世土師器小片各1点である。中世土師器はロコロ成形で, 12世紀中頃~後半のものであるが, 先述のようにSB3とは異なる時期の建物と考えられ, SB7と同時期と推定する。

## 5号掘立柱建物 (SB5, 第27・28図, 図版14)

B2地区東側に位置する。3間×2間の南北棟総柱建物で, 西と南に3間の庇が付く。桁行6.10m, 梁行5.20m, 面積は29.74㎡である。主軸はN-2°-Eである。南側にSB6が隣接し, 主軸も同じであることから同時期の可能性がある。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴の規模は, 直径22~41cm, 深さが9~52cmである。埋土は, 褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし, 灰黄褐色シルト・暗灰黄色シルトが粒状に混入する。単層が多いが, SP151・SP164のように一段掘り下げた後に一部を深く掘り下げる掘形をもち, 埋土も上

下2層に分かれるものもある。単層の中でも、同様の二段の掘形をもつSP202では、最下層の細い掘形部分に根本を据えた状態で柱が出土している。東側にはSB5に平行してSD150があり、建物を区画する溝あるいは道路側溝と推測される。

出土遺物はSP201の中世土師器皿1点(78)、SP202の柱である。遺構の年代は、遺物から12世紀中頃～後半と推定される。

#### 6号掘立柱建物(SB6, 第27・28図, 図版14)

B2地区東側に位置する。2間×2間の東西棟総柱建物である。桁行3.8m, 梁行3.7m, 面積は13.04㎡である。主軸はN-2°-Eである。北側にSB5が隣接し、主軸も同じであることから同時期の可能性がある。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP161は楕円形である。柱穴の規模は、直径22~62cm, 深さ12~34cmである。埋土は単層で、褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし、暗灰黄色シルトが粒状に混入する。

出土遺物はSP161の中世土師器小片1点である。遺構の年代は、SB5と同時期の可能性が考えられることから12世紀中頃～後半と推定される。

#### 7号掘立柱建物(SB7, 第27・28図, 図版14)

B2地区東側に位置する。2間×2間の南北棟総柱建物である。桁行4.6m, 梁行3.75m, 面積は16.98㎡である。主軸はN-77°-Wである。西側にSB5・SB6が隣接するが、主軸が異なり、これに伴うSD150を跨ぐことから、時期は異なるものと推測される。

柱穴の平面形はすべて円形で、柱穴の規模は、直径23~40cm, 深さ14~42cmである。埋土は単層で、褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし、暗灰黄色シルトが粒状に混入する。SP92は一段掘り下げた後一部を深く掘り下げる掘形をもつ。

出土遺物はSP211の中世土師器皿1点で、小片であるが非口ロ成形の皿である。遺物から12世紀末~13世紀の建物と考えられ、隣接するSB5・SB6より若干時期が下るものと推定する。

#### 8号掘立柱建物(SB8, 第29・30図, 図版16)

C7地区南西部に位置する。4間×2間の東西棟総柱建物で、北側に1間×1間の張り出し部を想定したが、張り出し部については北側の調査区外に延びる別棟の建物の可能性もある。桁行8.8m, 梁行4.25m, 面積は40.25㎡である。主軸はN-73°-Eである。西側に位置するSB9~11と主軸方向がほぼ同じであることから同時期の建物の可能性が高い。

柱穴の平面形はほとんどが円形でSP1318・SP1349は楕円形である。柱穴の規模は、直径または長径26~49cm, 深さ12~48cmである。埋土は、黒褐色シルト・褐灰色シルトを基調とし、灰白色シルト・砂が粒状に混入する単層が多い。SP1308・SP1324・SP1510の土層断面には柱痕とみられる箇所があり、柱痕はオリブ黒色シルト・黒褐色シルト、掘形は黒褐色シルト質ローム・灰白色シルトとなっている。SP105・SP106は切り合いがあるが、同一遺構の埋土の違いである可能性もある。SP1509は切り合いからSK1307より新しい。またSK1301よりSB8の柱穴が新しい。SK1301では中世土師器の柱状高台部分の破片が出土していることから、SB8の年代は12世紀中頃以降と推定する。

出土遺物は、SP1319の土師器小片1点、SP1510の柱(53)である。柱は直径8.2cmのスギ材である。

## 9号掘立柱建物 (SB9, 第29・31図, 図版14)

C7地区南西部に位置する。2間×2間の南北棟側柱建物である。桁行4m, 梁行3.9m, 面積は15.35m<sup>2</sup>である。主軸はN-17°-Wである。周囲に並ぶSB8・10・11と主軸方向がほぼ同じであることから同時期の建物の可能性が高い。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴の規模は、直径23~34cm, 深さ20~46cmである。埋土は、灰白色シルトが混じる黒褐色シルトの単層が多い。SP1340・SP1341・SP1343の土層断面には柱痕とみられる箇所があり、柱痕は黒褐色シルト、掘形は灰白色シルト・黒褐色シルトとなっている。出土遺物はない。

## 10号掘立柱建物 (SB10, 第29・31図, 図版14)

C7地区南西部に位置する。1間×1間の東西棟側柱建物である。桁行2.45m, 梁行2.1m, 面積は5.05m<sup>2</sup>である。主軸はN-75°-Eである。周囲に並ぶSB8・9・11と主軸方向がほぼ同じであることから同時期の建物の可能性が高い。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴の規模は、直径31~38cm, 深さ28~54cmである。埋土は、黒褐色シルトを基調とし、周囲に薄く灰白色シルトまたは灰白色シルト混じりの黒褐色シルトがみられ、柱痕の可能性はある。出土遺物はない。

## 11号掘立柱建物 (SB11, 第29・31図, 図版14)

C7地区南西部に位置する。確認した範囲では1間×2間の東西棟側柱建物であるが、調査区外に延びる可能性もある。主軸はN-18°-Wである。周囲に並ぶSB8・9・10と主軸方向がほぼ同じであることから同時期の建物の可能性が高い。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴の規模は、直径31~35cm, 深さ19~36cmである。埋土は、黒褐色シルトを基調とし、周囲に薄く灰白色シルトまたは灰色シルト混じりの黒褐色シルトがみられるものが多く、SP1336・SP1337では、黒褐色シルトが柱痕である可能性がある。出土遺物はない。

## 12号掘立柱建物 (SB12, 第32・33・49図, 図版15)

C4地区西側に位置し、SB13と重複する。東西棟で桁行7.85m, 梁行5.55mである。柱並びは揃っていないが、SP869からSP712を結ぶ柱列を棟持柱と考え、これに平行する柱列を側柱と想定した。主軸はN-75°-Eである。面積は43.16m<sup>2</sup>である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP867は楕円形である。柱穴の規模は、直径20~41cm, 深さ6~46cmである。埋土は、灰黄色シルトが混入する黒褐色シルトの単層がほとんどであるが、SP707は灰黄褐色シルトが柱痕である可能性がある。SP734は底面の一部を深く掘り下げ段が付く二段掘りで、柱の根本を掘えたものか。出土遺物はSP698・SP712の土師器小片各1点である。切り合ひでは、SP712がSB13のSP711より新しく、SB12がSB13より新しいといえる。

## 13号掘立柱建物 (SB13, 第32・33・49図, 図版15)

C4地区西側に位置し、SB12と重複する。2間×3間の東西棟側柱建物である。桁行5.60m, 梁行3.15mであるが、梁・桁の角度は直角にならず歪みがある。主軸はN-75°-Eである。面積は17.45m<sup>2</sup>である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP725・SP820は楕円形である。柱穴の規模は、直径または長径が20~68cm, 深さ13~37cmである。埋土は、灰黄色シルトが混入する黒褐色シルトが最も多く、他に灰黄褐色シルト、褐色シルト、黒色シルトを基調とするものがある。単層がほとんどであるが、SP709は上下に分層される。SP820は、断面から褐色シルト部分が埋まった後黒褐色シルト部分

が新たに掘られたとみられる。S P 747は底面の一部を深く掘り下げ段が付く二段掘り、柱の根本を掘えたものか。

出土遺物はS P 725の中世土師器皿数点、珠洲摺鉢1点、S P 820の焼けた自然礫1点で、S P 725の中世土師器は小片であるが非口クロ成形で13世紀前半のものであり、S B 13は該期の遺標と推定する。切り合いでは、S P 711がS B 12のS P 712より古く、S B 13がS B 12より古いといえる。

#### 14号掘立柱建物 (S B 14, 第32・34・49図, 図版15)

C 4地区西側に位置し、S B 15と重複する。南北棟で、桁行6.5m、梁行4.6m、面積は29.9m<sup>2</sup>である。主軸はN-12°-Wである。柱並びは不揃いであるが、S P 750からS P 807を結ぶ柱列を棟持柱と考え、これに平行する柱列を側柱と想定した。

柱穴の平面形は楕円形が多く、S P 807は円形、S P 762は不整形である。柱穴の規模は直径または長径が37~73cm、深さが14~42cmである。埋土はすべての柱穴に灰黄色シルト混じりの黒褐色シルトがみられ、単層が多いが、S P 750では灰黄色シルト部分が柱痕とみられる。S P 750・S P 807・S P 832は、底面の一部を深く掘り下げ段が付く二段掘り、柱の根本を掘えたものか。

出土遺物はS P 750の土師器小片1点、焼けた自然礫1点、S P 832の珠洲摺鉢1点である。遺物の年代は13世紀前半であるが、建物構造からみて、重複するS B 15よりS B 14が新しいと考えられ、S B 14の時期は13世紀後半以降と推定される。切り合いではS P 750がS K 751より古い。

#### 15号掘立柱建物 (S B 15, 第32・34・49図, 図版15)

C 4地区東側に位置し、S B 14と重複する。3間×2間の南北棟総柱建物で、桁行5.1m、梁行3.38m、面積は17.13m<sup>2</sup>である。主軸はN-14°-Wである。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴の規模は直径20~36cm、深さが6~24cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる黒褐色シルトがほとんどで、褐灰色シルトも一部にみられる。切り合いでは、S P 787はS K 845より新しく、S K 845から13世紀前半~中頃の遺物が出土していることからS B 15の年代は13世紀前半以降と推定する。またS P 806は道路側溝の可能性のあるS D 846より新しい。また重複するS B 14との切り合いはないが、建物構造からみて、S B 15が古いと考える。出土遺物はS P 757の土師器小片1点である。

#### 16号掘立柱建物 (S B 16, 第35・36・49図, 図版16)

C 4地区中央に位置し、S B 18と重複する。桁行8.7m、梁行6.5m、面積は55.36m<sup>2</sup>である。主軸はN-84°-Eである。柱間が不揃いで、建物として確実ではないが、S P 623・S P 639の柱並びを棟持柱と考え、これに平行する柱列を側柱と想定した。

柱穴の平面形はすべて円形で、規模は直径23~32cm、深さが8~45cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる黒褐色シルトの単層が多いが、S P 644は黄褐色シルトを掘形とし、黒褐色シルトが柱痕である可能性がある。切り合いではS P 639がS K 640より古い。

出土遺物は、S P 610の土師器小片2点、須恵器甕1点(79)、S P 644の土師器小片1点である。重複するS B 18との切り合い関係はなく、新旧関係は不明である。

#### 17号掘立柱建物 (S B 17, 第35・36・49図, 図版16)

C 4地区中央に位置し、S B 18と重複する。調査区外に延びているため全容は不明、確実ではないが、ひとつの可能性として南側と東側に縁または庇が付く東西棟総柱建物を想定した。主軸はN-7°-Wである。

柱穴の平面形はすべて円形で、規模は直径29~48cm、深さが9~37cmである。埋土は灰黄色シルトが

混じる黒褐色シルトの単層がほとんどであるが、一部に褐灰色シルトもみられる。切り合いではSP569・SP572が古代のSD579を切る。

出土遺物は、SP566の土師器小片1点、SP572の土師器小片1点、SP589の中世土師器小片2点、SP594の土師器・土製品の小片各1点、SP613の中世土師器(80)の小片数点、SP809の土師器小片数点である。遺構の年代は遺物から13世紀～14世紀前半と推定する。

#### 18号掘立柱建物 (SB18, 第35・38・49図, 図版16)

C4地区中央に位置し、SB16・SB17と重複する。南北棟側柱建物で、東側に張出部が付く。柱穴は中抜きし、間取りの大小があったと考えられる。主軸はN-84°-Wである。桁行7.95m、梁行7.9m、面積67.26m<sup>2</sup>である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP618は楕円形である。規模は直径または長径21～46cm、深さ3～40cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる黒褐色シルトの単層がほとんどであるが、一部に褐灰色シルトもみられる。SP647・SP650では底面の一部を深く掘り下げて段が付く二段掘り、柱の根本を掘えたものか。

出土遺物はSP605の中世土師器皿1点、SP617・SP618の土師器小片、SP619の縄文土器小片、SP676の鉄滓1点(40)である。SP605出土の中世土師器は口縁部を欠損するが非口口成形の皿である。重複するSB16・SB17との切り合いはなく、新旧関係は不明であるが、柱穴から鉄滓が出土しており、周囲のSE504・SE508・SK404等の鉄滓が出土した井戸や土坑と同時期の建物であろうか。

#### 19号掘立柱建物 (SB19, 第37・39・49図)

C4地区東側からC7地区北側にまたがる建物である。東側の攪乱部分と調査区の境界部分の柱穴の有無が不明であるが、5間×3間の東西棟総柱建物と考えておきたい。主軸はN-76°-Eである。桁行12.6m、梁行6.55m、面積81.64m<sup>2</sup>である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP552は楕円形である。柱穴の規模は直径27～62cm、深さ16～41cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘土が混じる暗褐色シルト等があり、単層がほとんどである。切り合い関係は、SP513とSP1388が、それぞれ古代のSD506とSD1390を切っている。

出土遺物はSP552の土師器小片1点、SP1361の土師器小片3点である。

#### 20号掘立柱建物 (SB20, 第37・38・49図)

C7地区北東部に位置する。南東部は古代の溝SD1379と重複しており、確認されなかった柱穴があった可能性を考えて、3間×2間の南北棟側柱建物を想定した。主軸はN-29°-Wである。桁行5.30m、梁行4.5m、面積22.75m<sup>2</sup>である。

柱穴の平面形はすべて円形で、規模は直径32～52cm、深さ22～30cmである。埋土はにぶい黄褐色粘土が混じる暗褐色シルト・シルト質ロームが多く、SP1380・SP1366では柱痕または柱抜き取り痕とみられる部分がある。

出土遺物は、SP1367の中世土師器皿2点、珠洲甕1点、SP1369の土師器小片1点、SP1367出土の中世土師器は非口口成形の皿である。

#### 21号掘立柱建物 (SB21, 第40・41・49図, 図版17)

C7地区西側に位置し、SB22・SB23と重複する。調査区外に延びる可能性もあるが、3間×2間の東西棟総柱建物で東側に張出部をもつ建物を想定した。ただし攪乱により北東側の柱穴の有無が不明であるため張出部については確実ではない。主軸はN-70°-Eである。桁行6.60m、梁行5.25m、

面積40.86㎡である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP1256・SP1261は楕円形である。規模は直径または長さ30～69cm、深さ10～38cmである。埋土にはぶい黄橙色粘土が混じる暗褐色シルトの単層が多いが、SP1248・SP1256・SP1267は上下に分かれて下層に黒褐色シルト質ロームが埋積する。切り合いでは、SP1256・SP1267は古代の溝SD697を切り、SP1261はSK1217を切る。出土遺物はない。

#### 22号掘立柱建物（SB22、第40・41・49図、図版17）

C7地区西側に位置し、SB21・SB23と重複する。柱間が不均等で確実な建物とはいえませんが、梁行2間の東西棟側柱建物を想定した。SP1249からSP1285の柱並びは若干ずれるが棟持柱か。主軸はN-74°-Eである。桁行7.8m、梁行3.9m、面積28.87㎡である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP1257・SP1262は楕円形である。規模は、直径または長さ22～51cm、深さ8～40cmである。埋土にはぶい黄橙色粘土が混じる暗褐色シルトの単層がほとんどである。切り合いではSP1251はSK1252より古く、SP1257は古代のSD697より新しい。SP1262はSK1217より新しい。出土遺物はない。SB21・SB23と重複し、切り合いはないが、建物構造からSB22が新しいと考えられる。

#### 23号掘立柱建物（SB23、第40・42・49図、図版17）

C7地区西側に位置し、SB21・SB22と重複する。東西棟側柱建物で、柱穴は中抜けし、大小の間取りがあったと考えられる。主軸はN-75°-Eである。桁行8.7m、梁行7.35m、面積63.14㎡である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP1212・SP1242・SP1269は楕円形である。規模は直径または長さ28～86cm、深さ9～44cmである。埋土にはぶい黄橙色粘土が混じる暗褐色シルトの単層がほとんどで、SP1228・SP1232では上下2層に分かれ下層に黒褐色シルト質ローム・黄褐色シルト質ロームが埋積する。切り合いではSP1222がSK1208より新しい。SP1232・SP1496は古代のSD697を切る。

出土遺物は、SP1222の須恵器(8J)・中世土師器・珠洲の小片、SP1232・SP1247・SP1275の中世土師器皿各1点である。

#### 24号掘立柱建物（SB24、第42・49図、図版16）

C7地区中央に位置する。2間×2間の東西棟建物であるが、周辺は攪乱や古代の溝と重複する部分があり、東西方向に延びる可能性もある。主軸はN-65°-Eである。桁行4.78m、梁行3.9m、面積18.39㎡である。

柱穴の平面形はほとんどが円形であるがSP1409は楕円形である。規模は直径または長さ28～50cm、深さ17～25cmである。埋土は灰黄褐色粘土質ローム・ぶい黄橙色粘土等が混じる暗褐色粘土質ロームの単層が多いが、SP1391・SP1409では柱痕とみられる部分がある。またSP1392は上下2層に分かれる。

出土遺物は、SP1409の須恵器小片1点、中世土師器皿1点である。

#### 25号掘立柱建物（SB25、第43・44・49図、図版17）

C7地区中央やや東よりに位置し、SD1504と重複する。梁行2間の南北棟側柱建物で、柱並びは不揃いであるが、SP1425からSP1423の柱並びを棟柱と考え、これに平行する柱列を側柱とする建物を想定した。主軸はN-70°-Eである。桁行4.75m、梁行3.2m、面積15.16㎡である。

柱穴の平面形はほとんどが円形であるがSP1449は方形である。規模は直径25～40cm、深さ12～26cmである。埋土は灰黄褐色粘土・ぶい黄橙色粘土等が混じる暗褐色粘土質ロームで単層が多いが、SP1423・SP1440では柱痕とみられる部分もある。SP1449・SP1450は底部の一部を深く掘り下げて段が付く二段掘りで、柱の根本を据えたものか。切り合いでは、SP1424がSD1504より新しい。

出土遺物はSP1424の土師器小片1点、珠洲播鉢(82)である。遺構の年代は遺物から13世紀前半以降と推定する。

#### 26号獨立柱建物 (SB26, 第43・44・49図, 図版16・17)

C7地区中央やや東よりに位置する。1間×2間の東西棟側柱建物で、桁行5.9m, 梁行1.9m, 面積は10.89㎡である。主軸はN-58°-Eである。

柱穴の平面形はほとんどが円形で、SP1481は楕円形である。柱穴の規模は直径または長径27~35cm, 深さ16~32cmである。埋土は灰黄褐色粘土・にぶい黄橙色粘土等が混じる暗褐色粘土質ロームで単層が多いが、SP1436では柱痕とみられる部分もある。SP1481は底部の一部を深く掘り下げて段が付く二段掘りで、柱の根本を据えたものか。

出土遺物はSP1436の中世土師器皿2点(83・84), SP1474の中世土師器小片数点, SP1479の珠洲小片1点, SP1481の中世土師器小片1点, 土鍬片1点, 粘土塊1点である。SP1436では大小の完形の中世土師器皿が、仰向けで重なった状態で出土した。柱穴の底で斜めに傾いた状態で、割れておらず、柱を抜き取った後に埋納されたと考えられる。SB26の周囲を取り囲むSD1485・SD1504及び壁穴状土坑SK1445は軸方向が同じであることから建物との関連性が窺える。規模から、住居以外の性格の建物であろう。

## B 櫓

### 2号櫓 (SA2, 第24・25図)

B2地区東側に位置し、SB3の西側に沿う。4基の柱穴が並び、SB3の柱列に近距離で平行することからSB3の塀または垣と推測する。

柱穴は円形で直径23~30cm, 深さ26~40cmである。埋土はすべて暗灰黄色シルト混じりの黒褐色シルトで単層である。遺物はないが、SB3の年代から12世紀中頃~後半と推定する。

### 3号櫓 (SA3, 第24・25図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の東側に沿う。5基の柱穴が並び、SB3の柱列に近距離で平行することからSB3の塀または垣と推測する。SA4と並ぶが、時期関係は不明である。

柱穴は円形で、直径20~45cm, 深さ9~42cmである。埋土は暗灰黄色シルト混じりの黒褐色シルトまたは褐色シルトで単層である。SP222は途中から一部を深く掘り下げて段が付く掘形をもつ。出土遺物はないが、SB3の年代から12世紀中頃~後半と推定する。

### 4号櫓 (SA4, 第24・25図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の東側に沿う。6基の柱穴が並び、SB3の柱列に近距離で平行することからSB3の塀または垣と推測する。SA3と並ぶが、時期関係は不明である。

柱穴は円形で、直径22~29cm, 深さ8~46cmである。埋土は暗灰黄色シルト混じりの黒褐色シルトまたは褐色シルトで、ほとんどが単層であるが、SP124は柱痕が残る。

出土遺物はSP106の中世土師器皿1点(86), SP124の中世土師器皿(85), SP136の中世土師器皿1点である。遺構の年代は、遺物から12世紀中頃~後半と推定される。

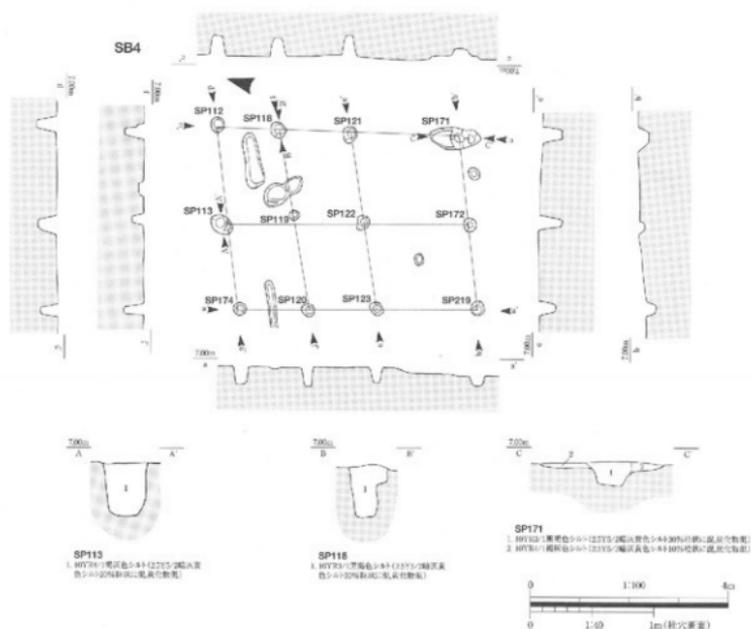
### 5号櫓 (SA5, 第27・28図)

B2地区東側に位置する。SB5の西側に隣接する柱列で、検出した柱穴数は少ないが、SB5に関連する可能性が考えられる。

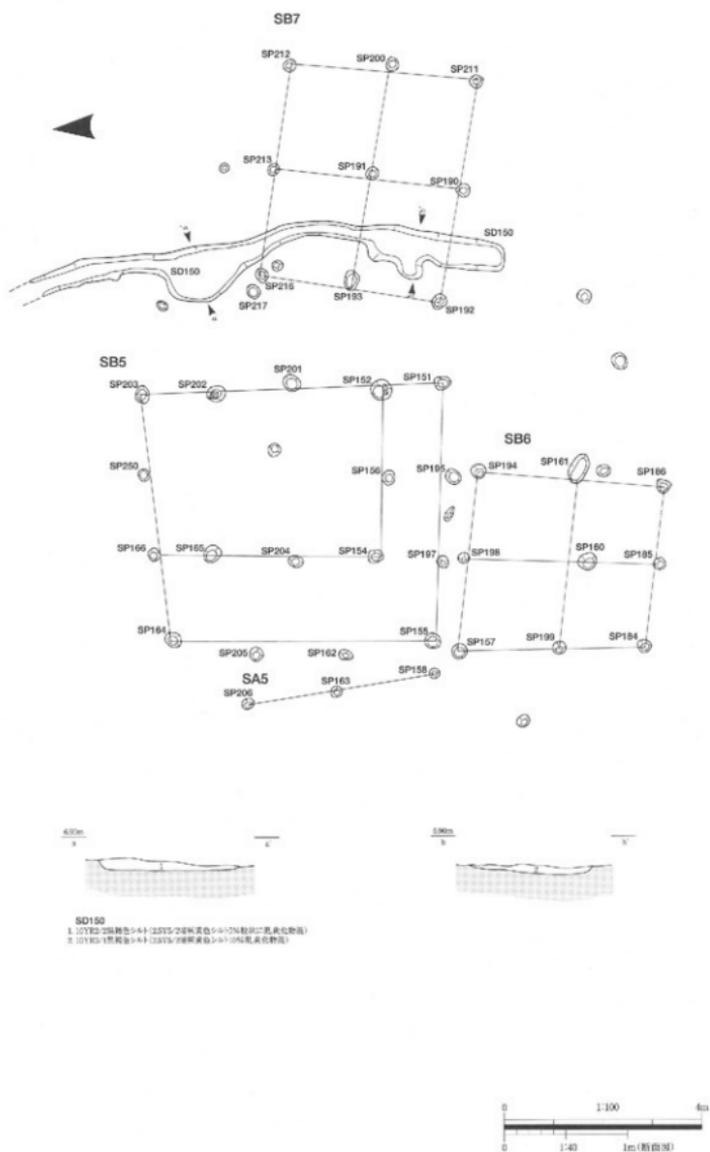
柱穴の平面形は円で直径19~24cm, 深さは20~29cmである。埋土は暗灰黄色シルトが混じる褐色シルト・黒褐色シルトの単層である。出土遺物はない。







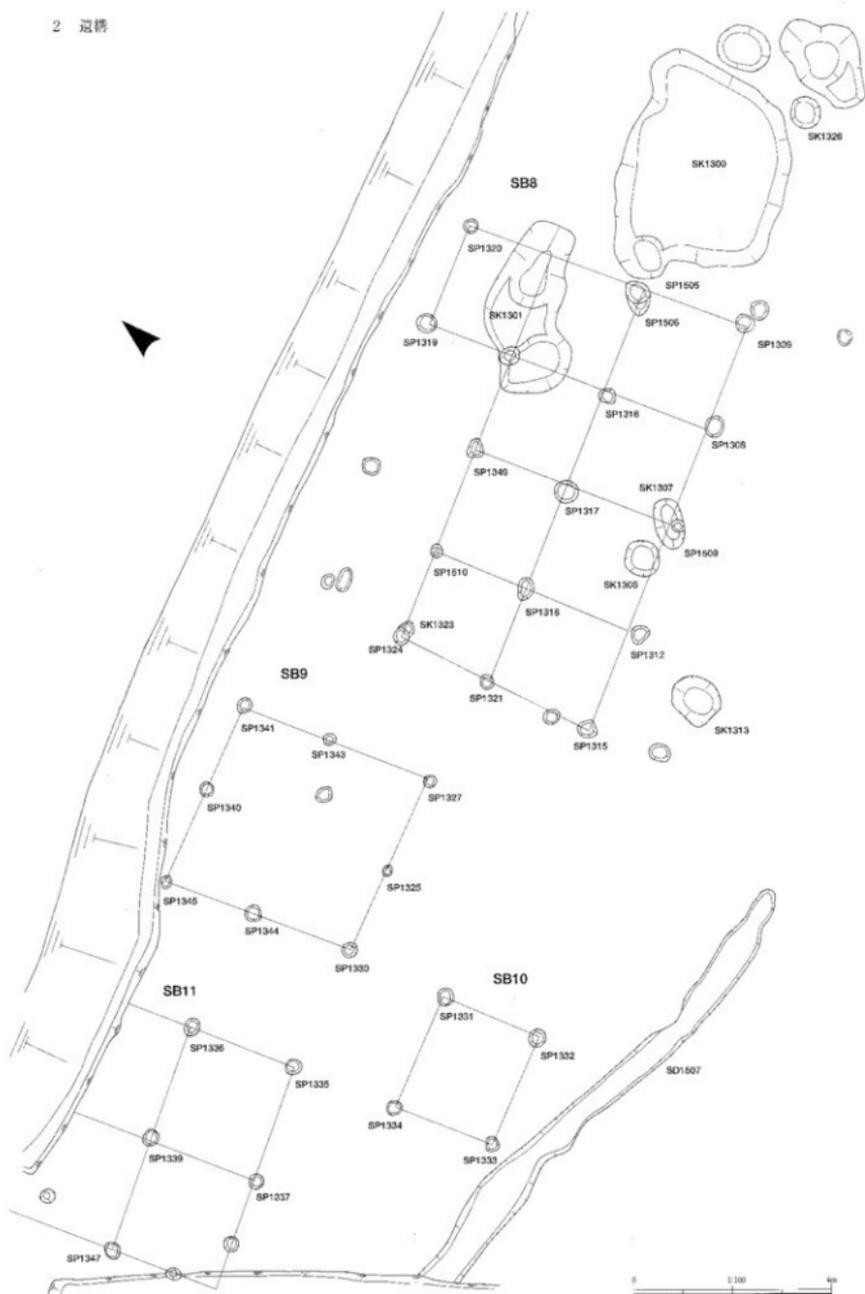
第26図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
 SB4



第27図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

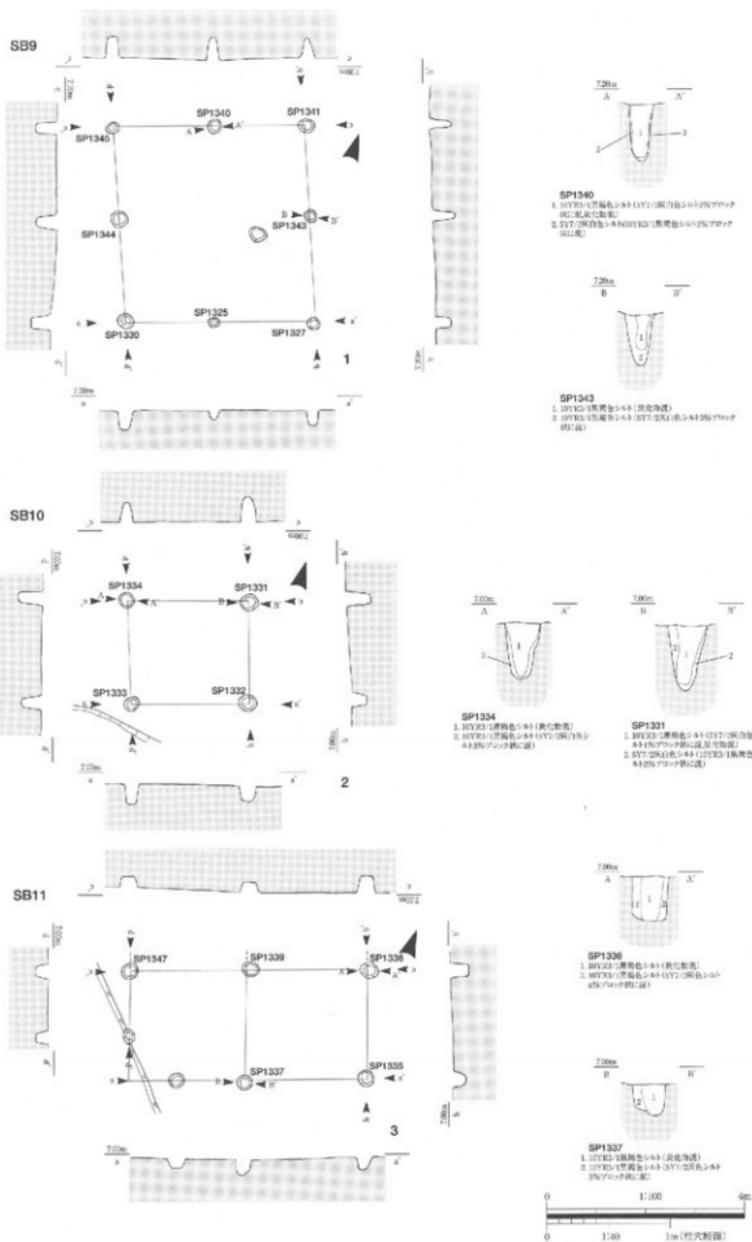
SB5~SB7・SA5・SP217・SD150





第29図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB8~SB11



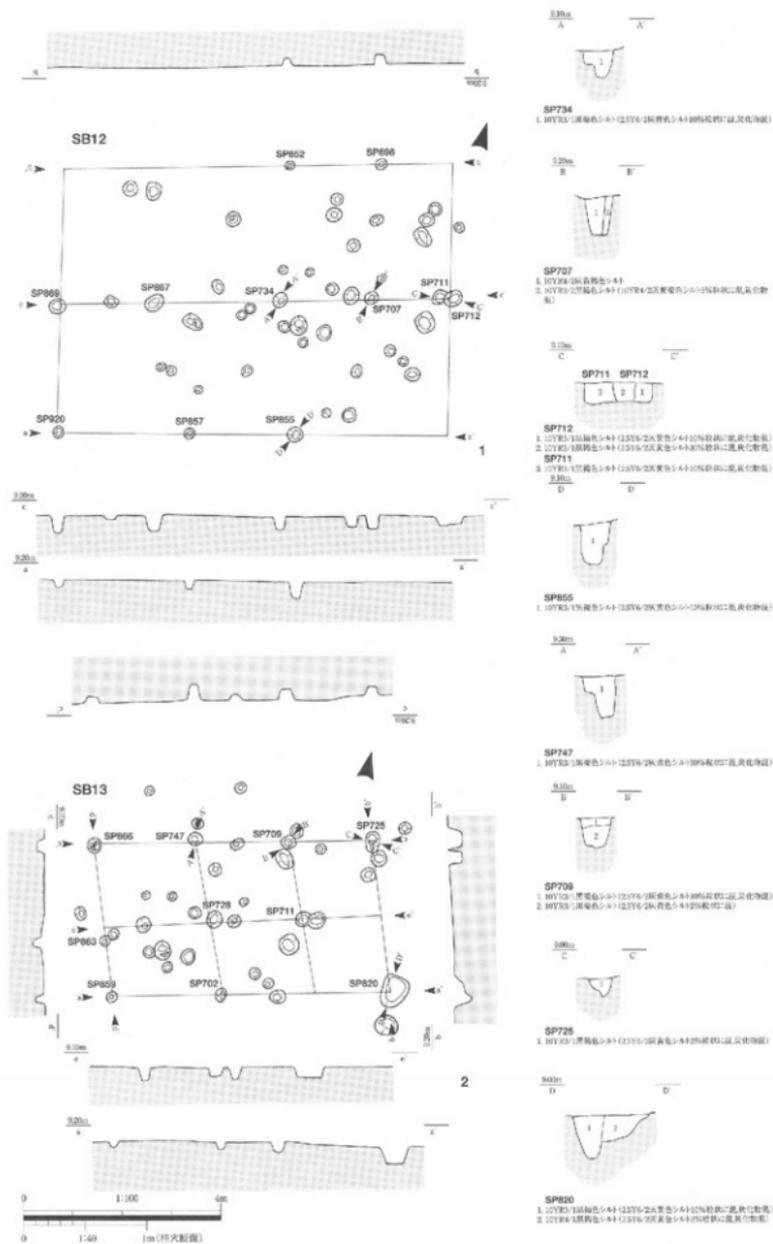


第31図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

1. SB9 2. SB10 3. SB11



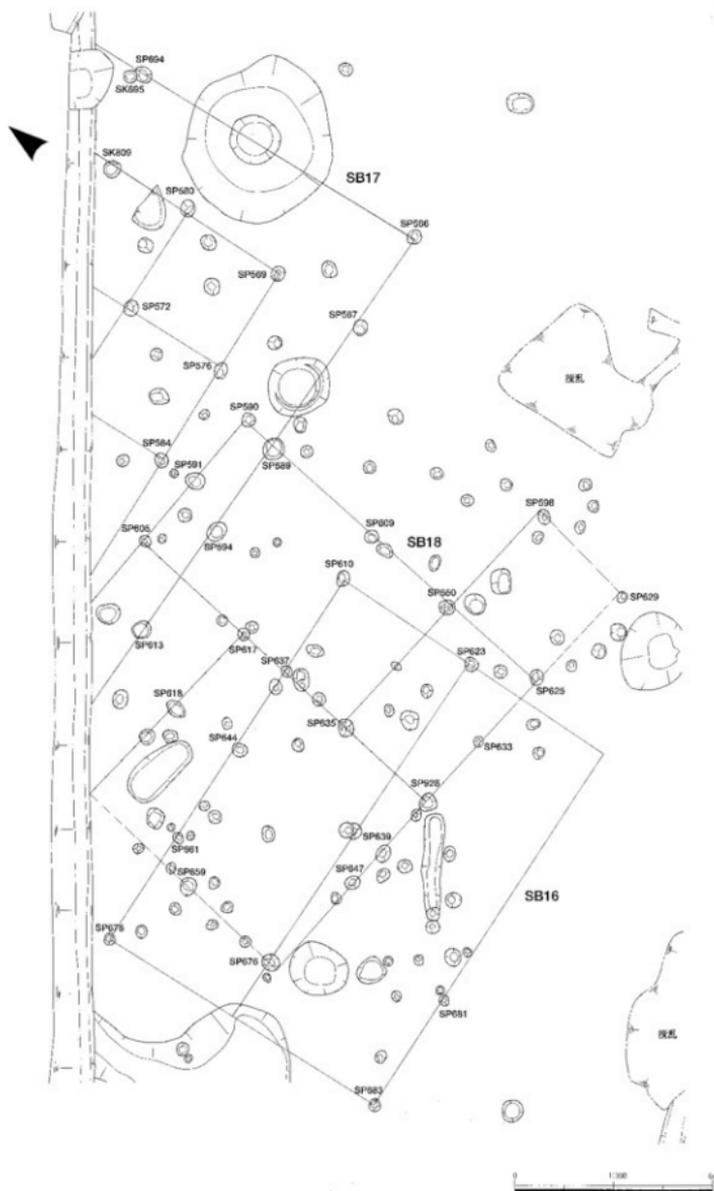
第32図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB12～SB15



第33図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

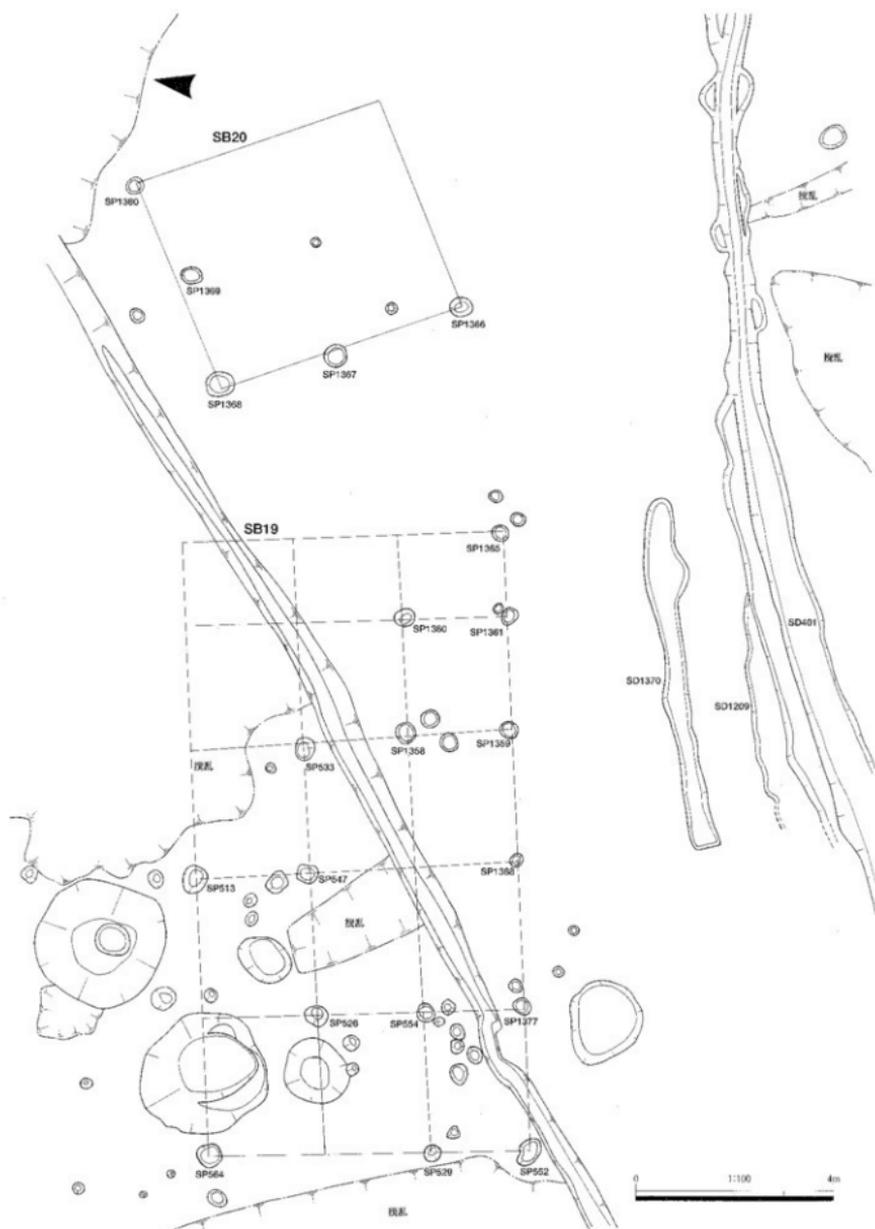
1. SB12 2. SB13



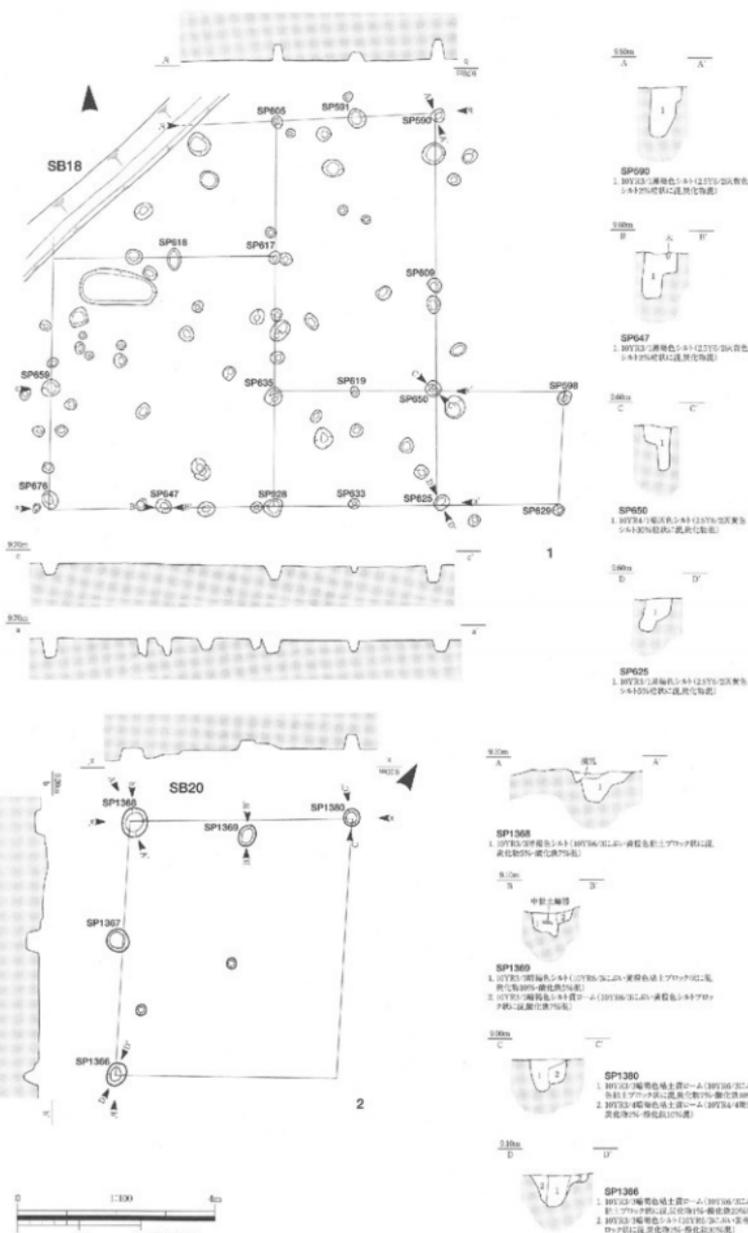


第35図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB16~SB18

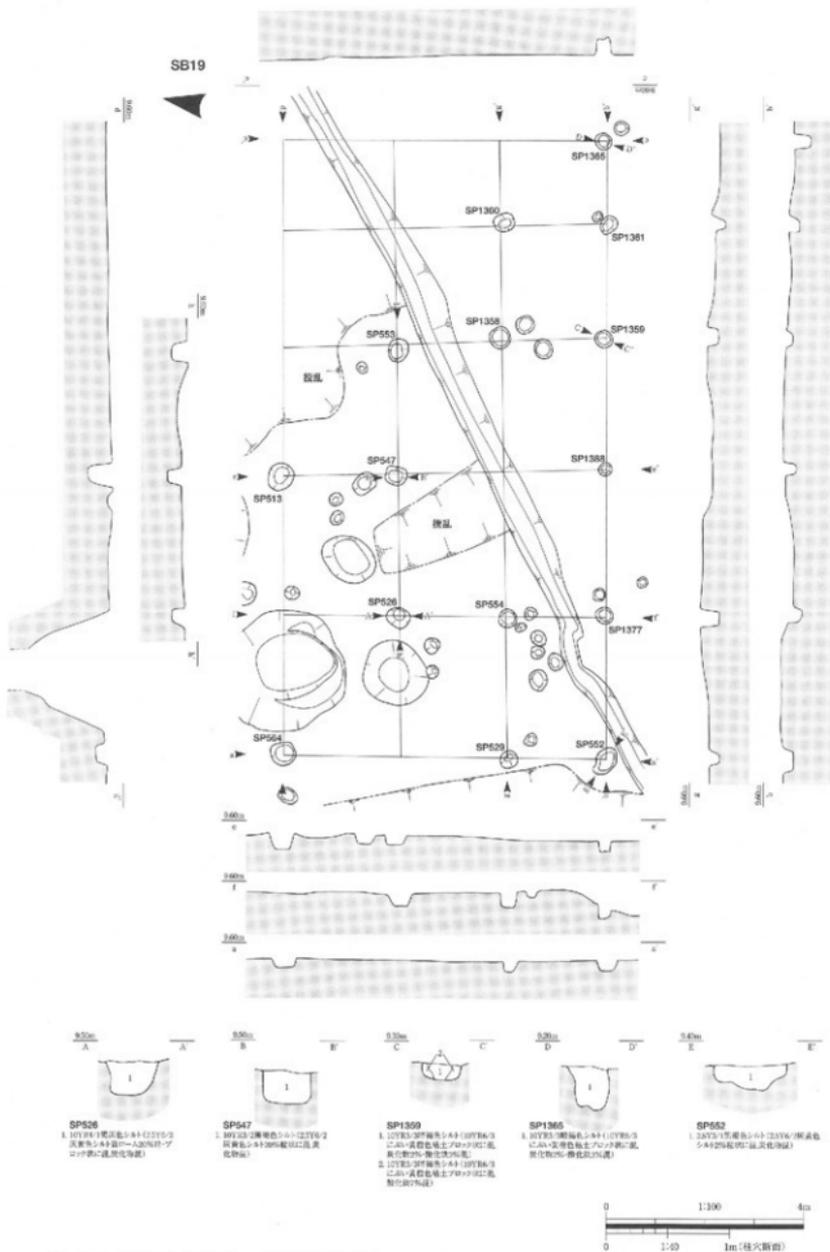




第37図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB19・SB20

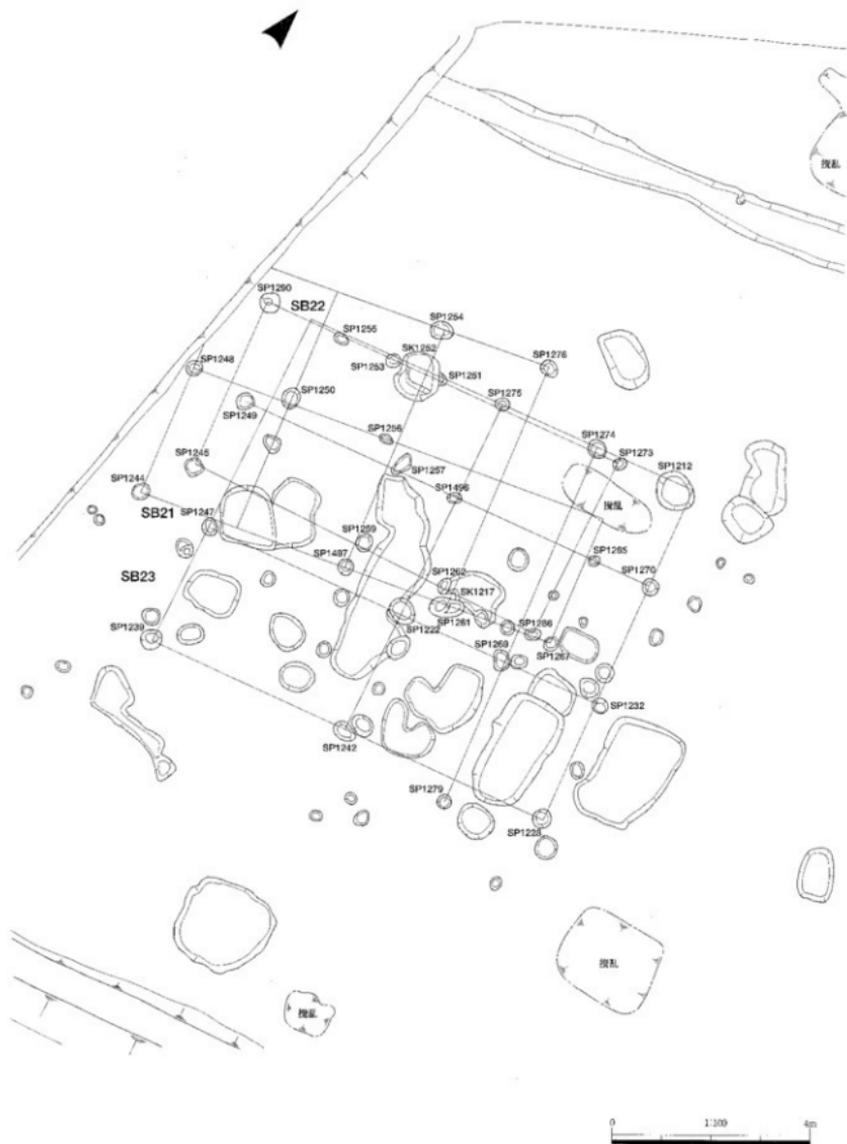


第38図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
1. SB18 2. SB20

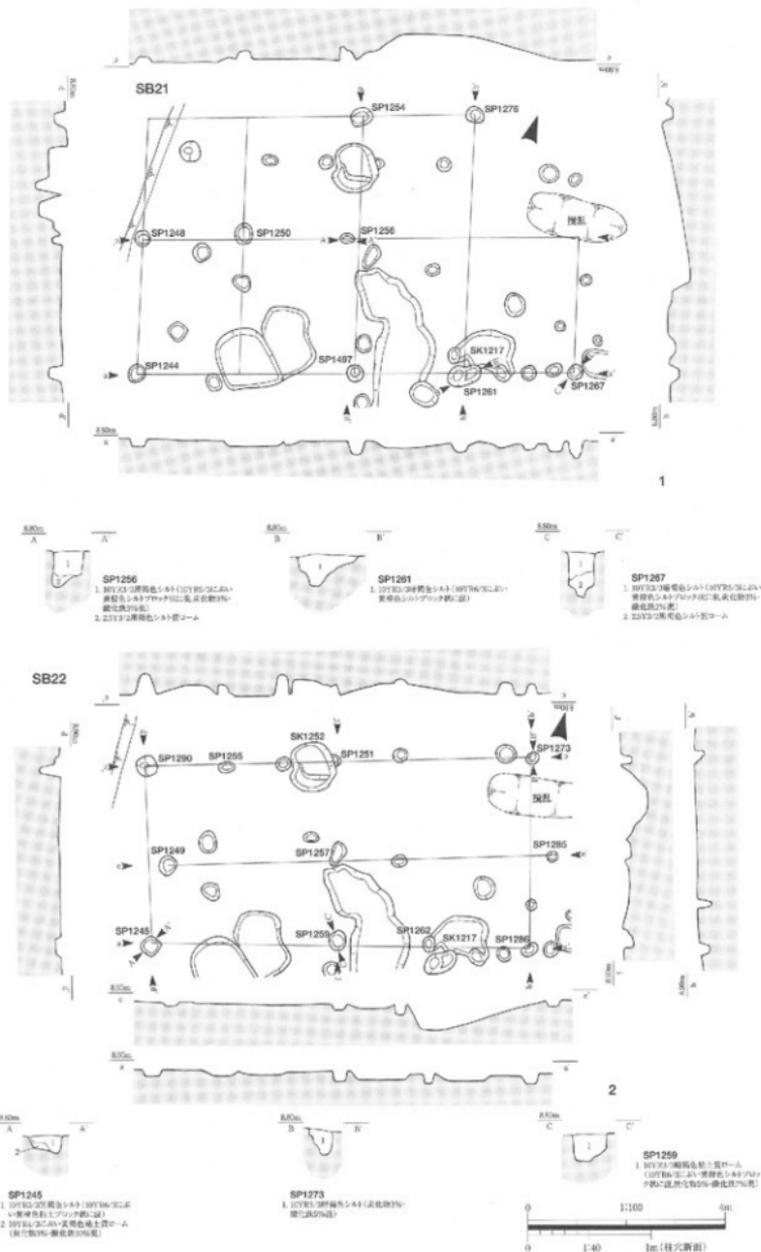


第39図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

SB19

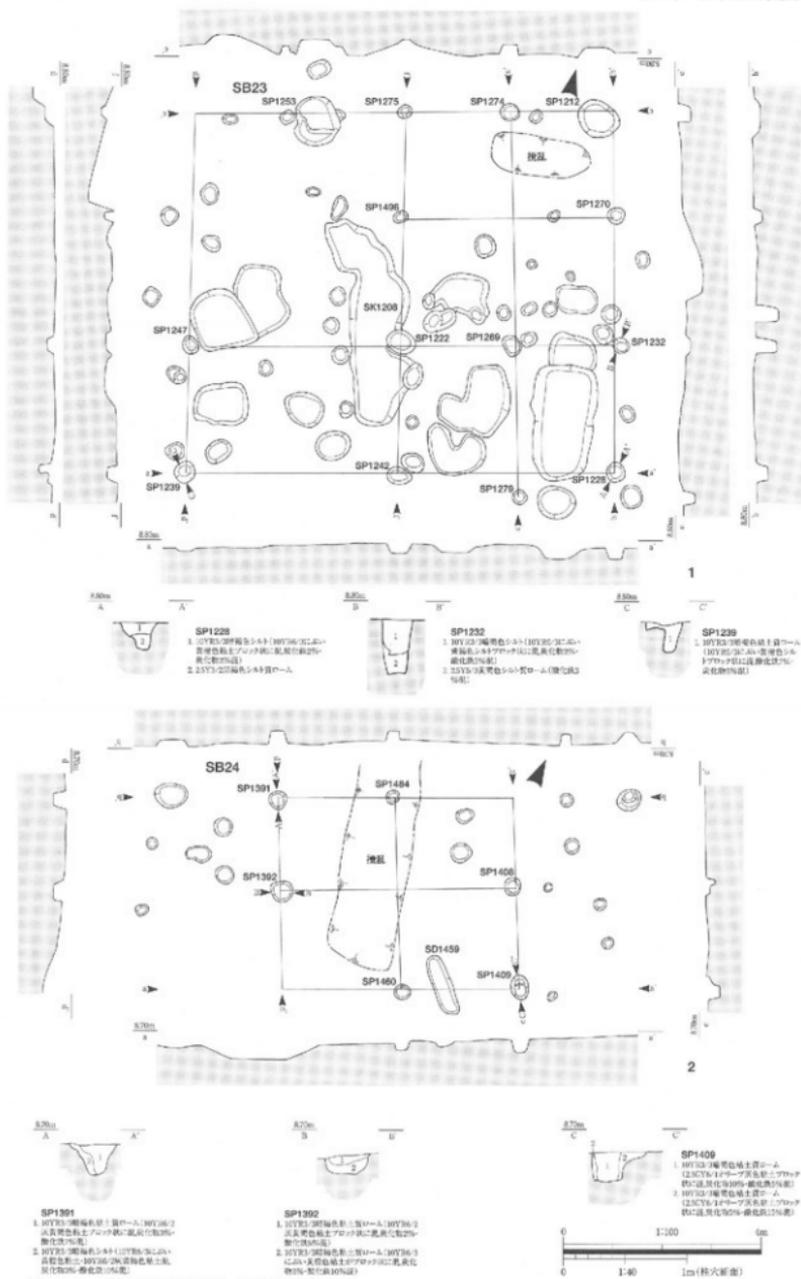


第40図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB21~SB23

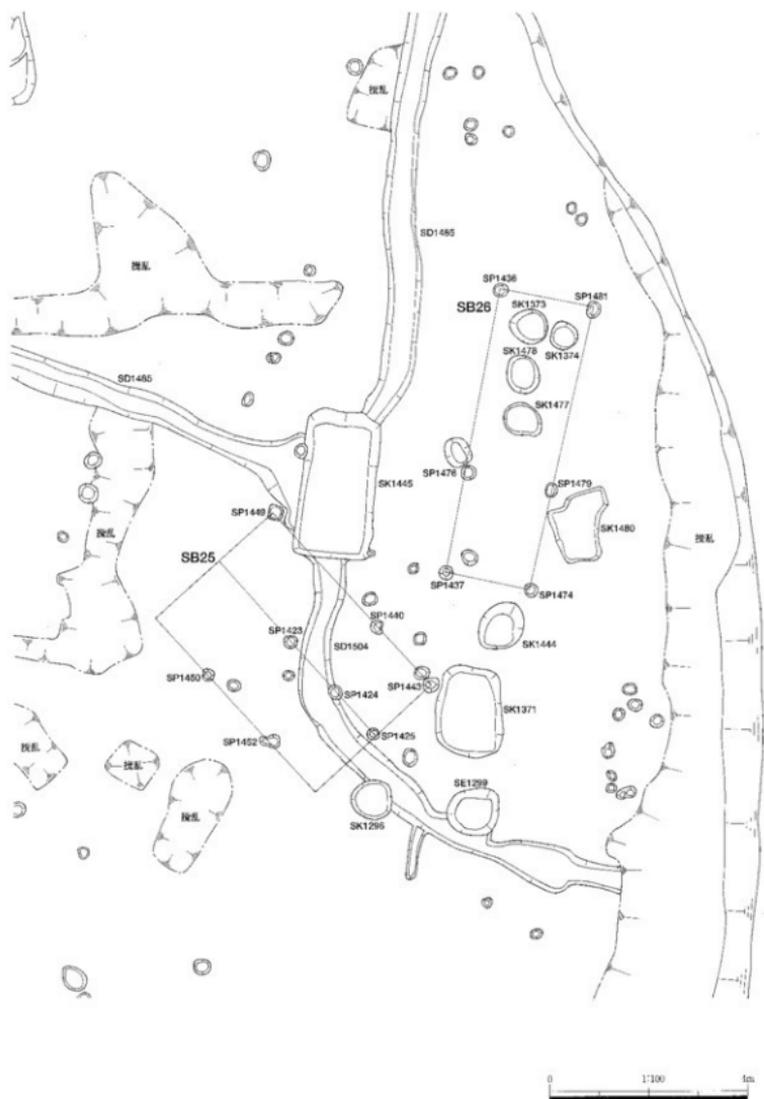


第41図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

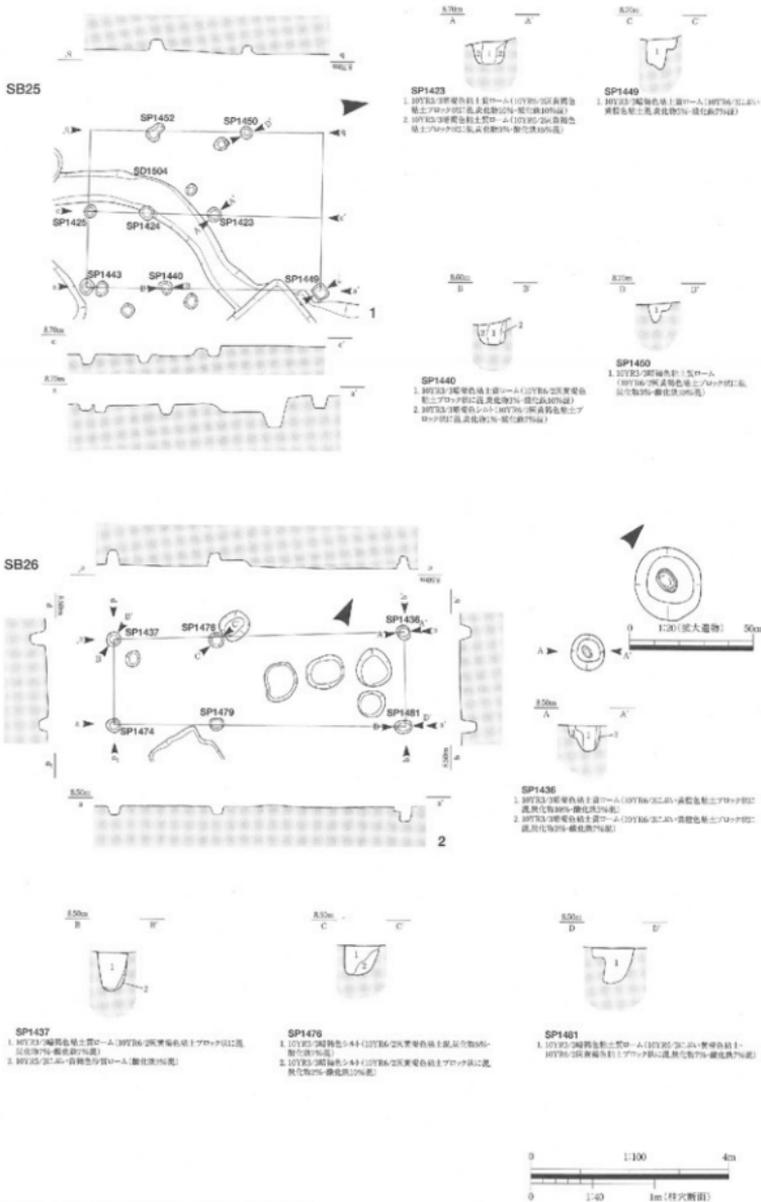
1. SB21 2. SB22



第42図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
1. SB23 2. SB24



第43図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SB25・SB26



第44図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

1. SB25 2. SB26

## C 溝・自然流路

## 4号自然流路 (SD4, 第45図, 図版20・31)

A地区北端に位置する。自然流路としたが、深度を増しつつ調査区外に延びているため全容は不明で、川または沼地、池の可能性が考えられる。

調査区内で確認できる最大幅は12.84m、深さ2.0mである。埋土は水平堆積で、下層に黄灰色粘土質ローム・灰色粘土質ロームなど粘性の高い土が堆積し、上層にオリブ黒色シルト質ローム・黒褐色シルトが堆積する。土質から、水勢の強い川の堆積ではなく、沼地化し徐々に埋積していったと推測される。A地区内でも特に噴砂が集中していた遺構で、SD4埋没後に発生した地震による液状化現象の影響を受けたものといえる。SD4は調査区縁端部に向かって徐々に深くなるが、噴砂は遺構の検出面から底面までの深度が1m未満の部分に集中しており、深くなる部分ではあまり顕著でない。

出土遺物は弥生土器・須恵器(88・89)・中世土師器(90・91)・珠洲・中国製白磁・土鍾(92~94)・漆器・柄(5)・木地皿(15)・加工棒(67)・加工板(60)・種実(オニグルミ)である。遺物は下層からの出土が多く、土鍾の出土は周辺で網漁業が行われていた可能性を示唆する。遺物からSD4は12世紀後半頃に埋まったものと推定する。

## 11号自然流路 (SD11, 第46・47図, 図版20)

A地区東端からB1・B2地区に続く自然流路で、河川跡である。最大幅は28.40mで、深さは2.0mである。最も深い部分はB1地区中央を北西から南東へと蛇行し、B1地区全体が浅瀬を含めて川の範囲内になっている。A地区とB2地区は川底へ向かって緩やかに傾斜する浅瀬部分である。

埋土は、A地区のみ最上部にオリブ黒色シルト質ロームが堆積し、以下はほぼ全地区をとおして灰白色砂、灰白色砂混じりの黒褐色シルトが上層に堆積する。灰白色砂層にも黒褐色シルトが幾分混じっており、水平断面ではこれらの土が混ざり合って溝を描く擾乱構造がみられ、垂直断面では灰白色砂層と黒褐色シルト層との境界が波打ち、下の層に滲り込むなどの擾乱構造が看取された。このような擾乱構造は地震の影響によって形成された可能性がある。埋土の擾乱構造が地震によるものとするれば、後述する遺物の年代から1858年の安政地震が要因と考えられる<sup>88)</sup>。下層は灰色粘土質ローム以下粘性の高い土が堆積し、最下層は灰色砂が帯状に混じる水成堆積層となっている。

出土遺物は土師器(96)・須恵器(95)・黒色土器(97)・中世土師器(98~106)・珠洲(107・108)・古瀬戸(109)・越中瀬戸(110)・伊万里・土鍾(111~118)・土製品・漆器(12・14)・加工板(59・65・68・69)・加工棒(56・70)・ウマの歯・種実である。ウマの歯はB2地区北側の土層と付近の包含層から出土した。種実は上層からオニグルミ、モモ、トチノキが出土している。

古代から中世の遺物は上・下層から出土しているが、越中瀬戸・漆器等近世の遺物は灰白色砂層以上の上面付近の土層から出土していることから、SD11の年代は12世紀を中心として13世紀末、遅くとも14世紀中頃にかけては埋没し、近世に至って若干窪地となったところに灰白色砂等が流れ込んで完全に埋没したものと考えられ、東側に隣接する建物群SB3~7と同時期の遺構と考えられる。土鍾は特にB2地区を中心としてまとまった量が出土しており、建物群周辺の溝からも出土していることから、付近で網漁業が行われていたことを示唆するものと考えられる。加工板の中には懸魚または道具の一部と考えられる特殊な意匠のものもあり、これらは溝の肩付近で折り重なって出土した。出土状況から川上から流れてきたものとは考えにくく、意図的にまとめて廃棄されたものと考えられ、付近に社殿等特殊な建物が存在したと推測される。

## 103号自然流路 (SD103, 第46・47図)

A地区からB2地区にかけて流れるSD11の東肩に重なる。最大幅は58cmで、深さは24cmである。SD11の③層に切れ、④層を切る。埋土は灰白色砂が帯状に混じる黄灰色シルトである。SD11がほぼ埋まったあと掘り直された溝かもしれないが、SD11の埋土の一部である可能性もある。出土遺物は中世土師器皿片2点、土錘1点(I21)である。

## 104号溝 (SD104, 第24図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の東側に沿う。直交するSD142・SD140とともにSB3に関連する区画溝または道路側溝と推測される。最大幅は140cmで、深さは8cmである。埋土は黒褐色シルトを基調とする。切り合いではSK105より古く、SK238・SK240より新しい。

出土遺物は中世土師器皿(I23)、珠洲瓦片1点、土錘1点(I22)、種実(モモ)である。中世土師器皿はロクロ成形で、図示したほかに4点の破片がある。遺構の年代は、遺物から12世紀中頃～後半と推定する。

## 140号溝 (SD140, 第24図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の南側に沿う。方向が同じSD141・SD142、直交するSD104とともにSB3に関連する区画溝または道路側溝と推測される。最大幅は72cmで、深さは16cmである。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

出土遺物はロクロ成形の中世土師器皿4点(I24～I26)、中国製白磁碗1点(I27)、土錘1点(I28)である。遺構の年代は遺物から12世紀中頃～後半と推定する。

## 141号溝 (SD141, 第24図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の南側に沿う。方向を同じくするSD140・SD142、直交するSD104とともにSB3に関連する区画溝または道路側溝と推測される。最大幅は40cmで、深さは6cmである。埋土は暗灰黄色シルト混じりの褐色シルトである。出土遺物はないが、SD140の遺物から、遺構の時期は12世紀中頃～後半と推定する。

## 142号溝 (SD142, 第24図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB3の東側にのびる。方向が同じSD141・SD142、直交するSD104とともにSB3に関連する区画溝または道路側溝と推測される。最大幅は55cmで、深さは8cmである。出土遺物はないが、SD140の遺物から、遺構の時期は12世紀中頃～後半と推定する。

## 150号溝 (SD150, 第27図, 図版14)

B2地区東側に位置し、SB5・6の東側に隣接し、SB7と重複する。幅は2箇所影らむ部分があり最大幅1.15mで、その他の場所では50cm前後である。深さは9cmである。埋土は暗灰黄色シルトが混じる黒褐色シルトである。

出土遺物は中世土師器・土錘で、小片であるがロクロ成形のものが数点ある。出土遺物と遺構配置から、SB7とは時期差があると考えられるが、SB5・6とは同時期のもので、建物の区画溝もしくは道路の側溝と考えられる。遺構の年代はSB5・6の年代と同じ12世紀後半と推定する。

## 301号自然流路 (SD301, 第48図, 図版21)

B3地区からC7地区にかけて調査区の南端を流れる自然流路で、河川跡である。最大幅8m、深さ72cmである。調査区端に向かって緩やかに傾斜しており、河川の本体となる最も深い部分は調査区外にある。

埋土は水平堆積で3層に大別され、西側のB2地区では黄灰色粘土質ロームを基調とし、東側のC

7地区では上層は灰色粘土質ローム、下層は灰色シルト・オリーブ灰色ロームを基調とする。下層には炭化物が多く混じる部分がある。土質から、水勢のある河川堆積層ではなく、河川の氾濫等により淀んだ状態で徐々に埋積したものと推測する。下層の炭化物が混じる土層の珪藻分析においても、堆積環境がジメジメした陸域環境で時折洪水などにより河川の流入の起こる環境であったと推定される<sup>13)</sup>。遺物は主にC7地区の上層と、礫原となる東側の底面から出土しており、周辺の建物群に関係するものと考えられる。

出土遺物は土師器 (129・130・157)・須恵器 (131~134)・黒色土器 (135)・中世土師器 (136~156)・珠洲 (158~205)・古瀬戸 (206)・瀬戸美濃 (207)・中国製白磁 (208~210・213)・中国製青磁 (211・212)・越中瀬戸・土鍾 (214~221)・下駄 (4)・紡錘車? (6)・曲物・井戸枠・円形板・加工棒 (55・57)・加工板・扁平片刃石斧 (2)・石鍋 (22)・砥石 (12・15・20)・銭 (4・7)・羽口 (36)・種実・骨である。種実は下層の炭化物層から出土したもので、カジノキ、イネ炭化胚乳、タガラシ、モモ核等が特に多い。モモは河川沿いで栽培されたか、利用後投棄されたものと考えられる<sup>14)</sup>。同じ土層の花粉化石の分析結果とも合わせると、遺跡周辺には落葉広葉樹林が遺跡から幾分離れた微高地上になどに成立しており、低地部にハンノキ属が湿地林を形成し、自然流路内または近接した場所に水位の低い湿地的環境が存在し、付近に水田やソバ・アブラナ科の栽培地が存在した可能性が示唆されている<sup>15)</sup>。骨は下層の炭化物層から出土したもので、陸獣骨の破片である<sup>16)</sup>。

遺物は7世紀末~16世紀末の年代幅があるが、量的には主体は12世紀~13世紀のもので、下層出土の遺物は13世紀を下限とする。このことからS D301は古代から中世の河川跡で、13世紀頃までにほとんどが埋積して平地となり、16世紀頃までには完全に埋まったものと考えられる。

#### 302号溝 (S D302, 第48図)

B3地区北側からC7地区へと流れる溝である。東西方向の流路であるが緩く弧を描くように曲がり、途切れているがS D301へと流れ込んでいたものと考えられる。最大幅は1.59mで、深さは12cmである。埋土は黒褐色シルト・褐色シルト・暗灰黄色シルトを基調とする。

出土遺物は土師器・中世土師器の小片が数点ある。

#### 327号溝 (S D327, 第48図)

B3地区中央に位置する。東西方向の溝で、S D302と平行であるが検出した長さは短く詳細は不明である。最大幅は25cmで、深さは5cmである。埋土は暗灰黄色シルトが混じる褐色シルトである。出土遺物は土師器の小片1点である。

#### 329号溝 (S D329, 第48図)

B3地区北側に位置する。南側は試掘トレンチに切られる。最大幅1.14m、深さ6cmである。埋土は暗灰黄色シルトが混じる黒褐色シルトである。出土遺物は土師器・中世土師器の小片が数点ある。

#### 401号溝 (S D401, 第20・49・50・52図, 図版12・19)

C3地区からC4・C7地区へと繋がる東西方向の直線的な溝である。S D402・S D1370と並行して走り、ともに道路の側溝であったと推定する。方向はおよそN-70°-Wである。最大幅は1.8mで、深さは70cmである。もう一方の側溝であるS D402・S D1370に比べ倍以上の深さになっている。検出面からの深さはC3地区中央のC4・C7地区の境界付近が最も浅く、削平を受けているものと考えられる。断面形は逆台形状に近く、土層断面から何回かの溝浚えを行って使用されていたことが看取される。

埋土は黒褐色シルト・オリーブ褐色シルト・暗褐色シルトを基調とし、にぶい黄橙色粘土等が粒

13) 第二分室 自然科學分析 株式会社パレオ・ラボ 遺構一帯「B」土壌分析 2. 窒素同位体組成の陸域化可塑性

14) 第二分室 自然科學分析 株式会社パレオ・ラボ 遺構一帯「B」土壌分析 3. 珪藻分析 2. 珪藻分析結果の陸域化可塑性

15) 第二分室 自然科學分析 株式会社パレオ・ラボ 遺構一帯「B」土壌分析 3. 珪藻分析 2. 珪藻分析結果の陸域化可塑性

16) 第二分室 自然科學分析 株式会社パレオ・ラボ 遺構一帯「B」土壌分析 3. 珪藻分析 2. 珪藻分析結果の陸域化可塑性

状・ブロック状に混じる。水成堆積層はみられないが、東端ではS D1485・S D1504が枝分かれしており、道路側溝であるのみでなく水路としての機能を併せ持っていた可能性もある。出土遺物は土師器(223)・須恵器(222)・中世土師器(224・225)・珠洲(230~254)・中国製青磁(227・228)・中国製白磁・古瀬戸(226)・土鍾(229)・土製品・焼石・引き手金具(30)・鉄滓(43~45・48)・植実(ウメ)である。古代の遺物もあるが主体は中世のもので、12世紀後半頃開削され14世紀頃まで機能した溝と考えられる。

#### 402号溝(S D402, 第49・50図, 図版19)

C3からC4地区へ繋がる東西方向の直線的な溝である。S D401と並行して走り、ともに道路の側溝であったと推定する。またC7地区西側では途切れて検出されなかったが、削平によるものと考えられ、C7地区東側で検出したS D1370がS D402の続きとみられる。最大幅1.02m、深さ18cmで、南側の側溝S D401に比べて細く浅い。

埋土は黄褐色シルト・暗褐色ローム・褐灰色シルト等を基調とし、水成堆積とみられる層はない。西端ではS D403に切られる。S D697・744・917に切られる。

出土遺物は土師器・須恵器・珠洲(255)・中国製白磁・土製品・鉄滓で特に珠洲と土師器の破片が多い。珠洲は12世紀後半のもので、遺物の年代はS D401と同時期と考えられる。

#### 403号溝(S D403, 第49・50図)

C3地区西端に位置し、道路S F1の側溝S D402に並行しこれを切る。最大幅87cm、深さ34cmで、S D402よりも深く、側溝を改修したものかもしれないが、調査区内で検出した長さは短く、調査区外に延びるので詳細は不明である。埋土は暗褐色ローム・黄褐色シルト・オリーブ褐色シルトを基調とし、ほぼ水平堆積で3層に分かれる。

出土遺物は土師器小片多数と珠洲壺1点、壺2点、播鉢1点で、播鉢は13世紀中頃~14世紀中頃のものである。

#### 414号溝(S D414, 第51図, 図版18)

C3地区の道路S F1の路面にあり、S F1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は45cmで、深さは10cmである。埋土は黄褐色シルト質ロームが混じる褐灰色シルトである。

出土遺物は珠洲播鉢1点(256)で、12世紀後半~13世紀前半のものであり、遺物の年代を示すものと考えられる。

#### 415号溝(S D415, 第51図, 図版18)

C3地区の道路S F1の路面にあり、S F1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は36cmで、深さは11cmである。埋土は黄褐色シルト質ロームが混じる褐灰色シルトである。

出土遺物は珠洲播鉢(257・258)の他に壺3点、壺1点がある。溝の規模に対して少なくない出土量であり、路面補強のために埋土に混ぜられた可能性が考えられる。

#### 416号溝(S D416, 第51図, 図版18)

C3地区の道路S F1の路面にあり、S F1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は30cmで、深さは4cmである。埋土は黄褐色シルト質ロームが混じる褐灰色シルトである。

出土遺物は須恵器壺1点、珠洲播鉢2点、壺4点がある。溝の規模に対して少なくない出土量であ

り、路面補強のために埋土に混ぜられた可能性が考えられる。

#### 417号溝 (S D417, 第51図)

C 3地区の道路SF1の路面にあり、SF1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。楕円形を呈するが、隣接するS D414~416と同じ性格のものとする。最大幅は37cm、長さは84cm、深さは5cmである。埋土は黄褐色シルト質ロームが混じる褐色シルトである。出土遺物はない。

#### 437号溝 (S D437, 第51図)

C 4地区の道路SF1の路面にあり、SF1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は48cmで、深さは12cmである。埋土は褐色シルトが混じる黄褐色シルトである。出土遺物はない。

#### 453号溝 (S D453, 第55図)

C 1地区からC 7地区へと続く溝で、高岡市教育委員会が調査を実施した北側の地区でも、緩やかに弧を描く流路の延長が確認されている。断面形は逆台形に近く、人工的に開削された溝の可能性が高いと考えられる。

最大幅は4.8mで、深さは66cmである。西側は底面が一段高くなっており、埋土に切り合いがあるので、流路の移動による時期差を示すものとする。上層は灰黄褐色砂質ローム等を基調とし、灰黄色シルト、灰黄褐色粘土質ローム等を挟んで最下層に礫混じりの灰黄褐色砂が堆積する。最下層は水勢のある河川堆積層とみられ、遺物の多くはこの層から出土している。

出土遺物は弥生土器(259)・土師器・須恵器(260~266)・中世土師器(267・268)・珠洲(274~278・281~296)・越前・古瀬戸(269・270)・中国製白磁(273)・中国製青磁(271・272)・越中瀬戸・加賀(297)・土師(279・280)・鉄鏝(56・57)である。古代の遺物もあるが主体は中世のもので、開削が古代まで遡るかは不明である。中世の遺物では12世紀後半~13世紀のものが多く、古瀬戸・越前・加賀など13世紀後半~14世紀の遺物もわずかではあるが下層から出土しているので、S D453は少なくとも12世紀後半には開削され、14世紀まで流れがあったと推定する。また、流れの方向からみて同時期の自然河川S D301へと合流するものと考えられる。

#### 829号溝 (S D829, 第49・50図, 図版15)

C 4地区南東部に位置する。S D846と並行して走り、ともに道路の側溝であった可能性もあるが検出した長さが短く、建物位置とも重複するため不明である。最大幅は26cmで、深さは8cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる褐色シルトである。出土遺物はない。

#### 837号溝 (S D837, 第21図, 図版12)

C 4地区南東部に位置する。最大幅は20cmで、深さは8cmである。埋土は暗灰黄色砂質ローム・灰黄色シルトが混じる褐色シルトである。古代の溝S D744を切る。出土遺物は土師器の小片1点である。

#### 843号溝 (S D843, 第19・21図)

C 4地区南東部に位置する。最大幅は32cmで、深さは10cmである。埋土は黒褐色シルトである。切り合いではS K844より新しい。S K743との切り合いは明確でなく一連の遺構かもしれない。出土遺物はない。

#### 846号溝 (S D846, 第49・50図, 図版15)

C 4地区南東部に位置する。S D829と並行して走り、ともに道路の側溝であった可能性もあるが

検出した長さが短く、建物位置とも重複するため不明である。最大幅は30cmで、深さは5cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる灰黄褐色シルトである。出土遺物はない。

#### 914号自然流路 (S D914, 第49・54図, 図版21)

C4地区南東端に位置する。S D915・S D916が分岐し一連の遺構と考えられる。自然流路の一部と考えられるが、擾乱を受けており、最大幅は1.83m、深さは18cmと浅い。埋土は灰黄色シルト混じりの褐灰色シルトである。

出土遺物は土師器・珠洲(298)・中国製白磁・土製品・焼けた自然礫で、珠洲播鉢の底部は底面で伏せた状態で出土した。珠洲片が最も多く、播鉢の他に壺片が3点ある。

#### 915号自然流路 (S D915, 第49・54図)

C4地区南東部に位置する。S D914から枝分かれし一連の遺構と考えられる。自然流路の一部と考えられ、最大幅は1.24m、深さは18cmである。埋土は灰黄色シルト混じりの褐灰色シルトである。出土遺物はない。

#### 916号自然流路 (S D916, 第49・54図)

C4地区南東部に位置する。S D914から枝分かれし、一連の遺構と考えられる。自然流路の一部と考えられ、最大幅は52cm、深さは9cmである。埋土は黒褐色シルト質ロームである。出土遺物は珠洲で、壺片5点と播鉢片1点がある。

#### 924号溝 (S D924, 第51図, 図版19)

C4地区の道路S F1の路面にあり、S F1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は48cmで、深さは4cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる暗灰黄色シルトである。

出土遺物は珠洲・焼石である。珠洲は壺の破片1点で、底面から出土した。路面の補強のために埋められた可能性が考えられる。

#### 925号溝 (S D925, 第51図, 図版19)

C4地区の道路S F1の路面にあり、S F1に対しほぼ直交する。道路面の波板状圧痕とみられ、路面の補強または補修に関連するものか。最大幅は36cmで、深さは4cmである。埋土は灰黄色シルトが混じる暗灰黄色シルトである。出土遺物はない。

#### 1005号溝 (S D1005, 第55・56図)

C5地区の南北方向の溝で、北側でS D1011に合流し、南側は擾乱を受ける。S D1008と並行して走るが検出した長さが短く性格は不明である。最大幅は96cmで、深さは8cmと浅い。埋土は灰黄色ロームが混じる黒褐色シルト質ロームである。

出土遺物は土師器小片数点、須恵器壺1点である。

#### 1007号溝 (S D1007, 第55・56図, 図版21)

C5地区の東西方向の溝で、S D1011と並行して走る。ともに道路の側溝であった可能性もあるが、検出した長さが短く平面形も不整形であるため詳細は不明である。最大幅87cm、深さは24cmである。埋土は灰黄色シルト混じりの黒褐色ロームである。

出土遺物は縄文土器・土師器・須恵器・鉄滓で、須恵器壺片2点の他は破片各1点の出土である。

#### 1008号溝 (S D1008, 第55・56図)

C5地区の南北方向の溝で、S D1007・S D1011と直交する。S D1008と並行して走るが検出した長さが短く性格は不明である。最大幅は78cmで、深さは32cmである。埋土は灰黄色シルト混じりの黒

褐色ロームである。

出土遺物は土師器小片数点、須恵器壺1点、珠洲甕1点で、他に骨針を多く含む粘土塊がある。

#### 1011号溝 (SD1011, 第55・56図, 図版21)

C5地区の東西方向の溝で、SD1007と並行して走る。ともに道路の側溝であった可能性もあるが、検出した長さが短く詳細は不明である。最大幅は57cmで、深さは14cmである。埋土は灰黄色ローム混じりの黒褐色ロームである。出土遺物はない。

#### 1104号溝 (SD1104, 第57図)

C6地区の溝で、枝分かれする部分もあるが検出した長さも短く性格は不明である。最大幅は68cmで、深さは12cmである。埋土は黒褐色シルト質ロームと黒褐色シルトである。

出土遺物は土師器・須恵器(299)・中世土師器(300)である。土師器壺・中世土師器皿の破片が多く、須恵器は杯1点である。遺物から13世紀以降の遺構と推定する。

#### 1209号溝 (SD1209, 第49・50図, 図版21)

C7地区中央に位置し、道路の側溝SD401に切られつつ並行して走る。最大幅は80cmで、深さは4cmである。埋土は黄褐色粘土が混じる暗褐色シルトの単層である。道路に関連する溝とみられるが、SD401からみると比較的浅いため、掘り直す前の側溝というより道路の路面の改修痕と考えられる。出土遺物は土師器の把手(301)1点と珠洲小片が数点ある。

#### 1370号溝 (SD1370, 第49・50・52図)

C7地区北側に位置し、SD401と並行して走る。検出面が削平を受けているため途切れがちであるがC3地区・C4地区のSD402の続きと考えられ、道路SF1の北側の側溝と推定される。最大幅は90cmで、深さは6cmである。埋土は暗褐色シルト混じりの黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘土混じりの暗褐色砂質ロームである。出土遺物はない。

#### 1413号溝 (SD1413, 第49・50図)

C7地区北側中央に位置する。南北方向の溝で、検出した長さは短く平面形はやや歪である。最大幅は42cmで、深さは12cmである。埋土は黄褐色粘土が混じる暗褐色シルトの単層である。

出土遺物は須恵器壺1点、中世土師器皿2点、珠洲小片2点である。

#### 1454号溝 (SD1454, 第49・50図)

C7地区中央やや東よりに位置し、SD1504から分岐する短い溝である。最大幅は23cmで、深さは5cmである。埋土はにぶい黄褐色粘土混じりの暗褐色シルトで単層である。

出土遺物は須恵器壺2点、中世土師器小片多数、珠洲甕1点である。

#### 1485号溝 (SD1485, 第49・50図, 図版21)

C7地区中央やや東よりに位置する。道路の側溝SD401から直角に分岐して南下し、南側のL字状に曲がる溝に接続する。L字状の溝の西側をSD1504としたが、一連の溝と考えられる。溝に囲まれた範囲内には軸方向を溝と同じくするSB26があり、建物を含む特定範囲を圍繞した区画溝の可能性もある。最大幅は58cmで、深さは13cmである。SK1445と重複するが、埋土の切り合いがなく同時期に埋められた可能性が高い。SK1445がSD1485に伴うものとするれば貯水槽等として設けられたものであろうか。

出土遺物は土師器・須恵器(302)・珠洲・鉄滓(58)である。土師器小片が多く、須恵器は杯2点、杯蓋2点、甕3点で、珠洲播鉢・鉄滓は各1点である。遺構の年代は、SD401に繋がり、SD1504と一連の遺構と考えられることから、12世紀後半～13世紀前半と推定する。

## 1504号溝 (S D1504, 第49・75図, 図版21)

C 7地区中央やや東よりに位置し、S D1485の続きとみられる。最大幅は95cmで、深さは10cmである。埋土の切り合いではS K1296・S E1299より古く、S K1296で13世紀前半の遺物が出土していることからS D1504の年代は12世紀後半～13世紀前半と推定される。またS B25の柱穴S P1424より古い。S K1445とは重複しているが切り合いはみられなかった。

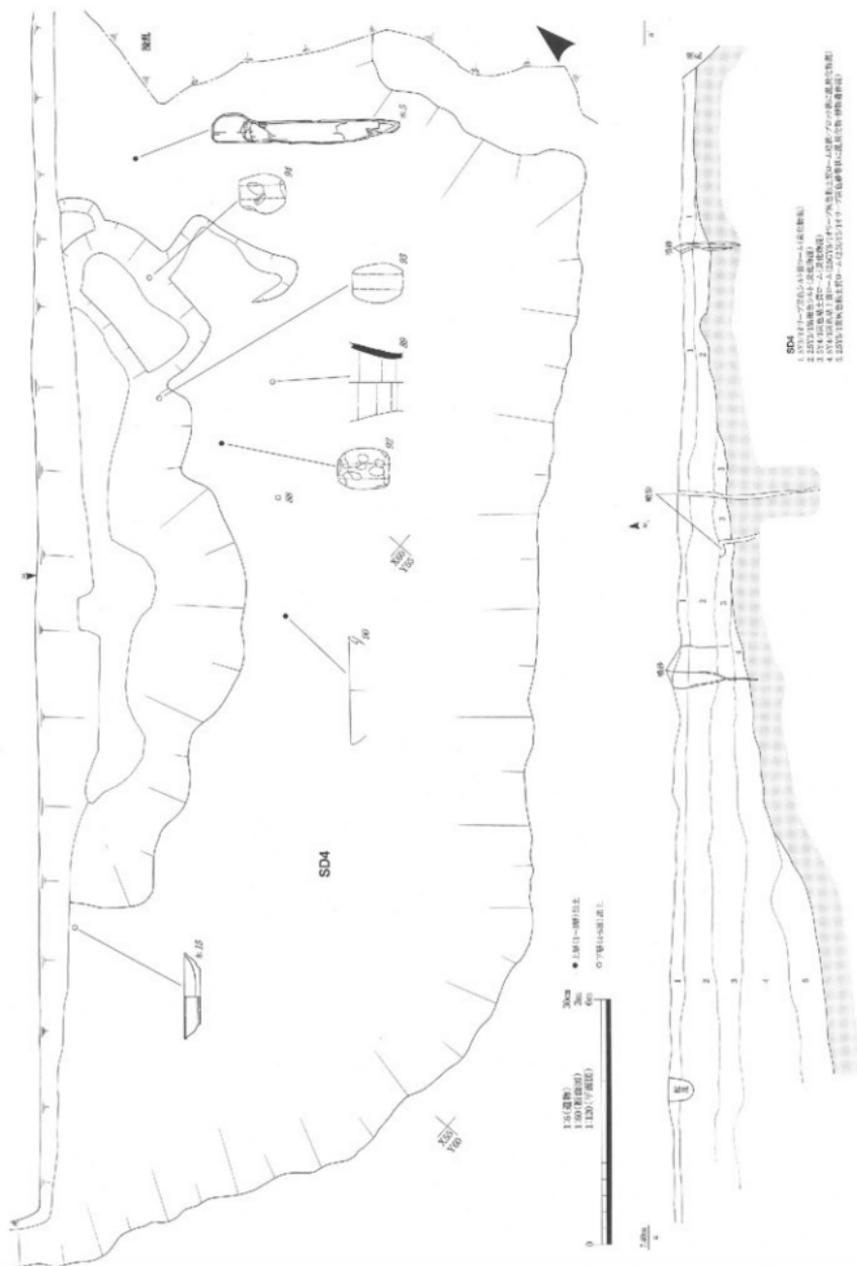
出土遺物は須恵器杯蓋(303)である。

## D 道路

## 1号道路 (S F 1, 第52・53図, 図版19)

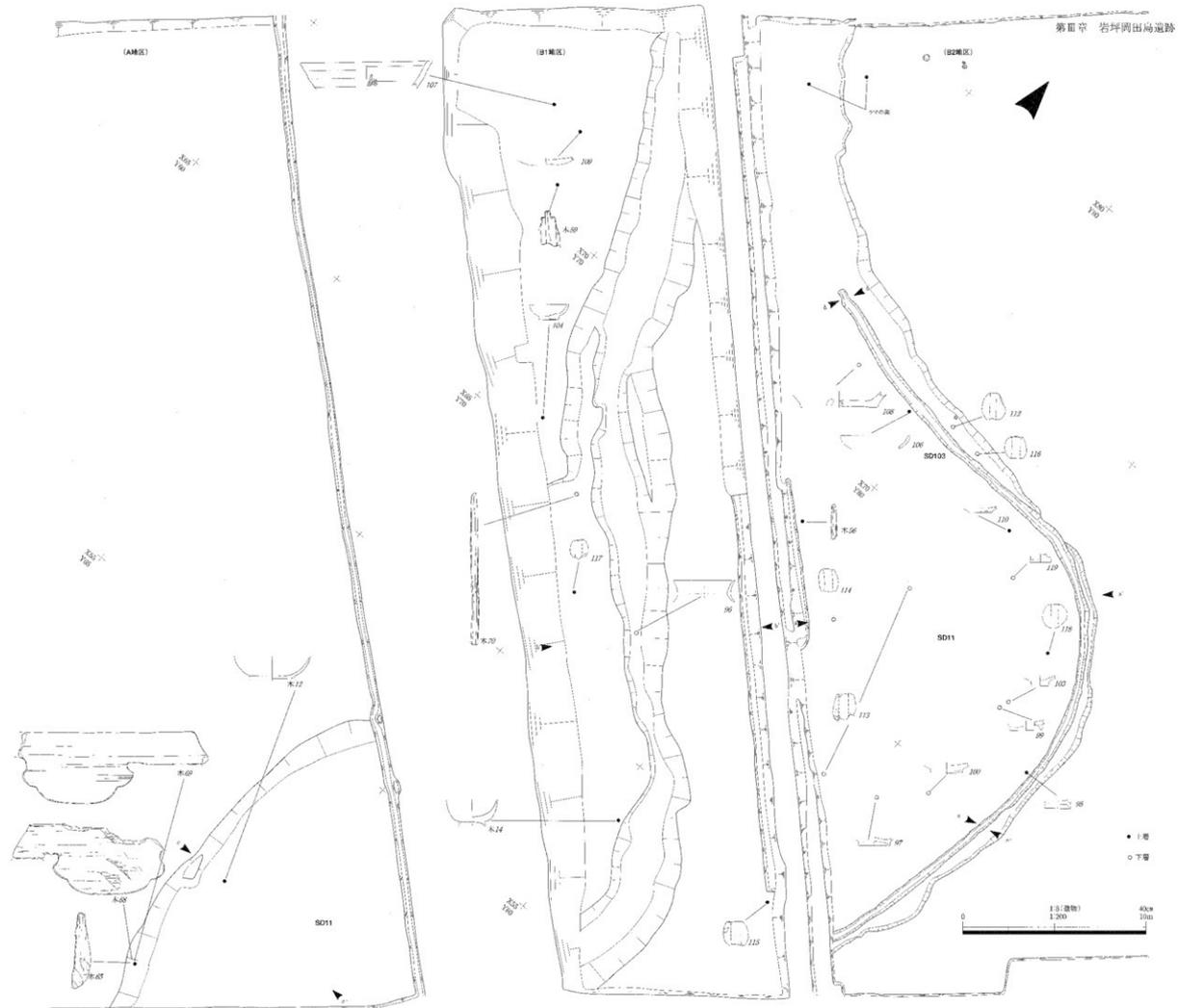
C 3地区からC 4・C 7地区に向かって続く道路である。最大幅は1.30mである。S D401・S D402・S D403・S D1370を側溝とする。北側の側溝は浅いが、南側の側溝は深くほぼ逆台形状に作られており水路としての機能も持っていた可能性がある。

路面は西側では波板状圧痕S D414～417・S D437・S D924・S D925があり、他に浅い土坑状のS K428・S K429も道路補修痕の可能性がある。東側では細かい自然礫を用いたバラスが検出され、路面補強のため敷かれたものと考えられる。路面直上では土師器・須恵器・中世土師器・珠洲の破片が数点出土した。S D401に沿う浅い溝S D1209は路面改修の痕跡と推測する。方向はおおよそN-70°-Wで、周辺の建物には軸方向に近いものが多い。また道路と重なる建物がないことから、周辺の開発に伴って建物群が道路S F 1の沿道に建築されていったものと推測される。道路の年代は側溝の遺物から、12世紀後半頃構築され、14世紀頃まで機能したものと考えられる。



第45図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図

SD 4



第46図 岩坪岡田島遺跡 中世遺構実測図  
SD11・SD103